

市内遺跡(出水城跡他)発掘調査等報告書

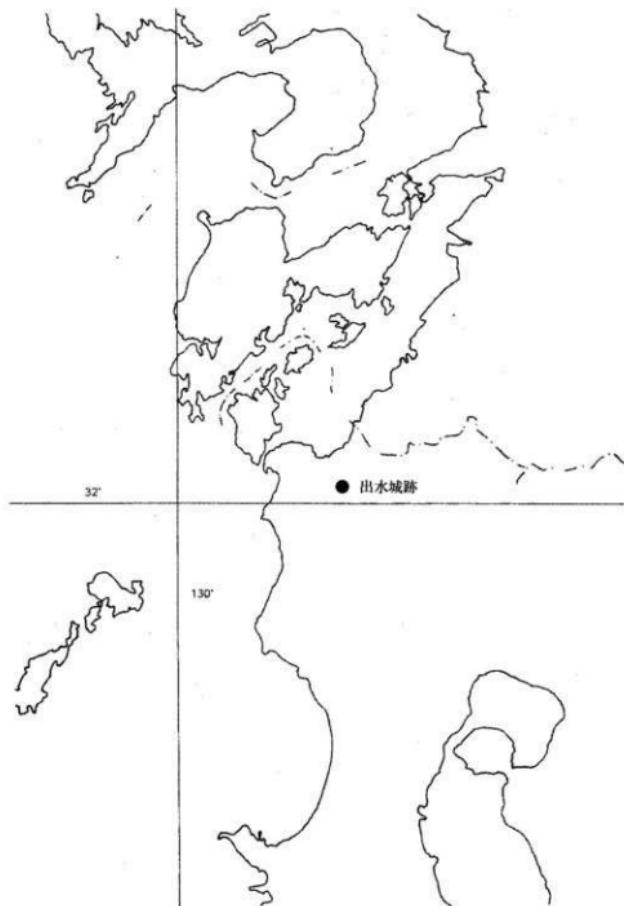
平成25～30年度の調査報告

2019年3月

出水市教育委員会



出水城跡と出水麓



付図 遺跡の位置

序 文

本書は、鹿児島県出水市教育委員会が平成 25～30 年度の 6 か年をかけて、国・県の補助を受けて実施した、出水市内遺跡の調査報告書です。

特に、平成 25 年度から 29 年度までの 5 年間継続して調査した出水市指定史跡である出水城跡（いずみじょうあと）は、現在の出水麓（国選定重要伝統的建造物群保存地区）に接し、出水麓の母体となった城です。今回の調査によって城の残存状況を把握することができ、土壘や空堀といった中世山城特有の遺構が良好に保存されていることがわかりました。

また、発掘調査では、中世後期を中心に建物跡や生活の跡を示す土器類が多く出土しました。

このことは、私たちの先祖が出水城を大切に守り続けてきた証です。

今後も出水城跡を未来に引き継ぐ大切な出水の歴史資産として守り伝えるために出水城跡の歴史的価値について調査を継続する必要があると考えております。

この報告書が、文化財の保護と学術研究のために広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、本調査に際して多大な御理解と御協力をいただきました地元住民の方々をはじめ、本報告書を作成するにあたって、御指導をいただきました諸先生ならびに関係各位に厚くお礼を申し上げます。

平成 31 年 3 月

出水市教育委員会

教育長 溝 口 省 三

報告書抄録

例　　言

- 1 本書は、鹿児島県出水市教育委員が平成 25～30 年度の 6 か年に、国・県の補助を受けて実施した、出水市内遺跡の調査報告書である。
- 2 発掘調査及び報告書作成は、出水市教育委員会が調査主体となって行い、平成 25 年～平成 28 年度までは生涯学習課 岩崎新輔が、平成 29 年度から所管が文化財課となり、同課橋元邦和が調査を担当した。
- 3 出水城跡の発掘調査全般について、三木靖氏（鹿児島国際大学名誉教授）、木島孝之氏（九州大学人間環境学研究院助教）に御指導を賜った。出土遺物については、上田耕氏（南九州市教育委員会）に御指導を賜った。
- 4 各調査の現場各種実測図、写真撮影は岩崎及び橋元が行った。また、報告書作成に係る遺物全点の実測図作成及び遺構・遺物実測図添書・写真撮影は橋元が整理作業員の協力を得て行った。本文の編集・執筆は、橋元が行った。
- 5 I 部出水城跡発掘調査編第 1 章の出水城跡地形測量平面図については、平成 25 年度から平成 27 年度まで株式会社みともコンサルタントに委託、平成 28 年度から平成 29 年度は関測建有限会社にそれぞれ委託し作成した。
- 6 I 部出水城跡発掘調査編第 4 章の自然科学分析については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行った。
- 7 本書のレベルはすべて海拔高である。
- 8 曲輪の名称は、出水郷土誌に基づき、A～I で表し、俗称のついている曲輪の名称は（ ）内に記載した。
- 9 本書では遺構のアルファベット表記は次の通りとする。
P：柱穴跡、小穴 SK：土坑
- 10 本書では遺物の成形調整方法については、カタカナで表記する。
- 11 本書に記載した遺物番号は通し番号とし、本文・挿図・写真図版に記した番号と一致する。
- 12 発掘調査で得た全ての成果については、出水市教育委員会で保管し、活用する。

本文目次

序文
報告書抄録
例言

第 I 部	出水城跡の発掘調査	1
第 1 章	調査の経緯	1
第 1 節	調査に至るまでの経緯	1
第 2 節	発掘調査の組織	1
第 3 節	日誌抄	3
第 2 章	遺跡の位置と環境	8
第 1 節	遺跡の位置	8
第 2 節	遺跡の環境	8
第 3 章	調査の概要	17
第 1 節	調査トレンチの設定	17
第 2 節	土層	17
第 3 節	曲輪 A (梅ヶ段) の調査	17
第 4 節	曲輪 B (水夫ヶ城) の調査	23
第 5 節	曲輪 C (小松ヶ城) の調査	36
第 6 節	曲輪 D (捨殿ヶ城) の調査	52
第 7 節	曲輪 F (住吉ヶ城) の調査	60
第 8 節	曲輪 G の調査	66
第 4 章	自然科学分析	70
第 5 章	総括	91
第 II 部	市内遺跡試掘・確認調査	93

挿図目次

付 図	遺跡の位置	34
第 1 図	周辺の遺跡	10
第 2 図	出水城跡地形測量 現況平面図	12
第 3 図	曲輪 A・B トレンチ配置図	13
第 4 図	曲輪 C・D トレンチ配置図	14
第 5 図	曲輪 F・G トレンチ配置図	15
第 6 図	曲輪 A・B・C・D・F・G 土層断面図	16
第 7 図	曲輪 A トレンチ検出図	19
第 8 図	曲輪 A 1・3 トレンチトレンチ検出図	20
第 9 図	曲輪 A 表～包含層出土遺物①	21
第 10 図	曲輪 A 表～包含層出土遺物②	22
第 11 図	曲輪 B トレンチ検出図	25
第 12 図	曲輪 B 1・2・3・4 トレンチ遺構 検出及び遺物出土状況	26
第 13 図	曲輪 B 5・6・8 トレンチ遺構検出図	27
第 14 図	曲輪 B 8 トレンチ縛集石	27
第 15 図	曲輪 B 表～包含層出土遺物①	28
第 16 図	曲輪 B 表～包含層出土遺物②	29
第 17 図	曲輪 B 表～包含層出土遺物③	30
第 18 図	曲輪 B 表～包含層出土遺物④	31
第 19 図	曲輪 B 表～包含層出土遺物⑤	32
第 20 図	曲輪 B 表～包含層出土遺物⑥	33
	第 21 図 曲輪 B 表～包含層出土遺物⑦	34
	第 22 図 曲輪 C 遺構検出図	37
	第 23 図 曲輪 C 1・2・4・5 トレンチ遺構検出 状況及び遺物出土状況	39
	第 24 図 曲輪 C 表～包含層出土遺物①	40
	第 25 図 曲輪 C 表～包含層出土遺物②	41
	第 26 図 曲輪 C 表～包含層出土遺物③	42
	第 27 図 曲輪 C 表～包含層出土遺物④	43
	第 28 図 曲輪 C 表～包含層出土遺物⑤	44
	第 29 図 曲輪 C 表～包含層出土遺物⑥	45
	第 30 国 曲輪 C 表～包含層出土遺物⑦	46
	第 31 国 曲輪 C 表～包含層出土遺物⑧	47
	第 32 国 曲輪 C 表～包含層出土遺物⑨	48
	第 33 国 曲輪 C 表～包含層出土遺物⑩	49
	第 34 国 曲輪 D 遺構検出図	54
	第 35 国 曲輪 D 1 トレンチ遺構検出状況及び 遺物出土状況	54
	第 36 国 曲輪 D 1 トレンチ青磁・土師器出土 状況概要図	55
	第 37 国 曲輪 D 1 トレンチ青磁集積遺構	55
	第 38 国 曲輪 D 1 トレンチ土師器集積遺構	55
	第 39 国 曲輪 D 表～包含層出土遺物	56

第 40 図	曲輪 D 表探出土遺物①	57	第 10 表	曲輪 D 出土遺物観察表	53
第 41 図	曲輪 D 表探出土遺物②	58	第 11 表	曲輪 F 出土遺物観察表	66
第 42 図	曲輪 D 表探出土遺物③	59	第 12 表	曲輪 G 遺構計測表	69
第 43 図	曲輪 F 表～包含層出土遺物①	61	第 13 表	曲輪 G 出土遺物観察表	69
第 44 図	曲輪 F 表～包含層出土遺物②	62	第 14 表	平成 24 年度市内試掘・確認調査一覧	94
第 45 図	曲輪 F 表～包含層出土遺物③	63	第 15 表	平成 25 年度市内試掘・確認調査一覧	94
第 46 図	曲輪 F 表～包含層出土遺物④	64	第 16 表	平成 26 年度市内試掘・確認調査一覧	95
第 47 図	曲輪 F 表～包含層出土遺物⑤	65	第 17 表	平成 27 年度市内試掘・確認調査一覧	95
第 48 図	曲輪 G 遺構検出図	67	第 18 表	平成 28 年度市内試掘・確認調査一覧	96
第 49 図	曲輪 G 1 トレンチ遺構検出図	68	第 19 表	平成 29 年度市内試掘・確認調査一覧	96
第 50 図	曲輪 G 1 トレンチ I 層・II 層出土遺物	69	第 20 表	平成 24～29 年度市内遺跡発掘調査 等事業一覧(1)	97
第 51 図	平成 24 年度市内試掘調査遺跡①	99	第 21 表	平成 24～29 年度市内遺跡発掘調査 等事業一覧(2)	98
第 52 図	平成 24 年度市内試掘調査遺跡②	100			
第 53 図	平成 24 年度市内試掘調査遺跡③	101			
第 54 図	平成 24 年度市内試掘調査遺跡④	102			
第 55 図	平成 24 年度市内試掘調査遺跡⑤	103			
第 56 図	平成 25 年度市内試掘調査遺跡①	104			
第 57 図	平成 25 年度市内試掘調査遺跡②	105			
第 58 図	平成 25 年度市内試掘調査遺跡③	106			
第 59 図	平成 25 年度市内試掘調査遺跡④	107			
第 60 図	平成 25 年・平成 26 年度市内 試掘調査遺跡	108	図版 1～図版 9	発掘調査ほか	125
第 61 図	平成 26 年度市内試掘調査遺跡①	109	図版 10～図版 17	出土遺物	134
第 62 図	平成 26 年度市内試掘調査遺跡②	110			
第 63 図	平成 26 年度市内試掘調査遺跡③	111			
第 64 図	平成 26 年・平成 27 年度市内 試掘調査遺跡	112			
第 65 図	平成 27 年度市内試掘調査遺跡①	113			
第 66 図	平成 27 年度市内試掘調査遺跡②	114			
第 67 図	平成 27 年度市内試掘調査遺跡③	115			
第 68 図	平成 27 年度市内試掘調査遺跡④	116			
第 69 図	平成 28 年度市内試掘調査遺跡①	117			
第 70 図	平成 28 年度市内試掘調査遺跡②	118			
第 71 図	平成 28 年度市内試掘調査遺跡③	119			
第 72 図	平成 28 年度市内試掘調査遺跡④	120			
第 73 図	平成 28 年・平成 29 年度市内 試掘調査遺跡	121			
第 74 図	平成 29 年度市内試掘調査遺跡①	122			
第 75 図	平成 29 年度市内試掘調査遺跡②	123			

図版目次

表目次

第 1 表	周辺の遺跡	11
第 2 表	曲輪 A 遺構計測表	18
第 3 表	曲輪 A 出土遺物観察表	18
第 4 表	曲輪 B 遺構計測表	24
第 5 表	曲輪 B 出土遺物観察表	35
第 6 表	曲輪 C 遺構計測表	37
第 7 表	曲輪 C 出土遺物観察表(1)	50
第 8 表	曲輪 C 出土遺物観察表(2)	51
第 9 表	曲輪 C 出土遺物観察表(3)	52

第Ⅰ部 出水城跡の発掘調査

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至るまでの経緯

市指定史跡『出水城跡』はこれまで良好に遺構が保存されていたが、自然災害により山城の一部が消失するなど、築城当時の姿を失いつつあった。また一方で、これまでに本格的な学術発掘調査は実施されておらず、どのような遺構が残存しているか詳細は不明であった。

これらのことから、早期に現地形（山城遺構）の測量図を作成することで記録保存し、同時に発掘調査を行い残存遺構の特徴を把握することで同城跡の学術的価値を高めることを目的として平成25年度から「市内遺跡（出水城跡）発掘調査等補助事業」を実施する計画を国及び県に申請した。申請は認められ、発掘調査等補助事業を遂行することとなった。

現地発掘調査及び報告書作成作業は、平成25年度から同30年度の6か年度で実施した。

第2節 発掘調査の組織

平成25年度 市内遺跡（出水城跡他）発掘調査

調査主体者 出水市教育委員会

調査責任者 タ 教育長 溝口省三

調査企画者 タ 教育部長 植村猛

タ タ 生涯学習課 課長 園畠正治

タ タ タ 主幹兼文化係長 内之浦昭

事務・調査担当 タ タ 主査 岩崎新輔

調査指導者 鹿児島国際大学短期学部 名誉教授 三木靖

発掘調査作業員 赤瀬川亜矢子 今林満義 海野正人 太田匡也 小田幸枝

田中宗恭 谷秀子 富永あゆみ 松下健次 松下良一 宮内博雄

山下正弘

整理作業員 山下正満

平成26年度 市内遺跡（出水城跡他）発掘調査

調査主体者 出水市教育委員会

調査責任者 タ 教育長 溝口省三

調査企画者 タ 教育部長 永江昭登

タ タ 生涯学習課 課長 園畠正治

タ タ タ 主幹兼文化係長 内之浦昭

事務・調査担当 タ タ 主査 岩崎新輔

調査指導者 南九州市教育委員会 主任主査 上田耕

発掘調査作業員 石井博昭 今林満義 江島康平 太田匡也 小田幸枝 柿原牧人

園田五月代 田中宗恭 中村憲博 松下良一 山下正弘 山下行弘

整理作業員 坂口健太郎 道上利枝子 宮内あり子 本村美智代

平成 27 年度 市内遺跡（出水城跡他）発掘調査

調査主体者 出水市教育委員会

調査責任者 タ 教育長 溝口省三

調査企画者 タ 教育部長 永江昭登

タ タ 生涯学習課 課長 盛正明

タ タ タ 主幹兼文化係長 内之浦昭

事務・調査担当 タ タ 主査 岩崎新輔

調査指導者 鹿児島国際大学短期学部 名譽教授 三木靖

発掘調査作業員 井口昇 石川和友 今村和美 植木園憲三 江島康平 川口涉

先崎正孝 濱上憲治 松下伍夫 宮田浩二 村上一夫

整理作業員 崎口優花 市来喜美 道上利枝子 宮内あり子

平成 28 年度 市内遺跡（出水城跡他）発掘調査

調査主体者 出水市教育委員会

調査責任者 タ 教育長 溝口省三

調査企画者 タ 教育部長 岩本亮二

タ タ 生涯学習課 課長 盛正明

タ タ タ 参事 内之浦昭

事務・調査担当 タ タ 主査 岩崎新輔

調査指導者 九州大学人間環境学研究院 助教 木島孝之

発掘調査作業員 市森重光 井手口満樹 今川清一 小野信一 川涯剛 崎元忠彦

迫田節子 潤野浦齊晃 寺薗克

整理作業員 西俣みゆき 江島康平 嶽本喜治 中嶋勝志

平成 29 年度 市内遺跡（出水城跡他）発掘調査

調査主体者 出水市教育委員会

調査責任者 タ 教育長 溝口省三

調査企画者 タ 教育部長 岩下美和

タ タ 文化財課 課長 内之浦昭

タ タ タ 文化財係長 岩崎新輔

事務・調査担当 タ タ 主査 橋元邦和

調査指導者 九州大学人間環境学研究院 助教 木島孝之

発掘調査作業員 大流ひろ 堤富子 寺地菊郎 中俣勝 花田大地 福田やよい

松竹麻由 松下悟夫 彌榮博光 山村清美 湯田良孝

整理作業員 市来喜美 道上利枝子 宮内あり子 山村清美

平成 30 年度 市内遺跡（出水城跡他）発掘調査

調査主体者 出水市教育委員会

調査責任者	タ	教	育	長	溝	口	省	三
調査企画者	タ	教	育	部	長	岩	下	美
	タ	文化財課	課	長	内之浦	昭		
	タ	タ	文化財係	長	岩崎	新輔		
事務・調査担当	タ	タ	主	査	橋	元邦	和	
調査指導者	文化庁文化財第2課埋蔵文化財部門	文部科学技官	川	烟	純			
タ	鹿児島県教育庁文化財課	文化財主事	森	幸一郎				
整理作業員	市來喜美 嶽本善治 牧貴子							

発掘調査及び本報告書作成にあたり、多くの諸機関並びに諸氏に御協力と御指導をいただいた。以下に芳名を記し、ここに感謝の意を表する次第である。(敬称略、五十音順)

有川 孝行、中村 和美、肱岡 隆夫

鹿児島県教育庁文化財課 鹿児島県立埋蔵文化財センター 南九州城郭談話会

第3節 日誌抄

調査の経過を年度ごとに週単位で略述する。

平成 25 年度

[2月 13 (木) ~ 14 (金)]

曲輪A（梅ヶ段）内、出水郷土誌に記述のある礎石を確認するため、落葉、倒木を撤去。地表面を露出させる。曲輪縁辺部で礎石らしき礫を1点検出。

[2月 17 (月) ~ 21 日 (金)]

曲輪A（梅ヶ段）内の樹木空白地に2箇所、礎石らしき礫検出地点横の1箇所、それぞれ4×2メートルのトレンチを設定し人力にて掘り下げ。曲輪A（梅ヶ段）曲輪東角部付近の染付等遺物散布が見られる地点に8×2メートルで4トレンチを設定。1トレンチ掘下げ中にピット検出。3トレンチから土坑状部分3箇所検出、写真撮影を行う。

[2月 24 日 (月) ~ 28 (金)]

曲輪A（梅ヶ段）内1トレンチ遺構精査。3トレンチ土坑状部分遺構精査。1・2・3トレンチ土層断面図及びトレンチ配置図作成。4トレンチI層～II層掘り下げ。I層から古銭7枚が重なったままの状態で出土。II層にて焼土及び炭化物の散布が見られる方形状の遺構を検出。トレンチ配置図作成及び遺構検出状況平板実測。

曲輪B（水夫ヶ城）の上段曲輪の礫検出附近に1トレンチを9×5メートルで設定。2トレンチを隅櫓跡の西側に4×2メートルで設定。1・2トレンチ人力にて掘り下げ。市生涯学習課、出水市歴史民俗資料館肱岡隆夫氏来跡。

[3月3日（月）～7（金）]

三木靖氏現地指導。曲輪B（梅ヶ段）1・3トレンチ遺構検出状況平板実測図作成。1トレンチ柱穴跡、実測図作成。4トレンチ土層断面図作成後、写真撮影を行い、保護シートで覆い埋め戻し。

曲輪B（水夫ヶ城）1トレンチI層掘り下げ。根石らしき礫2点出土。この層で一旦遺構検出を行うため、I層遺物出土状況を写真撮影後、一括取上げ。その後、礫が列状に検出される。2トレンチのシラス上面にて遺構検出。遺構検出状況写真撮影。

曲輪B（水夫ヶ城）、石積が露出する場所にトレンチを設定し人力にて表土除去。礫検出面写真撮影。

出水市歴史民俗資料館肱岡隆夫氏、出水中学校1年生34人来跡。

[3月10日（月）～13日（木）]

曲輪B（水夫ヶ城）1・2トレンチ人力にて掘り下げ。1・2・石積トレンチ配置図作成。曲輪B（水夫ヶ城）1トレンチ遺物出土状況及び遺構出土状況写真撮影。遺構の簡易測量図作成後シートにて被覆する。水夫ヶ城2トレンチ炭化物とATバミスサンプリング。同状況写真撮影。土坑に土壌を埋設して保護シートを被せ埋め戻し。曲輪B（水夫ヶ城）石積トレンチ人力にて掘り下げ。ミニトレンチ土層断面写真撮影後、シートにて被覆する。機材撤収し25年度調査終了。

平成26年度

[11月11日（火）～14日（金）]

曲輪B（水夫ヶ城）1トレンチ石列遺構の延長部分検出のため、トレンチ南側縁辺部を任意に拡張し、人力にて掘り下げ。石列遺構延長推定部、ピンボールボーリングで反応があった地点を中心に3.7メートル×0.4メートルで拡張し、人力にて掘り下げ。曲輪B（水夫ヶ城）上段下位の中段とされる曲輪内のほぼ中心に3トレンチを7メートル×1.5メートルで設定。人力にて掘り下げ。曲輪B（水夫ヶ城）大凹地の南東方向の樹木空白地に4トレンチを4メートル×2メートルで設定。人力にて掘り下げ。表土から唐草文が入る軒平瓦と見られる瓦片採集。曲輪B（水夫ヶ城）上段、虎口と思われる地点に5トレンチを5.5メートル×1メートルで設定。人力にて掘り下げ。根石状礫が2～3点出土。曲輪B（水夫ヶ城）大凹地にサブトレンチ0.5メートルで設定。

[11月17日（月）～21日（金）]

曲輪B（水夫ヶ城）3トレンチI層オチコミ遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。土層分層後に写真撮影。礫検出地点を中心に半径2メートル内を拡張。人力にて掘り下げ。拡張部の遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。曲輪B（水夫ヶ城）4トレンチI層掘り下げ。I層遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。II層からキセルと思われる緑サビに覆われた金属品半欠出土。II層遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。トレンチ中央部に柱痕跡のある柱穴とトレンチ西縁辺に同様の柱穴跡と思われる地点があることから、4トレンチを北西部に拡張し、掘り下げ。曲輪B（水夫ヶ城）5トレンチI層遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。トレンチ中央付近で焼土を伴う黒茶色の部分を検出したため、トレンチを拡張する。5トレンチ中央部、土坑状遺構検出後、写真撮影。曲輪B（水夫ヶ城）3トレンチ東方に6トレンチを3メートル

× 3 メートルで設定し、人力にて掘り下げ。I 層遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。るっぽ土師器出土。曲輪B（水夫ヶ城）中段から上段へ上がる現在の通路上に7トレンチを4メートル×2メートルで設定し、人力にて掘り下げ。通路らしき遺構確認できず。完掘後埋戻し。曲輪B（水夫ヶ城）1トレンチ西側の曲輪っぽ中央部に8トレンチを13m×8メートルで設定。3・4・5・6・7トレンチ、大凹地の配置図作成。

[11月25日（火）～28日（金）]

曲輪B（水夫ヶ城）3トレンチ拡張にて柱穴らしき遺構を確認したため、更に拡張部を東側にも設定し掘り下げ。遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。II層上面遺構検出作業。同状況写真撮影。曲輪B（水夫ヶ城）4トレンチ、拡張部II層遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。遺構検出作業。柱痕跡と思われるピット3基検出。曲輪B（水夫ヶ城）5トレンチ土坑状遺構実測。曲輪B（水夫ヶ城）6トレンチII層掘り下げ。北東部角部の炭化物集中地点に配石礫2点を検出したため周辺を清掃。炭化物集中地点を拡張し、掘り下げ。拡張部II層遺物出土状況写真撮影後、一括取上げを行い、II層及び炭化物集中地点精査。曲輪B（水夫ヶ城）8トレンチ表層からI層人力にて掘り下げ。水夫ヶ城大凹地追加掘り下げ。南九州市教育委員会上田耕氏現地指導。

[12月1日（月）～5日（金）]

曲輪B（水夫ヶ城）1トレンチ石列遺構埋め戻し。曲輪B（水夫ヶ城）3トレンチから柱痕跡2基検出。同状況写真撮影。東壁と土層断面図作成及び遺構検出状況平板実測。曲輪B（水夫ヶ城）4トレンチ南壁面土層断面図作成及びAT上面遺構検出状況平板実測。曲輪B（水夫ヶ城）5トレンチ南壁面土層断面図作成。4・5トレンチ埋め戻し。曲輪B（水夫ヶ城）6トレンチII層遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。II層遺構検出状況写真撮影。曲輪B（水夫ヶ城）8トレンチI～II層掘り下げ。曲輪B（水夫ヶ城）大凹地サブトレンチ完掘。写真撮影。

[12月8日（月）～9日（火）]

曲輪B（水夫ヶ城）6トレンチ炉跡C14サンプリング。同状況撮影後、遺構検出状況平板実測。南壁面土層断面図作成。遺構面を土糞で覆いメッシュシート被覆後、埋め戻し。曲輪B（水夫ヶ城）8トレンチI～II層遺物出土状況撮影後、平板実測後取上げ。遺構面清掃後、シートで被覆する。水夫ヶ城大凹地サブトレンチ埋め戻し。機材撤収し、平成26年度調査終了。

平成27年度

[11月19（木）～20日（金）]

曲輪B（水夫ヶ城）8トレンチ保護シート除去後、人力にて掘り下げ。II層遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。トレンチ西側端部III層にて人頭大～拳大の礫が列状に検出。

[11月24日（火）～27日（金）]

曲輪B（水夫ヶ城）8トレンチII下層～III上層掘り下げ。遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。遺構精査。曲輪C（小松ヶ城）、曲輪D（捨殿ヶ城）への通路整備。

[11月30（月）～12月4日（金）]

曲輪B（水夫ヶ城）8トレンチ疊集中遺構実測図作成及び写真撮影。北西壁面土層断面図作成。曲輪C（小松ヶ城）、曲輪D（捨殿ヶ城）通路環境整備。曲輪C（小松ヶ城）1トレンチを5メートル×1.5メートルで設定し人力にて掘り下げ。疊が表土に露出しているトレンチ北西側を拡張し掘り下げ。I層遺物出土状況及び疊検出状況写真撮影。疊は動いていると判断し、全撤去。曲輪C（小松ヶ城）2トレンチを6メートル×2メートルで設定し人力にて掘り下げ。I層遺物出土状況写真撮影後、遺物は平板・レベル記録後、取上げ。栗石と思われる疊がビットを伴う状況で検出。曲輪C（小松ヶ城）3トレンチを2トレンチ北側の虎口上位付近に4メートル×2メートルで設定し人力にて掘り下げ。曲輪D（捨殿ヶ城）1トレンチを4メートル×2メートルで設定し人力にて掘り下げ。I層遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。曲輪C（小松ヶ城）曲輪の上位と下位とに分けられる斜面の覆土を一部除去。曲輪D（捨殿ヶ城）曲輪上段と下段の斜面の覆土除去。巨疊や瓦質器片が見られる。

[12月7日（月）～11日（金）]

曲輪C（小松ヶ城）1トレンチI層掘り下げ。I層遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。II層掘り下げ。

曲輪C（小松ヶ城）2トレンチIII層遺構検出面精査、遺構検出状況写真撮影。水糸を設定し半掘確認。曲輪C（小松ヶ城）3トレンチにオチコミ部を確認、幅50センチのミニトレンチで掘り下げ。北側地盤傾斜地下端部で柱穴と思われるビット検出。門跡の可能性があることから2間間隔になる南側にトレンチを拡張し人力にて掘り下げ。拡張部から栗石とビット検出。

曲輪D（捨殿ヶ城）1トレンチI層掘り下げ、硬化面検出。遺構精査後、検出状況写真撮影。硬化面平板実測。遺物平板レベル実測後、取上げ。硬化面下II層掘り下げ。青磁碗出土。出土状況実測。同状況写真撮影。曲輪D（捨殿ヶ城）上段から下段斜面部の上端表土除去。奈良火鉢や瓦、大型添え付け土器の底部などを採取。三木靖氏現地指導。

[12月14日（月）～18日（金）]

曲輪B（水夫ヶ城）8トレンチ埋め戻し。曲輪C（小松ヶ城）1トレンチI下層遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。II層遺構上面精査。III層上面遺構精査。広く浅いオチコミ状況写真撮影。平板実測。南・西壁土層断面図作成後、埋め戻し。曲輪C（小松ヶ城）2トレンチ遺構半堀作業後、写真撮影。遺構検出状況、遺物出土状況平板実測図作成及び東壁土層断面図作成後、遺構を保護し埋め戻し。曲輪C（小松ヶ城）3トレンチ遺構精査。遺構検出状況写真撮影後コンパネ、ブルーシートで保護。曲輪D（捨殿ヶ城）1トレンチ土師器出土状況実測図作成。同写真撮影。柱穴及び杭跡状のビット検出。遺構面を精査。硬化面、造成土面、遺構検出状況写真撮影後、平板実測。南・西壁土層断面図作成後埋戻し。機材撤収し平成27年度調査終了。

平成28年度

[11月17日（木）～18日（金）]

曲輪C（小松ヶ城）上段、昨年フイゴ羽口を表探した地点に4トレンチをL字に設定、人力にて掘り下げ。表土中の遺物一括取上げ。県文化財課黒川氏、県埋蔵文化財センター樋口氏来跡。

[11月21日（月）～25日（金）]

曲輪C（小松ヶ城）4トレンチI層掘り下げ、I層上層遺物出土状況撮影後一括取上げ。地層確認サブトレンチ2箇所設定。西部を先行試掘。サブトレンチ1から深いオチコミ検出。曲輪C（小松ヶ城）5トレンチ、4トレンチの南側に曲輪を東西に横断する形で10メートル×12メートルで設定、人力にて掘り下げ。I層遺物出土状況写真撮影後、一括取上げ。II層遺構精査。

[11月28日（月）～30日（水）]

曲輪C（小松ヶ城）4トレンチ内のサブトレンチ1の段差状遺構検出状況撮影。同状況平板実測後、土囊で遺構を保護し埋め戻し。曲輪C（小松ヶ城）5トレンチI下層掘り下げ遺構精査。トレンチ北側で炭化物集中地点の下位30センチにて方形土坑状の黒色土帯検出。同状況写真撮影後、平板実測。北壁土層断面図作成し埋め戻し。機材撤収し、平成28年度調査終了。

平成29年度

[12月4日（月）～8日（金）]

曲輪Gに平坦地中央部の樹木空白地帯を清掃後、13メートル×1.5メートルで1トレンチを設定し人力にて掘り下げ。表土から白磁、染付出土。III層上面で柱穴と思われるビット確認、トレンチ東側にビットが集中するため、1トレンチ東側、南北に4メートル×2メートルで拡張し掘り下げ。I層遺物出土状況写真撮影後一括取上げ。ビット段掘りにて精査後、トレンチ東側3箇所、西側1箇所を柱穴と判断。清掃後、遺構配置状況写真撮影。曲輪F（住吉ヶ城）通路環境整備。出水市歴史民俗資料館肱岡隆夫氏、文化財課職員来跡。

[12月11日（月）～15日（金）]

曲輪G1トレンチ遺構配置図作成後、同状況写真撮影。東・南壁土層断面図作成後、埋め戻し。曲輪F（住吉ヶ城）の1トレンチを礎石と思われる石が露出している付近に12.5メートル×1.5メートルで設定し、人力にて掘り下げ。礎石らしき礎盤がII層上面から検出されたため、トレンチを東側に12.5メートル×2メートル拡張し掘り下げ。ブロック状に固くしまる地点が見られる。同箇所平板実測及び写真撮影。柱穴と思われるビットを段掘りしたが柱穴にならず。西壁土層断面図作成後及び写真撮影後埋戻し。出水龍歴史館職員4人来跡。機材撤収し、平成29年度調査終了。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

今回調査した出水城跡は出水市麓町に所在する。

遺跡の所在する出水市は、鹿児島県の最北端に位置し、熊本県水俣市に接する県境の市である。

北東部は、矢筈岳（687m）を中心に輝石安山岩を岩盤とする肥薩山塊がほぼ東西方向に走り、熊本県水俣市及び鹿児島県伊佐市と接する。

南部は、紫尾山（1,067m）を主峰とする四万十層群と一部花崗閃緑岩よりなる紫尾山地がほぼ南北方向に走り、薩摩郡さつま町及び薩摩川内市と接する。紫尾山は、北薩一の高峰である。

この紫尾山地と、出水平野との境の断層崖下には、シラス台地と高位段丘がある。これに続く大野原町・高尾野町・野田町の一帯は、洪積台地の扇状地で広大に広がっている。この扇状地を囲むように、河岸段丘と沖積地が発達している。

矢筈山地に源を發した米ノ津川と、紫尾山地を源とする平良川は、中流域で合流し、北流して八代海に注ぐ。

平良川及び米ノ津川の左岸には、知識面と呼ばれる河岸段丘が扇状地をとりまくように細長く形成され、中流域では米ノ津面と呼ばれる沖積地が発達する。

なお、下流域では三角洲や海岸平野となり八代海となるが、海岸部は江戸時代以後干拓が行われ、現況の地形を呈す。

西部は、扇状地及び高尾野川、野田川、岩下川（西目川）によって形成された河岸段丘や沖積地で、阿久根市と境を接する。

北西部は、遠浅の八代海を距てて、出水郡長島町及び熊本県の天草諸島を望むことができる。八代海では遠浅を利用した浅草のりの養殖が盛んであり、また、冬には季節風をいっぱいにはらんだ白い帆のけたうたせ船がクマエビ漁にいそしみ、荒崎の干拓地には、冬の使者、ナベヅル・マナヅルらがシベリアからの長旅を癒すように群舞している。

出水城は、出水市麓町1574番1を中心所在する。出水城跡は、北部を米ノ津川、西部を平良川が流れる合流地点に突き出るように位置した標高約50メートルから90メートルのシラス台地が侵食によって残された丘陵地を利用し、城郭を形成している。出水城の北東部の裾野、標高約30メートルから45メートルには、17世紀初頭から整備された薩摩の外城の一つである出水籠が広がる。

第2節 遺跡の環境

出水地方は、早くから考古学・古代学・歴史学研究のフィールドとして、学術上重要な地として注目されてきた。

出水市の東部、伊佐市、水俣市と接する標高約500mの上場高原一帯は、旧石器時代遺跡が集中し、特に上場遺跡は、姶良テフラ（約2.4万年前）を境に爪形文土器と細石器の共伴やナイフ形石器、台形石器等を包含する7時期の文化層の存在が明らかになった。隣接する伊佐市日東には、黒曜石原産地が所在する。

縄文時代遺跡の立地は、主に扇頂部及び扇端部の河岸段丘や山麓縁辺、裾部に集中している。

早・前・後期の牟田尻遺跡、カラム追跡、中尾Ⅰ・Ⅱ遺跡などがあり、前期の莊貝塚、中期の柿内遺跡や江内貝塚、後期の出水貝塚、晩期の沖田岩戸遺跡、大坪遺跡などがある。

特に出水貝塚は大正9年、京都大学によって本県で最初の貝塚遺跡調査が行われ、戦後の調査によって貝塚下から早期押型文土器が出土し、貝層中及び貝層上部から中・後期の土器(南福寺式土器・出水式土器)などが出土するほか、埋葬人骨も計7体確認されている。また、江内貝塚でも中期を中心とする遺物や埋葬人骨が出土している。

縄文晚期遺跡では、沖田岩戸遺跡、尾崎B遺跡、大坪遺跡などがあり、いずれの遺跡も発掘調査が行われ、出水地方の考古学研究に大きな成果をあげている。

弥生時代遺跡としては、堂前遺跡や下高尾野遺跡があり、これらの遺跡により、弥生時代中期の覆石墓から後期の葺き石土壙墓、さらに古墳時代の地下式板石積石室へと移行する埋葬形態の変遷を知ることができる。弥生時代終わりころの埋葬跡では、箱式石棺の形態を持つ石棺が境町切通に出現する。

古墳時代になると、洪積台地縁辺に位置する、短甲が出土した溝下遺跡(溝下古墳群)や、八代海と東シナ海をつなぐ黒ノ瀬戸海峡によって隔てられた長島には、5世紀から7世紀にかけて高塚古墳が出現する。

出水の地名が文献資料にあらわされるのは、続日本記の宝亀9年(778年)11月の条に遣唐船が出水海岸に漂着、その後和名抄には「伊豆美」とあり、建久団田帳に「和泉郡」として登場する。平安時代には、「院」が成立し山門院となり和泉郡から独立して莊園化し、島津荘の成立と共に吸収される。その後、守護被官本田氏一族の所領に組み込まれ、やがて島津用久が薩摩州家を興す(1425年)と共に莊園は崩壊する。また、島津忠久が元暦2年(1185年)に島津荘下司職に補任され、忠久は木牟礼城に守護被官本田貞親を入部させ、木牟礼城は五代貞久まで薩摩国守護所として守護勢力の拠点となる。

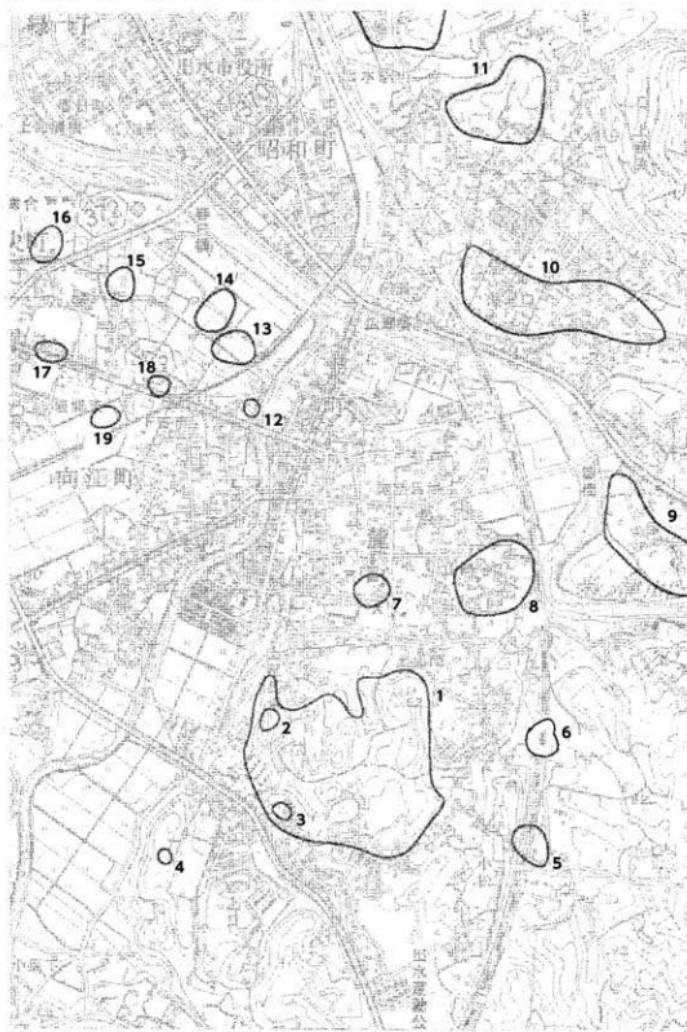
藩政期に入ると、島津家の外城制度の下に藩境地としての政治的要所の性格を強め、藩内外から派遣された郷士が居を構える。そして、県内でも最大規模の武家屋敷等の集中地である「麓」を形成するに至った。いわゆる出水市麓町の麓地区は、出水市街地の南部一帯に所在し、地区内の道路は格子状に整然と区画され、各家々の周りには石垣・生垣が巡らされ、敷地内には畑を広くとるなどして作られており、町の一区画ごとが「砦」や「廓(曲輪)」のような性格を持っており、「麓」の歴史的な背景を裏付けるものである。また、野田町上名の熊陣地区(地蔵・大日・天神・仮屋集落)にも藩政期の石垣や武家門など、当時の面影を現在に残すところもある。

出水郷土誌によると、建久八年(1197)の「薩摩国団田帳」に、「出水郡350町、下司和泉小大夫兼保」とまた、「兼保は建久年中亀ヶ城を築いてこれに拠る」とある。

「伴系和泉氏系図」中、文保元年(1317)鎌倉末期の交名では、下司団書入道(惣領 和泉保連)亀ヶ城とあり、永享10年(1438)「旧記雜錄前編37 福昌寺仏殿造営勧進文名には、和泉沙弥光朝 亀ヶ城とある。その後については、出水龍光寺所蔵本「薩摩家墓所由緒」によると「阿久根・野田・高尾野・出水四ヶ城を討ち、現在の亀ヶ城の本丸である水府ヶ城(水府)を築いて、これに入ったのは享徳2年(1453)でありそして自ら出水薩摩と号した。」とあり、以後薩摩家7代忠辰(慶長2年(1597)没)までの拠点であった。

出水城との関連の記述は見当たらないが、和泉荘の統治について若干述べると、文永4年(1267)に島津忠時が二男である大炊助長久に和泉荘・伊集院・給黎院・頴娃郡・満家院を与えていた(『島津忠時置文案一島津家文書』)。その後、大炊助長久に実子がなく、地頭職は4

代忠宗（1251～1325）に帰属し、忠宗は文保2年（1318）に二男実忠に和泉荘・満家院・日置南郷・給黎院・頴娃郡の地頭を与えていた。実忠は、後の忠氏で和泉氏を称し南北朝初期には、伴姓和泉氏と共に武家方に帰属するも観応の政変（1349～1352）にて佐殿方に属し、その一族は豊後に移ったとある。（出水郷土誌）



第1図 周辺の遺跡

S=1/14,000

第1表 周辺の遺跡

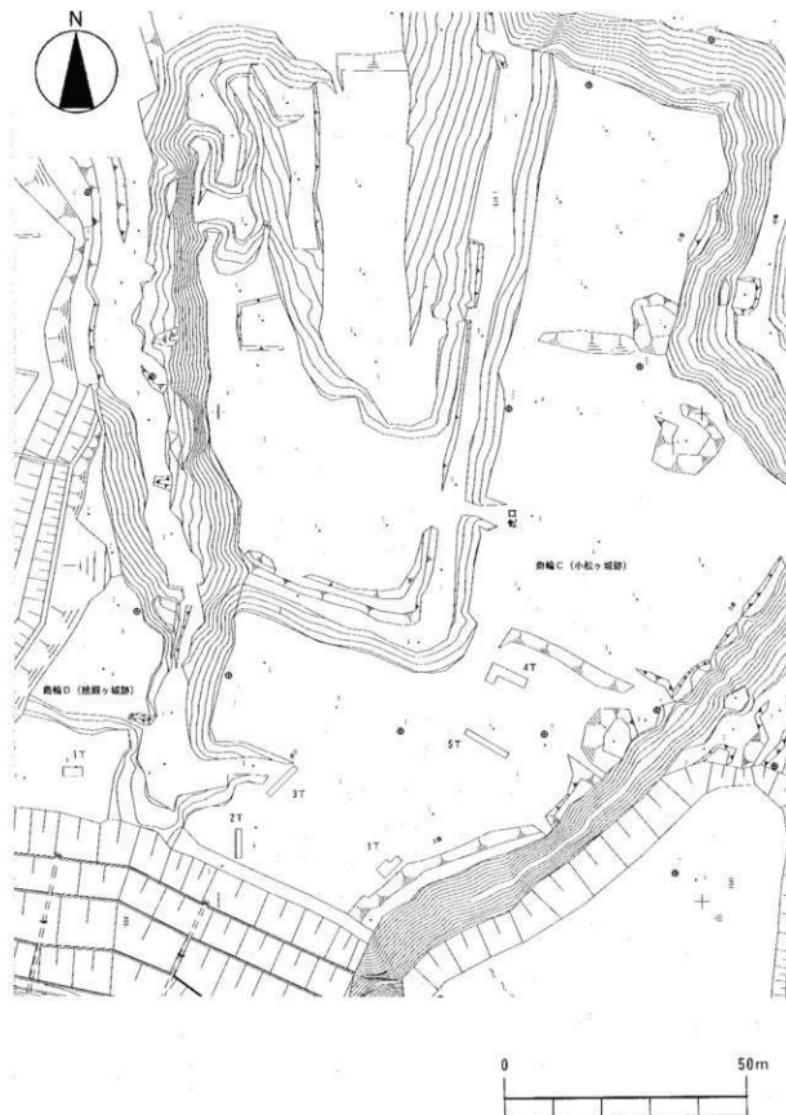
番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺構、遺物等	調査年等
1	出水城跡	龍町1574-11ほか 〔指定〕 龍町 〔字花見ヶ城ほか〔縄張〕〕	丘陵地	中世	指定名称「城山(亀ヶ城・花見ヶ城)」空堀、腰郭、大手堀め手、和泉氏、肝付氏、島津氏居城	平成25~29年度発掘調査
2	見性庵跡	龍町 〔字花見ヶ城〕	丘陵地	室町		
3	大通寺跡	武本字西ノ口	丘陵地	室町		平成13年 分布調査
4	龍光寺跡	武本字西ノ口追	丘陵地	室町~明治3		
5	小松	武本字小松	丘陵地	縄文	黒曜石	H10年確認調査
6	松ヶ迫	武本字松ヶ迫	丘陵地	旧石器~縄文	石器	平成15年確認、 同17年全面調査
7	出水麓	龍町 〔字麓〕	台地	中世~近世	地頭館跡、ビット、陶磁器	平成20年度 市内分布調査
8	水天上	龍町 〔字水天ノ上〕	台地	縄文、古代、 近世	土器、黒曜石、土師器	平成20年度 市内分布調査
9	鯖淵	上鯖淵字鯖淵	河岸段丘	縄文、中世	押型文、黒曜石、青磁	平成12年度 農政分布
10	井手ノ原	上鯖淵字井手ノ原	河岸段丘	縄文、古墳	土器	平成20年度 市内分布調査
11	太田城跡	上鯖淵字多宝寺ほか	丘陵地	中世	水の手	平成23年度 確認調査
12	専修寺跡	向江町 〔字専修寺〕	河岸段丘	室町~明治3		平成20年度 市内分布調査
13	内城跡	中央町 〔字調所丸、字田中ほか〕	河岸段丘	中世	平城氏居城	平成19年度 市内分布調査
14	田中	中央町 〔字田中、字三光院〕	河岸段丘	弥生	弥生土器、須恵器	平成15年度 確認調査
15	成願寺	中央町 〔字成願寺〕	河岸段丘	弥生~古墳 安土桃山	箱式石棺、土師器、須恵器	平成19~22年度 発掘調査
16	壱町樋	中央町 〔字一町樋〕	河岸段丘	古墳	土器	平成20年度 市内分布調査
17	天神原	中央町 〔字天神原〕	台地	古墳	土器	平成20年度 市内分布調査
18	成願寺跡	中央町〔字伝法屋敷〕	台地	安土桃山~ 近世		平成20年度 市内分布調査
19	並松	中央町 〔字並松〕	台地	古墳、古代	土器	平成20年度 市内分布調査

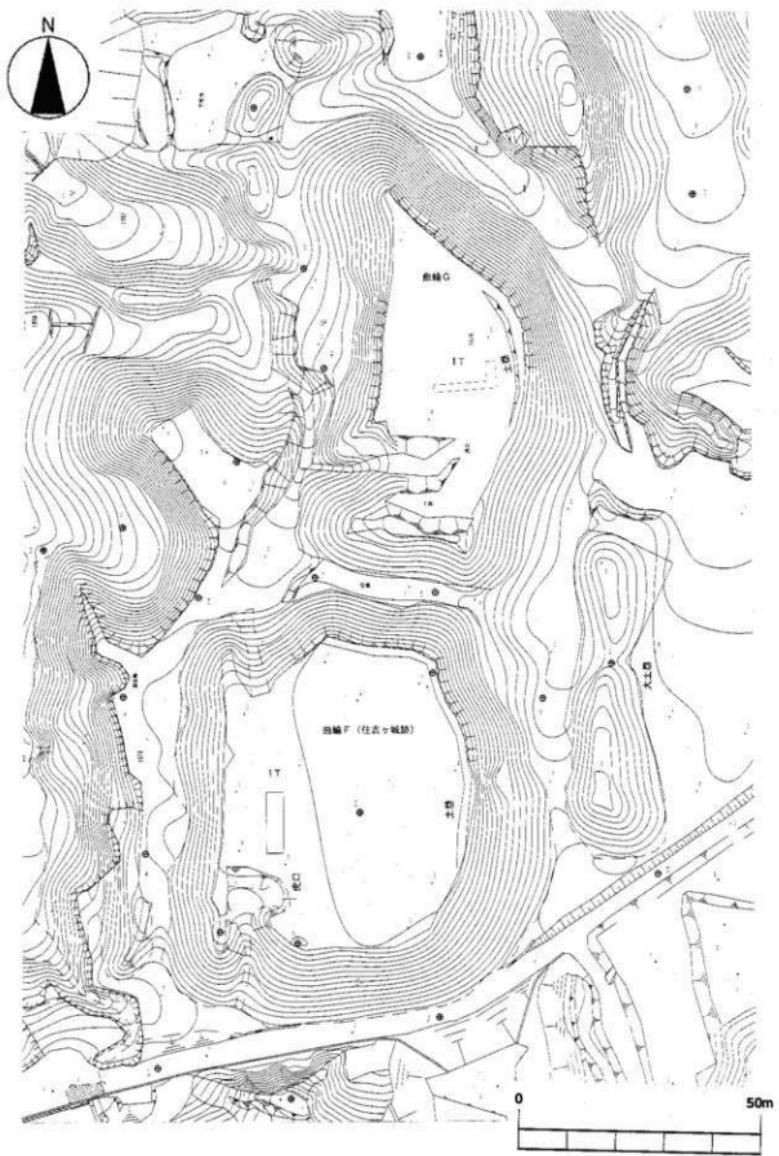


第2図 出水城跡地形測量 現況平面図

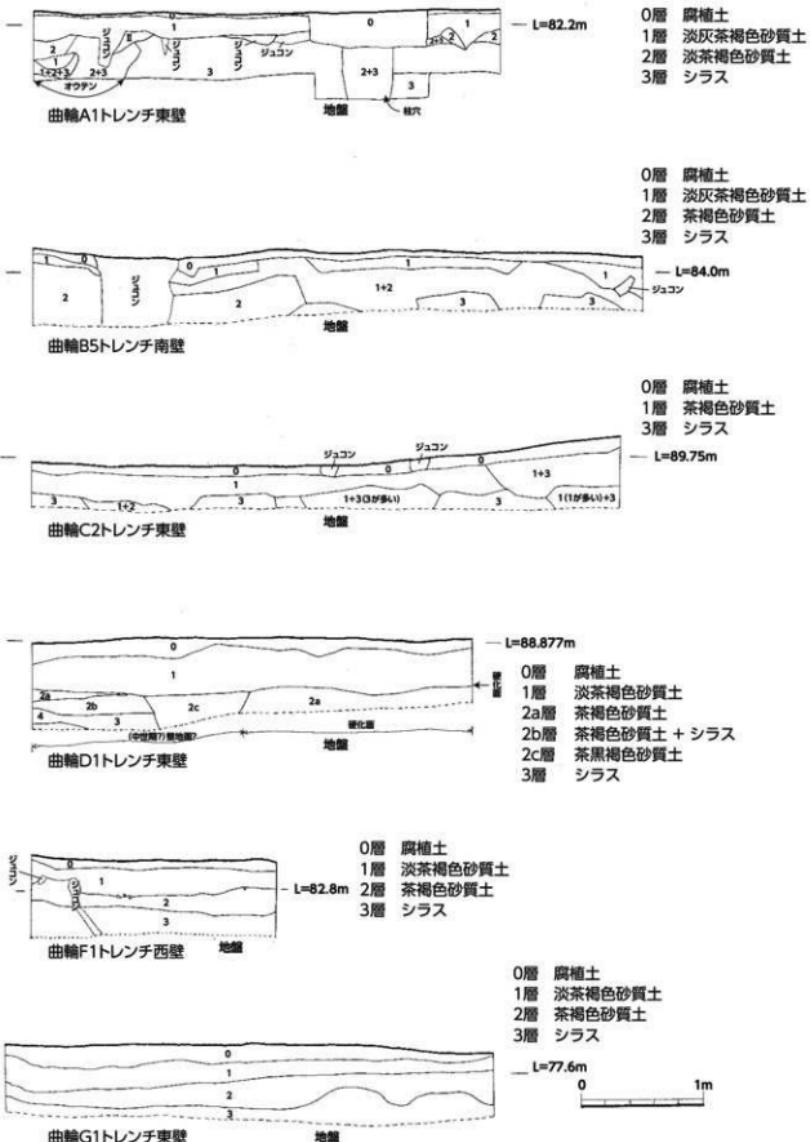


第3図 曲輪A・Bトレンチ配置図





第5図 曲輪F・Gトレーンチ配置図



第6図 出水城跡曲輪A・B・C・D・F・G土層断面図

第3章 調査の概要

第1節 調査トレンチの設定〔第3図～第5図〕

出水城跡の発掘調査対象として、出水郷土誌に掲載されている出水城跡見取図を参考に俗称がついている曲輪及び頂上部に平坦面を持ち、曲輪として考えられる地点を対象として発掘調査を計画した。

発掘調査は、平成25年度に曲輪A（梅ヶ段）及び曲輪B（水夫ヶ城）を、平成26年度に曲輪B（水夫ヶ城）、平成27年度に曲輪B（水夫ヶ城）及び曲輪C（小松ヶ城）、曲輪D（捨殿ヶ城）、平成28年度に曲輪C（小松ヶ城）、平成29年度に曲輪F（住吉ヶ城）及び曲輪Gを行った。調査対象とした曲輪はすべて市有林であり、杉及び檜の植林を行っていることから、各曲輪のトレンチ設定は、立木を避けつつ、地表面の清掃を行い、礎石等ではないかと推測される石が検出された付近等に設定した。

第2節 土層〔第6図〕

出水城跡の標準土層は第6図のとおりである。

0層は表土で黒褐色の腐植土又は旧耕作土である。

1層は地盤層の始良カルデラ噴出源の始良火山灰、通称シラスと腐植土が混ざり合った淡灰茶褐色砂質土である。中世の遺物が多く出土するものの、小破片やローリング作用を受けているものが目立つ。また、近世以降の遺物も多くはないが出土している。

2層は層より地盤面の色調が強い茶褐色砂質土である。中世の遺物が出土し、曲輪D（捨殿ヶ城）1トレンチでは、青磁集積遺構と土師器の集積遺構が検出されており、当時の生活面であると考えられる。

3層は地盤のシラスで、遺構はこの上面で検出される。

第3節 曲輪A（梅ヶ段）の調査〔第7図〕

(1) 調査の概要

曲輪A（梅ヶ段）は標高約82メートルで南側に空堀を隔て曲輪B（水夫ヶ城）が位置する。曲輪南東部に長さ約29メートルの土壘状の遺構を持つ。曲輪A（梅ヶ段）では、合計4トレンチを設定した。遺構の検出状況は第7図の通りである。立木を避けながらのトレンチ調査のため、建物跡となるような遺構は確認できなかったが、柱穴跡やピット、土坑が検出され、遺物は中世陶磁器、土師器、摺鉢、古銭などが出土した。また、表土中ではあるが多くの瓦の破片を採集している。

なお、今回の発掘調査では、調査し検出された遺構は原則現地保存とするため、掘り下げについては必要最低限度で行った。これに伴い遺構検出状況等の図化作業に係る測量も必要以上は行わなかったが、これを補完するため写真撮影による記録作業を適宜実施した。

(2) 遺構〔第7図～第8図、第2表〕

・ピット

1トレンチ東側壁面に根石を伴うピット1基を検出した。長径35センチ、深さ45センチで

検出面は円形、底部は平坦、断面は円筒形である。底部に根石1個を検出した。

・土坑

3トレンチから大型土坑が1基検出された。トレンチ隅での検出ために長径は不明であるが短径90センチ、深さ40センチである。検出面は楕円形で、底部は平坦、断面は逆台形である。

第2表 曲輪A(梅ヶ段) 遺構計測表

探査区	調査区	遺構	計測値(単位:cm)			形状			遺物・備考
			長径	短径	深さ	検出面	底面	断面	
8	1T	P1	35	-	45	円形	平坦	円筒	半堀、根石1
	3T	SK1	-	90	40	楕円形	平坦	逆台形	半堀

(3) 遺物 [第9図~第10図、第3表]

1は遺構からの出土遺物、2~16は表土から包含層までの一括出土遺物である。

1は瓦質器のすり鉢である。内面ハケナデ、外面工具ナデで調整。

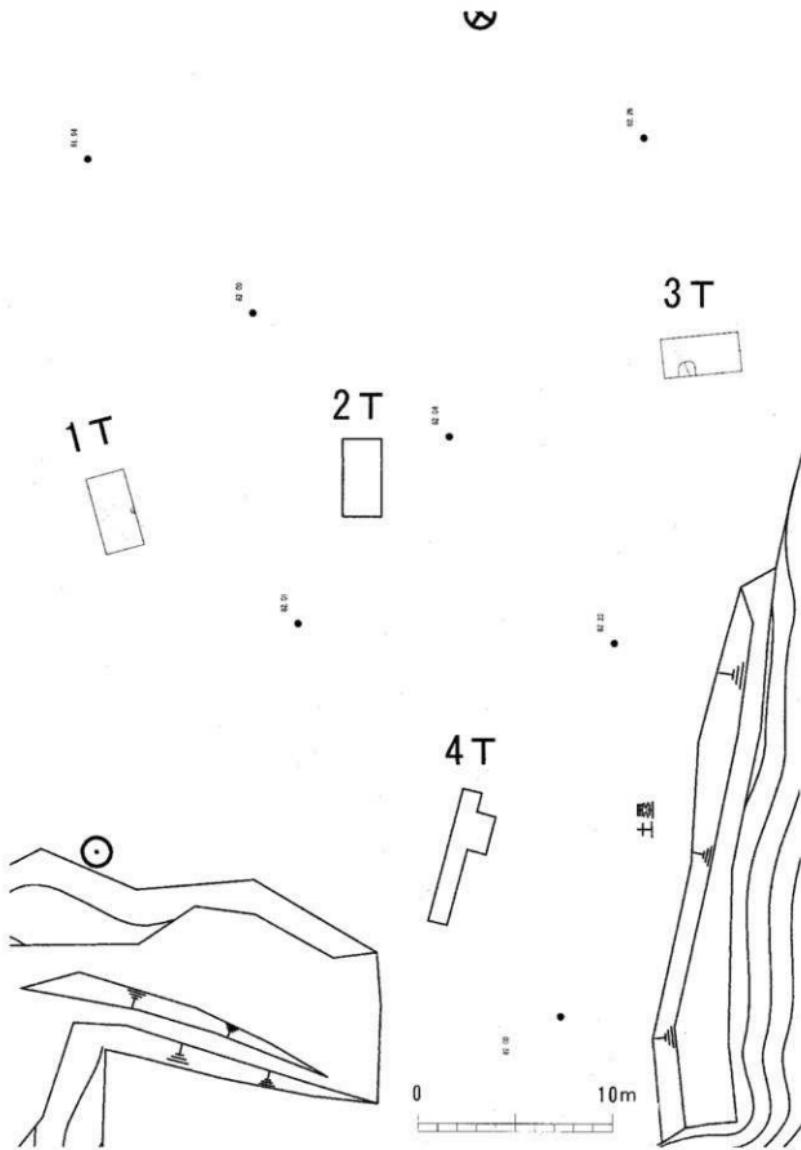
2、3は備前焼のすり鉢である。

10、11は瓦質の甕類である。10は内面ヘラナデ、外面格子タタキ、11は内面ヘラナデ、外面格子タタキで調整。

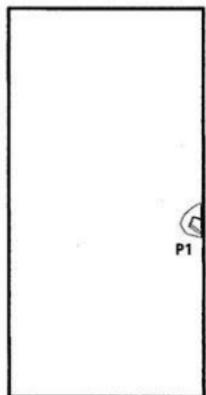
4~9、12~16は瓦である。4、5、8、12、13、14は丸瓦で4、5は凹面に吊紐痕が残る。6、7、9、15、16は平瓦で12、13の凹面には布目が残る。

第3表 曲輪A(梅ヶ段) 出土遺物観察表

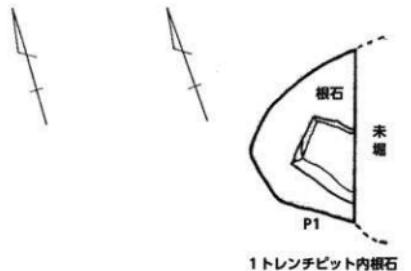
探査区	レイアウト番号	出土区	出土層	種別	器種	法量(cm)			特徴
						口径	高さ	底径	
9	1	2T	ビット	瓦質器	擂鉢	(4.9)			浅黄橙、軟質
	2	4T	表採	陶器	擂鉢	(1.1) (4.3)			備前、室町時代
	3	4T	Ⅲ	陶器	擂鉢	(3.9)			備前、室町時代
	4	キタシヤメン	表採	瓦	丸瓦	-	-	-	黒、長(6.1)、幅(7.9)、吊紐
	5	不明	表採	瓦	丸瓦	-	-	-	灰、長(12.3)、幅(5.4)、吊紐
	6	不明	表採	瓦	平瓦	-	-	-	灰、長(6.4)、幅(3.3)
	7	不明	表採	瓦	平瓦	-	-	-	灰、長(6.2)、幅(4.4)
	8	不明	表採	瓦	丸瓦	-	-	-	灰白、長(5.3)、幅(6.2)
	9	4T	表採	瓦	平瓦	-	-	-	灰、長(10.2)、幅(6.9)
10	10	不明	表採	瓦質器	甕類	-	-	-	淡黄、軟質
	11	不明	表採	瓦質器	甕類	-	-	-	浅黄橙、硬質
	12	キタシヤメン	表採	瓦	丸瓦	-	-	-	灰、長(12.2)、幅(5.1)、吊紐、布目痕
	13	キタシヤメン	表採	瓦	丸瓦	-	-	-	黒、玉縁長42、玉縁幅(6.2)、布目痕
	14	1T	I	瓦	丸瓦	-	-	-	黒、瓦当が外れたものか?、肩紐
	15	不明	表採	瓦	平瓦	-	-	-	黒、長(6.3)、幅(10.6)
	16	キタシヤメン	表採	瓦	平瓦	-	-	-	灰、長(14.2)、幅(15.0)



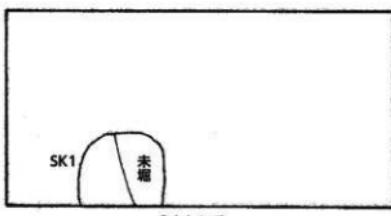
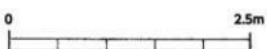
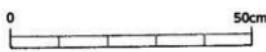
第7図 曲輪A（梅ヶ段）遺構検出図



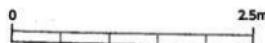
1 レンチ



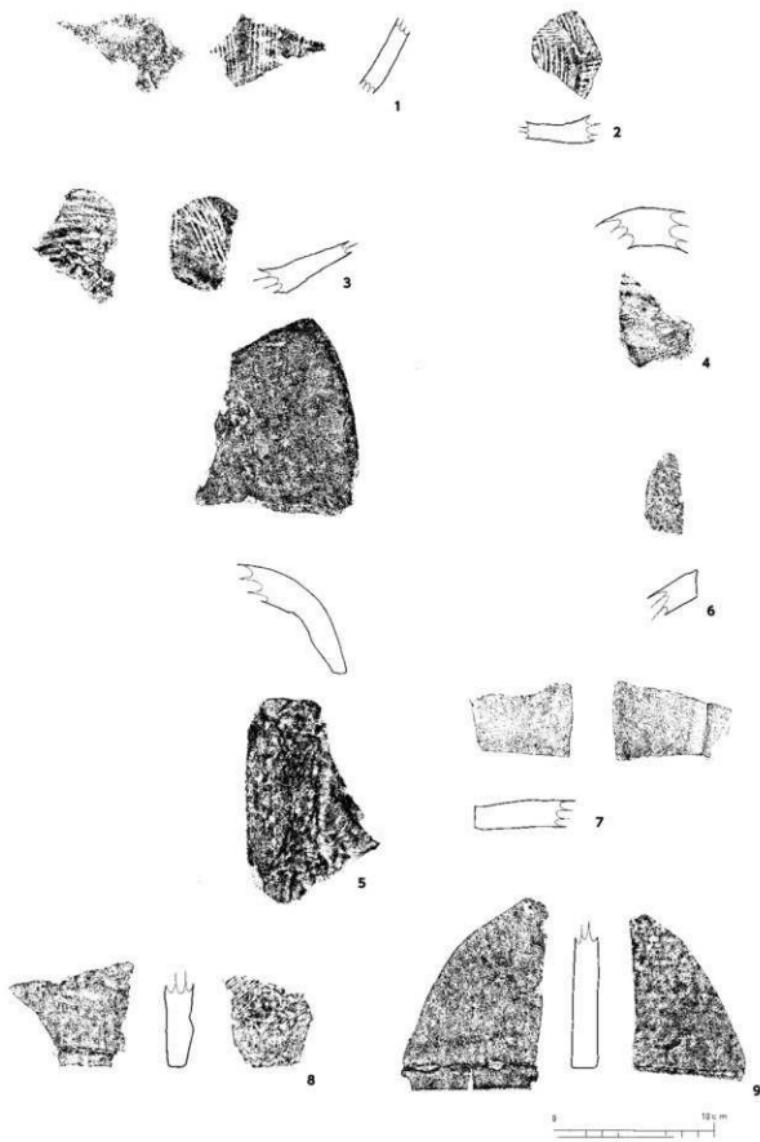
1 レンチピット内根石



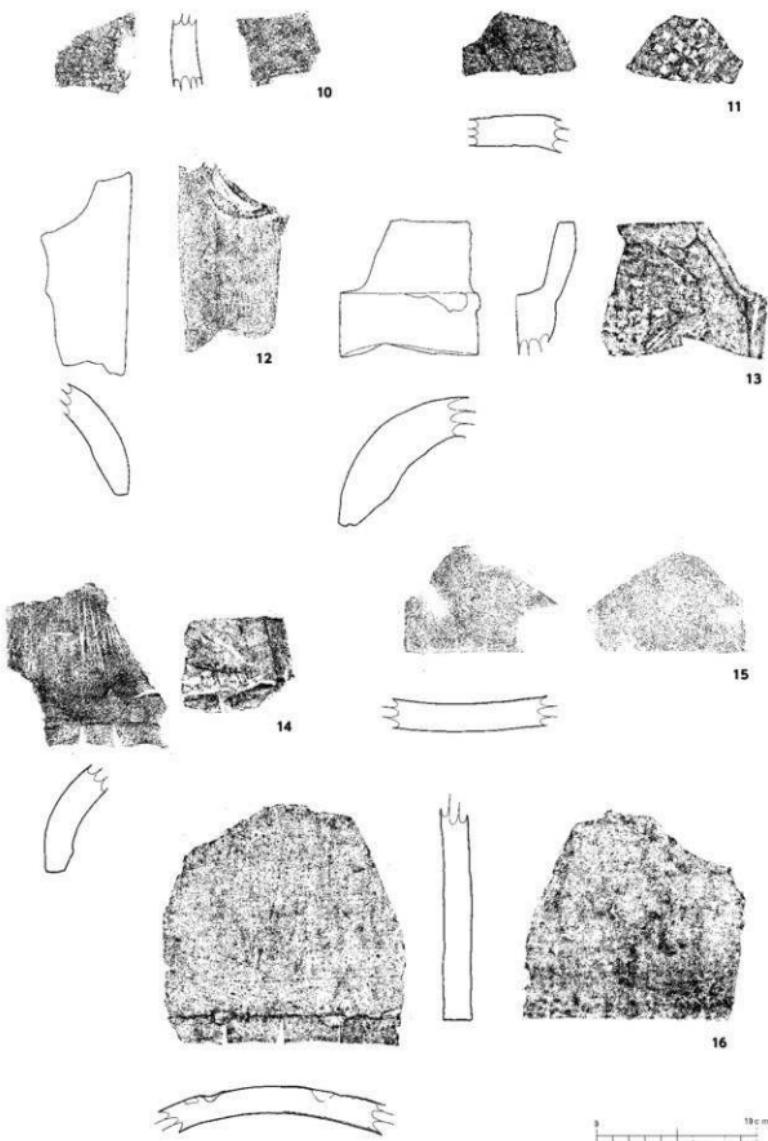
3 レンチ



第8図 曲輪A（梅ヶ段）1・3レンチ遺構 検出図



第9図 曲輪A（梅ヶ段）表～包含層出土遺物①（土師質土器、陶質土器、陶器、瓦）



第10図 曲輪A（梅ヶ段）表～包含層出土遺物②（瓦）

第4節 曲輪B（水夫ヶ城）の調査〔第11図〕

(1) 調査の概要

曲輪B（水夫ヶ城）は、出水城の本丸とされてきた曲輪で標高約84メートル、上段、中段、下段の平坦面を持つ曲輪である。南側に空堀を隔てて曲輪C（小松ヶ城）が位置する。上中下段とも虎口が現存しており、北側には、曲輪Bに付随していると思われる大土居が現存する。中段から上段の境界法面には人頭大の石を張り付けたような箇所がみられる。曲輪南東部は治山事業のために削られているが、出水城跡において最大級の面積を持つ曲輪である。

遺構は、配石遺構や柱穴跡が検出され、遺物は青磁・染付などの中世陶磁器、土師器、キセル、碁石、瓦類などが出土した。

また、2トレンチのシラスとされる土壤のテフラ分析と地盤直下から検出された炭化物の試料、6トレンチ出土の炭化物資料を用いた年代測定及び3・6トレンチから出土した埴堀と出水城跡と同じ時期に機能していたと考えられる本市野田地域に現存する亀井山城跡出土の埴堀の付着物分析、4トレンチ出土のキセル羅宇部の利用植物の同定について自然科学分析を行っている。（第4章自然科学分析に詳細を掲載）

曲輪B（水夫ヶ城）では、合計8トレンチを設定した。遺構の検出状況は第11図の通りである。

(2) 遺構〔第11図～第14図、第4表〕

・ビット

ビットは2・3・4・6トレンチで検出した。2トレンチのP1は土坑内で検出され、栗石を伴う長径60センチ、短径50センチ、深40cmである。3トレンチからは3つのビットが検出された。検出面は楕円形をしている。4トレンチからも3つのビットが検出され、6トレンチからも1つのビットが検出されたが、いずれも未掘であり、また、トレンチ調査のため建物跡の存在を示すものは確認できなかった。

・土坑状遺構

5・6トレンチで検出された。いずれも礫を伴う。未掘のため詳細は不明である。6トレンチの土坑状遺構から検出された炭化物は、自然科学分析の結果、15世紀中期から17世紀初頭頃のもので出水城が機能していた時期に該当し、当該期における木材利用の痕跡と考えられる。また6トレンチからは、埴堀も出土しており、6トレンチの土坑状遺構は、鍛冶跡であると思われる。

・石列遺構

1トレンチで検出した。人頭大の礫が東西に配列されている。石列遺構のある地点から北西側にかけて2段の段地形がある模様だが、今回は特定しうるまでは精査できなかった。石列のある段を上段、以下中段、下段とし、下段はI層が比較的厚く堆積している。遺物も小片だが出土する。中段は上段と同じくシラスがマーブル上に検出される。上段は石列遺構があり、中段と同じシラス面だが、いくらか固い印象をうける。

・礫集積遺構

8トレンチ西側端部でⅢ層上層に人頭大～拳大の礫を検出した。東側の礫縁辺には掘り込み

のラインが残るが反対側では検出できない。本遺構の北側でも同規模の割石が3点同層で出土しており本遺構に由来する可能性もある。地業跡と思われるが、遺構の機能を特定するには至らなかった。

第4表 曲輪B(水夫ヶ城)遺構計測表

探査区	調査区	遺構	計測値(単位:cm)			形状			遺物・備考
			長径	短径	深さ	検出面	底面	断面	
12	2T	P1	60	50	40	円形	-	-	半堀 栗石有
	3T	P1	40	30	-	楕円形	-	-	未堀
	3T	P2	30	20	-	楕円形	-	-	未堀
	3T	P3	40	30	-	楕円形	-	-	未堀
13	4T	P1	-	30	-	楕円形	-	-	未堀
	4T	P2	30	30	-	円形	-	-	未堀
	4T	P3	30	20	-	円形	-	-	未堀
	6T	P1	70	50	-	楕円形	-	-	未堀

(3) 遺物 [第15図～第21図、第5表]

17～70が曲輪B(水夫ヶ城)の出土遺物である。

17は土師器の皿で内、外面ともにナデ調整。内側にススが付着している。

18、19、25～32が瓦質器である。18、19、25～31はすり鉢である。18、19ともに内面ナデ、外面上部ナデ、下部がケズリで調整。25、26は内、外面ともにナデ調整。27、28、29は内面ナデ、外面ナデ後に指頭オサエで調整。30は内面ナデ、外面下位をケズリで調整。31は内面の摩耗が激しく調整痕が不明。外面はケズリで調整している。32は壺で一条の突帯がつく。内面ナデ、外面ナデ後ミガキで調整している。

22～24は須恵質陶器でいずれも九州産と思われる。22はすり鉢で内、外面ともにナデ。23、24は壺で内面ナデ、外面は格子目タタキで調整。

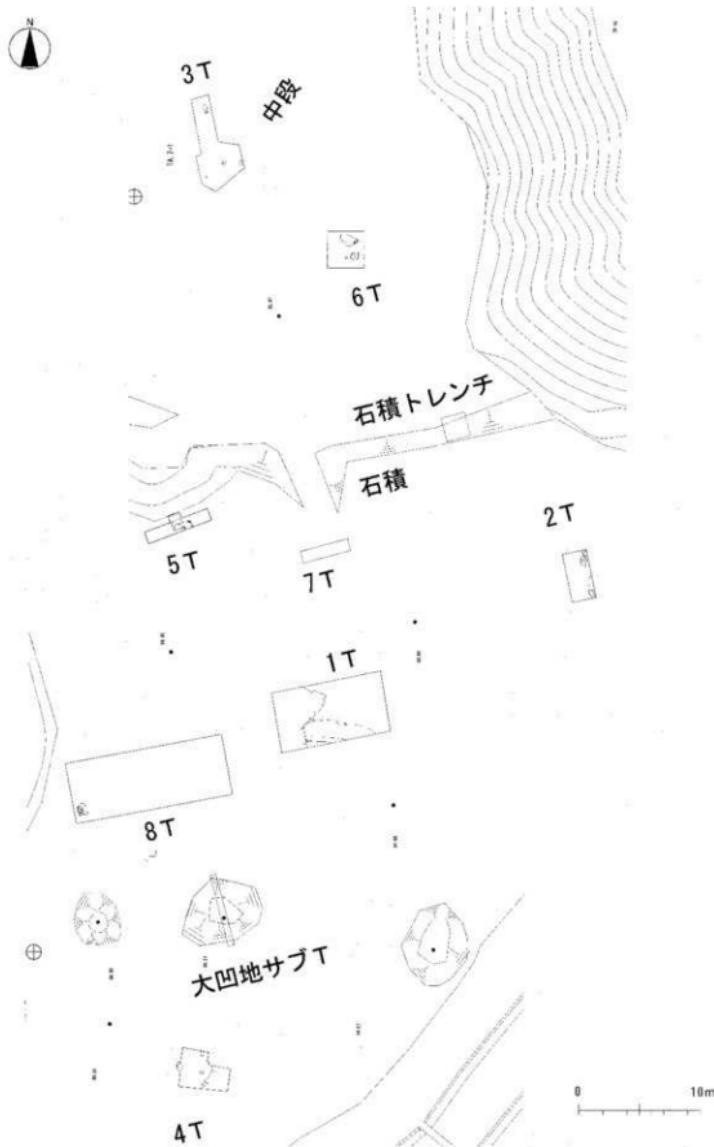
33～35、38は陶器である。33は備前焼のすり鉢、34、38は備前焼の壺である。35はすり鉢で内、外面ともナデ調整。

36は陶胎染付の碗である。

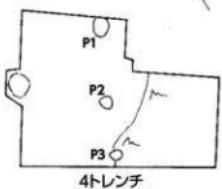
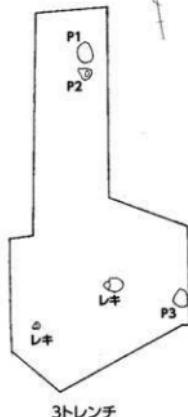
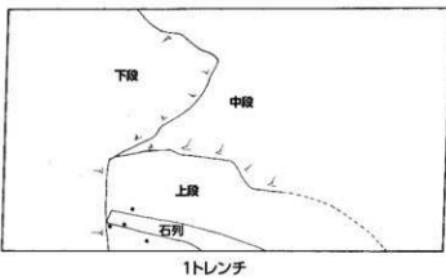
37は染付の碗で外面に動物の胴体?が描かれている。

39～70は瓦である。39、47、50、65は小片で種類は不明である。40～44、46、48、51、57～64、66、67は平瓦である。45、52～56は丸瓦で56は凹面に吊紐痕が残る。49は道具瓦?である。黒色を呈し、ミガキで調整している。68は軒平瓦で唐草文である。69は軒丸瓦で巴文、珠文である。

70は洪武通宝である。

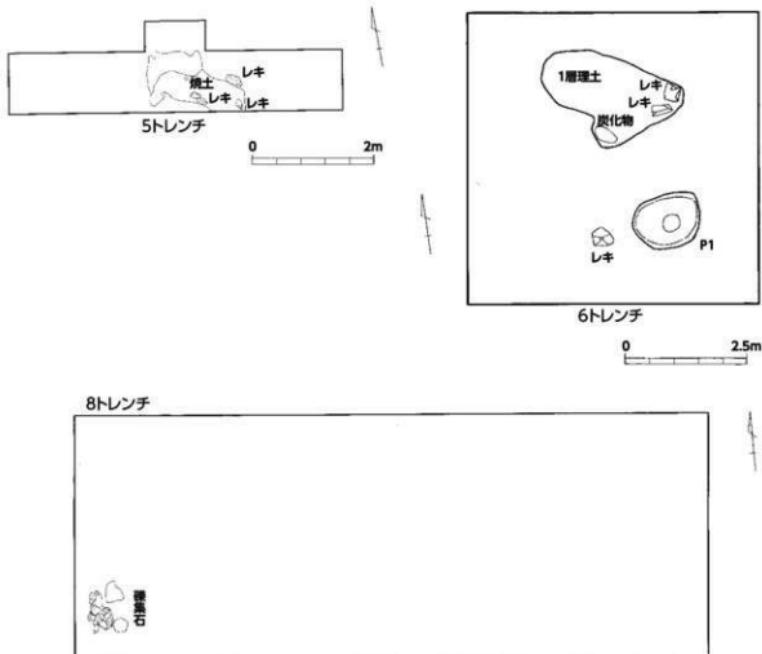


第11図 曲輪B（水夫ヶ城）遺構検出図

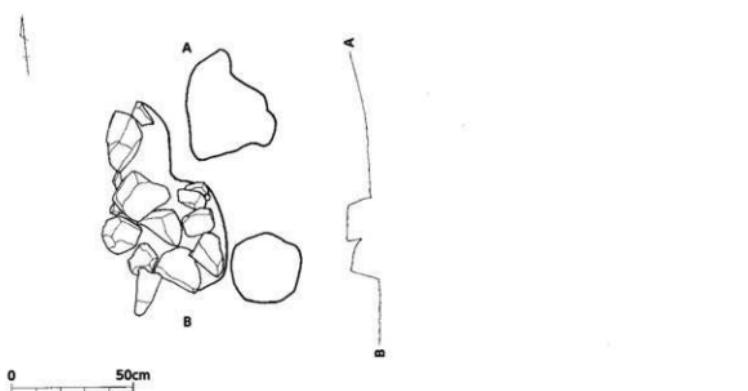


0 5m

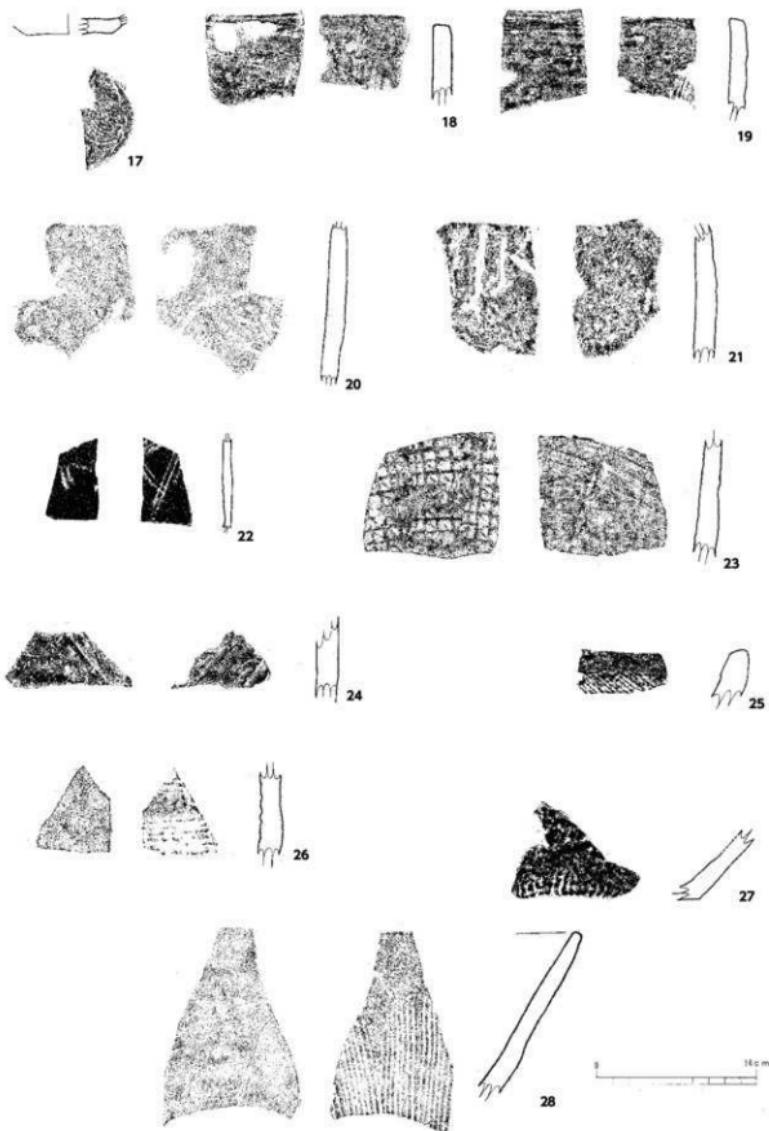
第12図 曲輪B（水夫ヶ城）1・2・3・4トレンチ遺構検出及び遺物出土状況



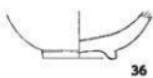
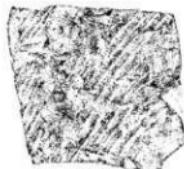
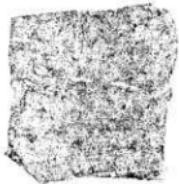
第13図 曲輪B（水夫ヶ城）5・6・8トレンチ遺構検出図



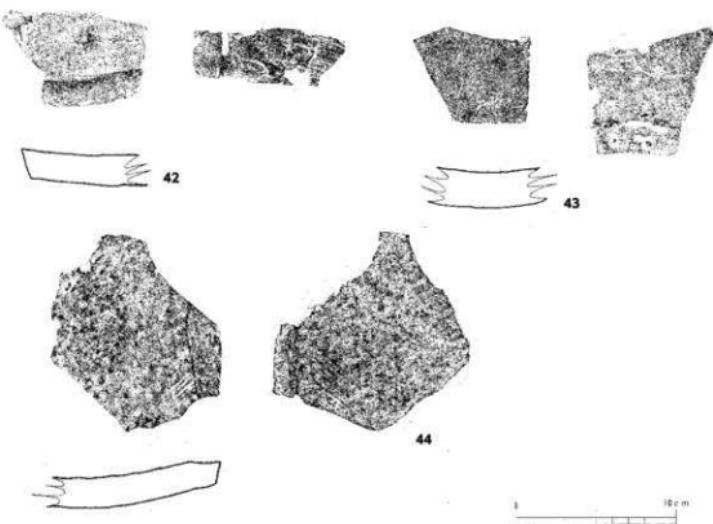
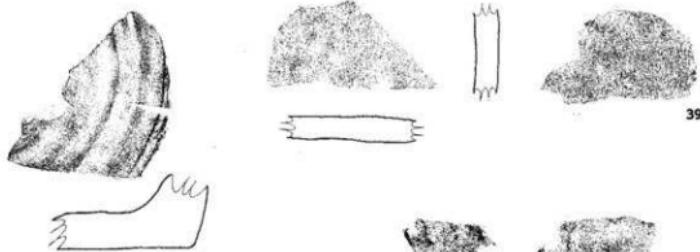
第14図 曲輪B（水夫ヶ城）8トレンチ礫集石



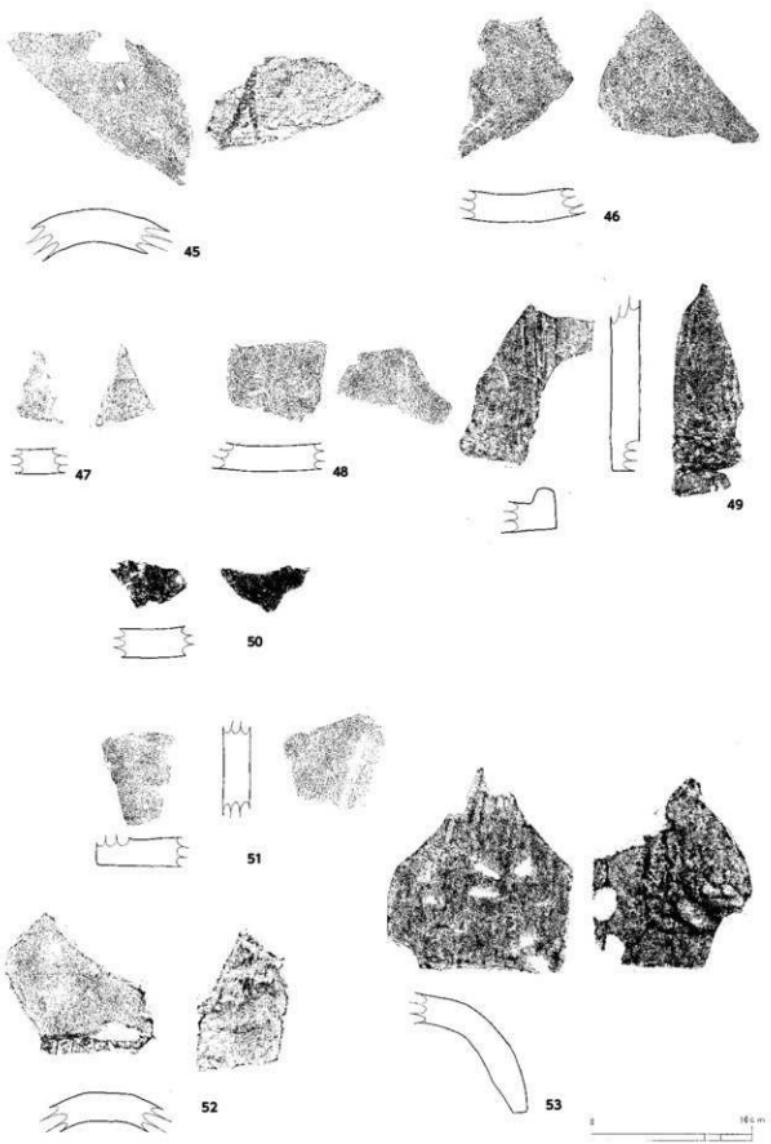
第15図 曲輪B（水夫ヶ城）表～包含層出土遺物①（土師器、土師質土器、須恵質土器、瓦質器）



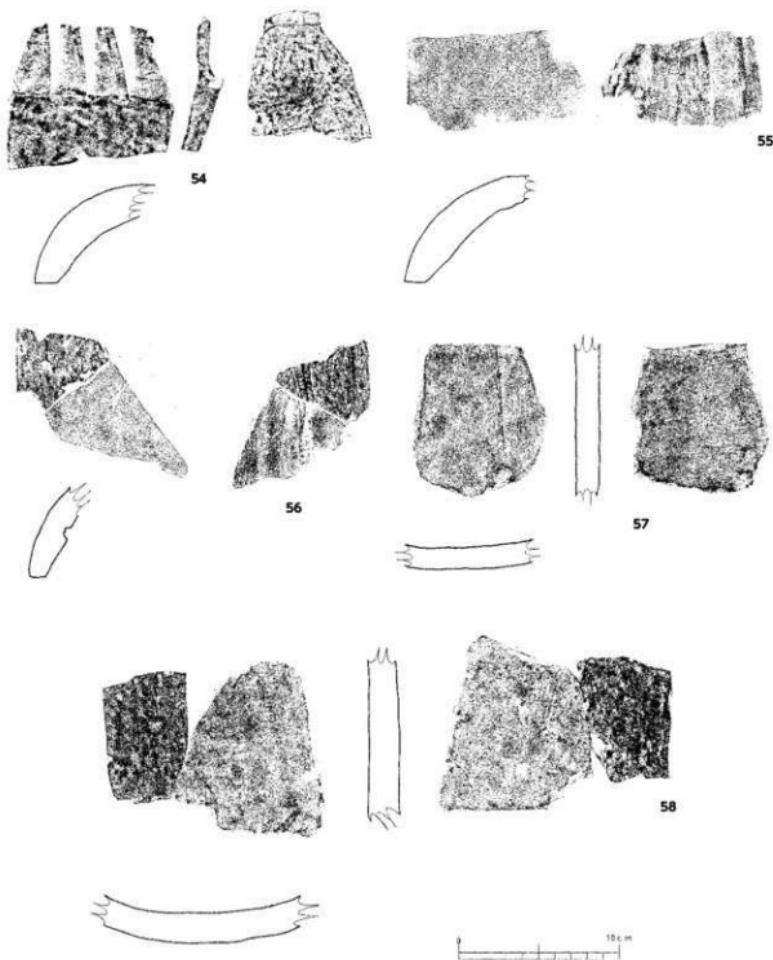
第16図 曲輪B（水夫ヶ城）表～包含層出土遺物②（瓦質器、陶器、染付）



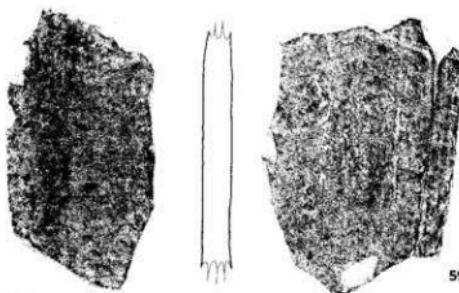
第17図 曲輪B（水夫ヶ城）表～包含層出土遺物③（陶器、瓦質器、瓦）



第18図 曲輪B（水夫ヶ城）表～包含層出土遺物④（瓦）



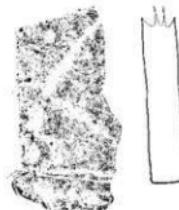
第19図 曲輪B（水夫ヶ城）表～包含層出土遺物⑤（瓦）



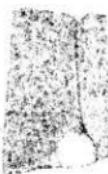
59



60



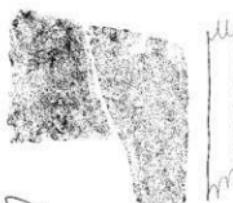
61



62



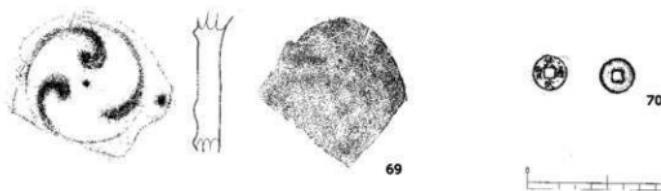
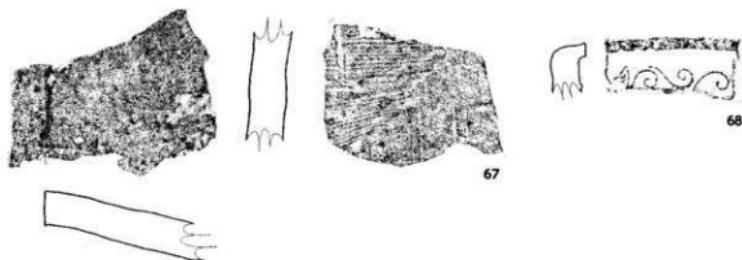
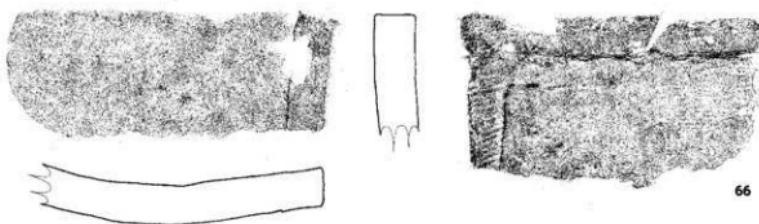
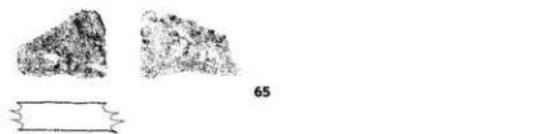
63



64



第20図 曲輪B（水夫ヶ城）表～包含層出土遺物⑥（瓦）



10 cm

第21図 曲輪B（水夫ヶ城）表～包含層出土遺物⑦（瓦、古銭）

第5表 曲輪B(水夫ヶ城)出土遺物観察表

擇団	レイアウト番号	出土区	出土層	種別	器種	法量(cm)			特徴
						口径	高さ	底径	
15	17	ST	II下	土師器	皿	-	(1.0)	28	浅黄橙、系切底、内スス付着
	18	1T	I	瓦質器	擂鉢	-	(5.1)	-	浅黄橙、口縁部
	19	ST	I	瓦質器	擂鉢	-	(5.4)	-	浅黄橙、口縁部
	20	下コグチ	Iヒヨウ	瓦質器	鉢類	-	(10.2)	-	浅黄橙、軟質
	21	下コグチ	ヒヨウ	瓦質器	鉢類	-	(8.8)	-	浅黄橙、軟質
	22	ST	ヒヨウ	須恵質陶器	すり鉢	-	-	-	九州産
	23	上コグチ	ヒヨウ	須恵質陶器	甕	-	(7.2)	-	九州産
	24	1T	I	須恵質陶器	甕	-	(5.9)	-	九州産
	25	4T	II	瓦質器	擂鉢	-	(2.9)	-	浅黄橙、口縁部
	26	6T	I	瓦質器	擂鉢	-	(5.1)	-	浅黄橙
	27	5T	I	瓦質器	擂鉢	-	(4.2)	-	浅黄橙、底部
	28	ST	II下	瓦質器	すり鉢	-	(9.9)	-	浅黄橙
16	29	ST	II下層	瓦質器	すり鉢	-	(8.4)	-	浅黄橙
	30	ST	II下層	瓦質器	すり鉢	-	(6.4)	-	橙
	31	ST	II下	瓦質器	すり鉢	-	(5.0)	-	浅黄橙、軟質
	32	1T	I	瓦質器	甕	-	(7.8)	-	灰、一条の突帯
	33	5T	ヒヨウ	陶器	擂鉢	-	(3.0)	-	赤褐色、底部、硬質、備前焼
	34	石積	ヒヨウ	陶器	甕	-	(13.1)	-	備前焼、室町時代
	35	5T	I	陶器	擂鉢	-	(4.4)	-	浅黄橙
	36	8T	II層	陶胎染付	碗	23(外径)	2.9	-	鉄軸付
17	37	8T	廃土	染付	碗	-	-	-	景徳鎮窯 16C後半~17C前
	38	5T	II	陶器	甕	-	(4.6)	-	備前焼、室町時代
	39	4T	II	瓦	-	-	-	-	灰白、軟質、摩耗激しい
	40	石積	ヒヨウ	瓦	平瓦	-	-	-	灰白、長(4.7)、幅(4.2)
	41	石積	ヒヨウ	瓦	平瓦	-	-	-	灰、長(3.9)、幅(9.7)
	42	石積	ヒヨウ	瓦	平瓦	-	-	-	黒、長(4.0)、幅(8.4)
	43	石積	ヒヨウ	瓦	平瓦	-	-	-	暗灰、長(5.2)、幅(8.6)
	44	石積	ヒヨウ	瓦	平瓦	-	-	-	暗灰、長(10.2)、幅(12.5)
18	45	石積	ヒヨウ	瓦	丸瓦	-	-	-	暗灰、凹面:吊紐、長(6.4)、幅(8.7)
	46	石積	ヒヨウ	瓦	平瓦	-	-	-	灰白、長(7.8)、幅(8.2)
	47	1T	I	瓦	-	-	-	-	灰白、小片
	48	4T	I	瓦	平瓦	-	-	-	黒、長(4.2)、幅(7.1)
	49	1T	I	瓦	道具瓦?	-	-	-	黒
	50	4T	I	瓦	-	-	-	-	灰白、小片
	51	8T	I	瓦	平瓦	-	-	-	灰、長(8.1)、幅(7.3)
	52	3T	I	瓦	丸瓦	-	-	-	黒、長(8.4)、幅(7.3)
19	53	8T	II	瓦	丸瓦	-	-	-	灰、長(12.7)、幅(7.5)
	54	8T	II	瓦	丸瓦	-	-	-	灰、玉緑長、3.7
	55	石積	ヒヨウ	瓦	丸瓦	-	-	-	灰、長(5.8)、幅(8.6)
	56	8T	II	瓦	丸瓦	-	-	-	灰、長(6.9)、幅(5.7)、凹面に吊紐
	57	8T	I	瓦	平瓦	-	-	-	灰白、長(9.5)、幅(8.4)
	58	石積	ヒヨウ	瓦	平瓦	-	-	-	淡黄、長(11.6)、幅(13.1)
20	59	石積	ヒヨウ	瓦	平瓦	-	-	-	淡黄、長(4.6)、幅(9.5)
	60	4T	ヒヨウ	瓦	平瓦	-	-	-	浅黄橙、長(3.4)、幅(6.9)
	61	5T	I	瓦	平瓦	-	-	-	灰、長(5.3)、幅(10.8)
	62	8T	I	瓦	平瓦	-	-	-	灰白、長(11.7)、幅(10.8)
	63	4T	II	瓦	平瓦	-	-	-	灰白、長(6.8)、幅(7.3)
	64	8T	II	瓦	平瓦	-	-	-	黒、長(5.7)、幅(8.6)
21	65	石積	ヒヨウ	瓦	-	-	-	-	灰白、小片
	66	石積	ヒヨウ	瓦	平瓦	-	-	-	灰、長(7.9)、幅(18.4)
	67	石積	ヒヨウ	瓦	平瓦	-	-	-	暗灰、長(7.2)、幅(10.7)
	68	4T	ヒヨウ	瓦	軒平瓦	-	-	-	唐草文、織豊期
	69	石積	ヒヨウ	瓦	軒丸瓦	-	-	-	巴文、珠文あり、天正~慶長期
	70	4T	II	青銅製品	古錢	-	-	-	洪武通宝

第5節 曲輪C（小松ヶ城）の調査〔第22図〕

(1) 調査の概要

曲輪C（小松ヶ城）は標高約90メートルで出水城跡において一番標高が高く、北側に位置する曲輪B（水夫ヶ城）より6メートル高い場所に位置する。虎口も現存しており、曲輪東部にところどころ途切れていますが、土壙状遺構が現存している。曲輪B同様に上・中・下段を持つ。曲輪C（小松ヶ城）では、合計5トレンチを設定した。遺構の検出状況は第22図の通りである。ピット、土坑の他3トレンチから小松ヶ城跡では門の存在を伺わせる柱穴状の遺構や配石状遺構が確認されたほか、4トレンチからは段差のある地形（遺構の一部？）が確認された。中世陶磁器や摺り鉢類が多く出土した。

なお、本報告では、3トレンチ検出の遺構は、時間の制約上、遺構検出が不十分なため、詳細は掲載していない。

3トレンチについては、現在ブルーシートで保護しており、次回の調査にて詳細な検出をおこなうこととする。

(2) 遺構〔第22図～第23図、第6表〕

・ピット

2トレンチで2基のピットを検出した。P1は長径70センチ、短径52センチ、深さ70センチ、検出面は円形、底部は平坦、断面は逆台形である。P2は検出面が円形で、上部に栗石と思われる礫を伴っている。

・土坑

2トレンチから土坑2基を検出した。SK1はトレンチ北壁隅部で検出されたため、平板実測でとどめた。SK2を半掘し遺構の性格を確認したが、底面は不安定であり、遺物も共伴しない。

・方形土坑状遺構

5トレンチの3層上面から検出された。埋土は黒色土である。

・落ち込み状遺構

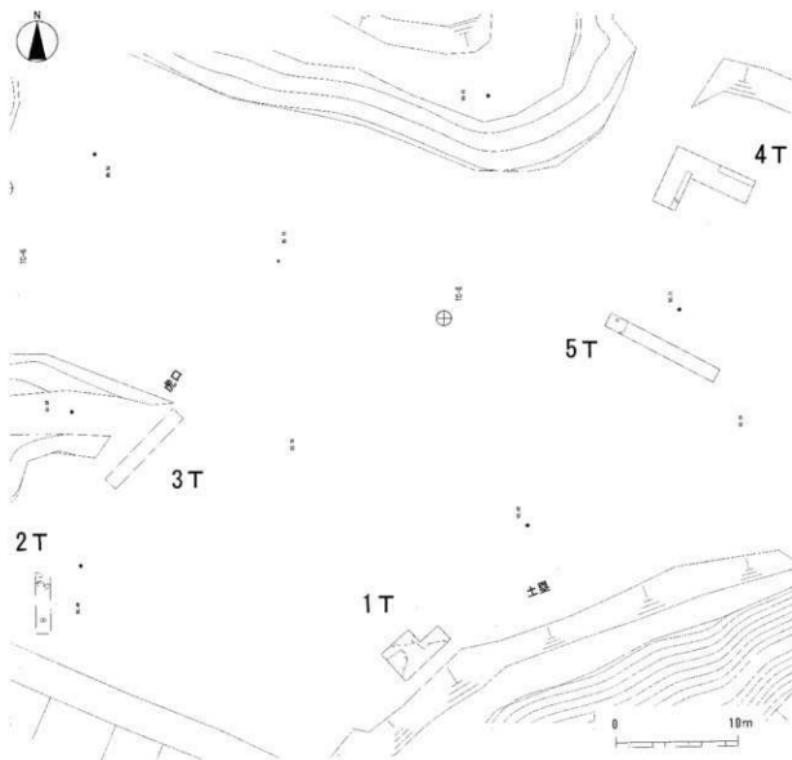
1トレンチ3層上面で検出された。検出面で留めたため、詳細は不明であったが、トレンチの北側と西側に広く浅く広がる。

・段差状遺構

4トレンチに設定したサブトレンチから検出した。東西に延びる段差状の遺構である。上面が淡赤褐色土層で下段は3層シラス面である。高低差は20センチある。出水城跡では、他にこの地層は見られないため、山城造成前の遺構の可能性もあるが、遺物を共伴しないため機能は不明である。

第6表 曲輪C（小松ヶ城）遺構計測表

挿図	調査区	遺構	計測値(単位:cm)			形状			遺物・備考
			長径	短径	深さ	検出面	底面	断面	
2T	P1	70	52	70	円形	平坦	逆台形	半堀	
	P2	59	40	-	円形	-	-	未堀 硬石有	
	SK1	-	-	-	梢円形	-	-	未堀 トレンチ隅のため計測不能	
	SK2	40	21	20	梢円形	-	-	半堀	



第22図 曲輪C（小松ヶ城）遺構検出図

(3) 遺物 [第24図～第33図、第7表～第9表]

71～183は曲輪C（小松ヶ城）の出土遺物である。

71は瓦質器の鉢類である。黒色を呈し内面ナデ、外面ミガキで調整。

72、73は土師器の壺である。72は糸切り底で内、外面ともにナデ調整。73は口縁部で内外ともにナデ調整。

74～76は土師器の皿である。74は燈明皿で内、外ともにナデ調整。

75、76は糸切り底で内、外ともにナデ調整である。

77～79は須恵質陶器である。77は壺類で内面ナデ、外面は格子目タタキで調整。78はすり鉢、79は壺で内、外面ともにハケナデ調整である。

80、81、83、85、86、95は青磁である。80、95は碗で貫入が見られる。81は青磁の稜花皿で内面に段がつき、大きめの貫入が見られる。83は碗・鉢類で外面に劍先連弁文が見られる。85、86は皿で貫入が見られる。

82、84、87、88～94は白磁である。82は鉢類で高台内、疊付は無釉である。84、89、91、92は皿で共に端反りする口縁部である。87は鉢で施釉が薄く、ナデの調整痕が見られる。88は碗・鉢類で高台が内傾し、疊付は細く、砂粒が付着している。見込に花弁？が見られる。90、93、94は鉢類で強く端反りする口縁部である。

96～120は瓦質器である。96～104はすり鉢である。96は内面ナデ、外面胴部はナデ、底部付近はケズリ調整。97は内面ナデ、外面ナデ後、指頭オサエで調整しているが、器面は乱れている。98は内、外面ともナデ調整。内面にススが付着している。99は内、外面ナデ調整。100、101、102は内、外面ナデ調整。103は外面底部付近ケズリ調整。104は口縁部で両面とも摩耗が激しく調整痕不明。105、108、115、117は鉢付鉢で内面ナデ、外面はミガキで調整。106はこね鉢？で内、外面ともナデ調整。107は鉢類で内、外面ともナデ調整。109～112は奈良火鉢である。113、116、118、119は壺類である。113は内面ハケメ、外面ハケメ後、ナデ調整。116は内面ナデ、外面は黒褐色を呈しミガキ調整。118は口縁部で内面ミガキ、外面樹状の調整痕が見られる。119は内面ナデ、外面に格子目タタキで調整。114、120は壺である。114は口唇部ミガキ、内、外面ともナデ調整。120は内、外ともナデ調整である。

121～129、131、133は陶器である。121は鉢類で茶色の釉を施釉し胎土が肌色である。122、123は大型壺で釉が薄く剥がれています。内、外面ともにナデ調整。124、125は大型壺で備前焼である。

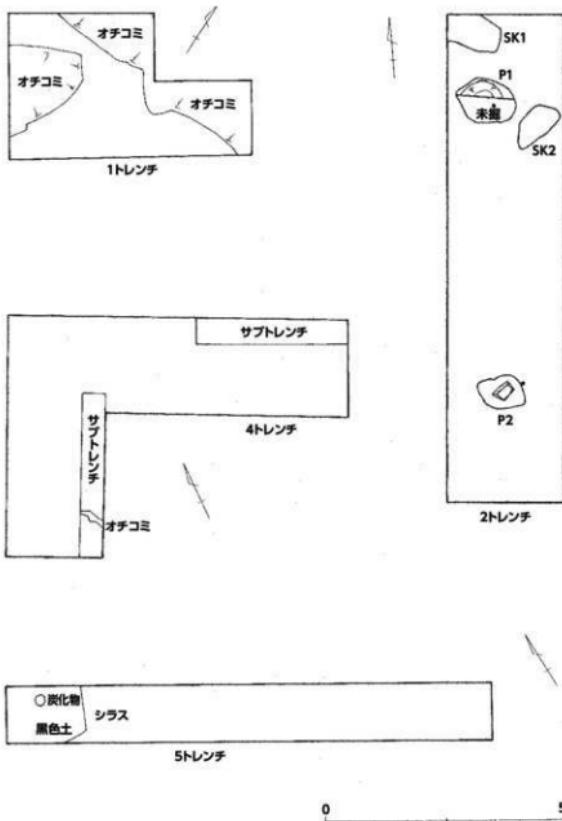
126～129、131、133は茶壺である。126～129は褐釉を施釉する。131は内面が朱色の鉄釉？、外面は鉄釉で胎土は暗紫である。133は内、外ともに鉄釉を施釉する。

132は、瑠璃釉である。

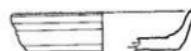
130、134～174は染付で漳州窯系のものであると思われる。

130は内、外面に一条の界線がある。135は饅頭心タイプのもので見込に呉須による文様が見られる。136は内面二条の界線、外面に唐草文。137は内面二条の界線、外面に呉須による太線の文様。138は内面白渦部付近に櫻文、見込付近一条の界線、外面一条の界線。139は白渦が強く、薄いが内、外面に一条の界線が見られる。140は内面一条の界線、外面に滲みの強い呉須による文様。141は内面白渦部付近に一条の界線、見込付近に二条の界線、外面に呉須による文様。142、143は内、外面一条の界線、144は内面一条の界線、外面二条の界線が見られる。145、149は内面白渦部付近に櫻文、見込付近に二条の界線、外面一条の界線。146は白渦が強く呉須による文様が見られるがはっきりしない。147は玉縁の口縁部である。148は内面のみ口唇部付近に二条の界線、見込付近に二条の界線。150は底部で見込に蛇の目剥ぎ、高台内外面は無釉でちりめん高台である。151は内面白渦部付近に櫻文。152は内面にうすいが一条の界線、外面に呉須による文様。153は内、外面一条の界線。154は内面一条、外面二条の界線。155は内面白渦部付近に櫻文、外面に一条の界線が見られる。156は内面のみ二条の界線。157は内面一条、外面二条の界線があり内、外面の仕上げが荒い。158は内外面一条の界線、外面に呉須による文様。

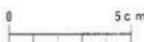
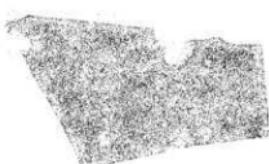
159は内面一条、外面に薄いが二条の界線が見られる。160は薄いが内面に一条の界線、185と同様内、外面の仕上げが荒い。161は内、外面一条の界線。162は内、外面一条の外線、呉須による文様が見られる。163は内面一条、外面二条の界線。164は内面口唇部付近に櫛文のような文様が見られる。165は内面に一条の界線、外面に呉須による太線の文様。166は内面一条、外面二条の界線。167は内、外面一条の界線。168は内面一条、外面二条の界線。169は内面一条の界線付近に米粒大の付着物、見込に一条の界線、外面に一条の界線が見られる。170、171は内面一条の界線、見込付近に呉須による太線の文様、外面一条の界線、呉須による太線の文様が見られる。172は内面一条の界線、外面に呉須による太線の文様。173は内面一条の界線、外面に呉須による文様がみられる。174は内面一条の界線、外面二条の界線が見られる。



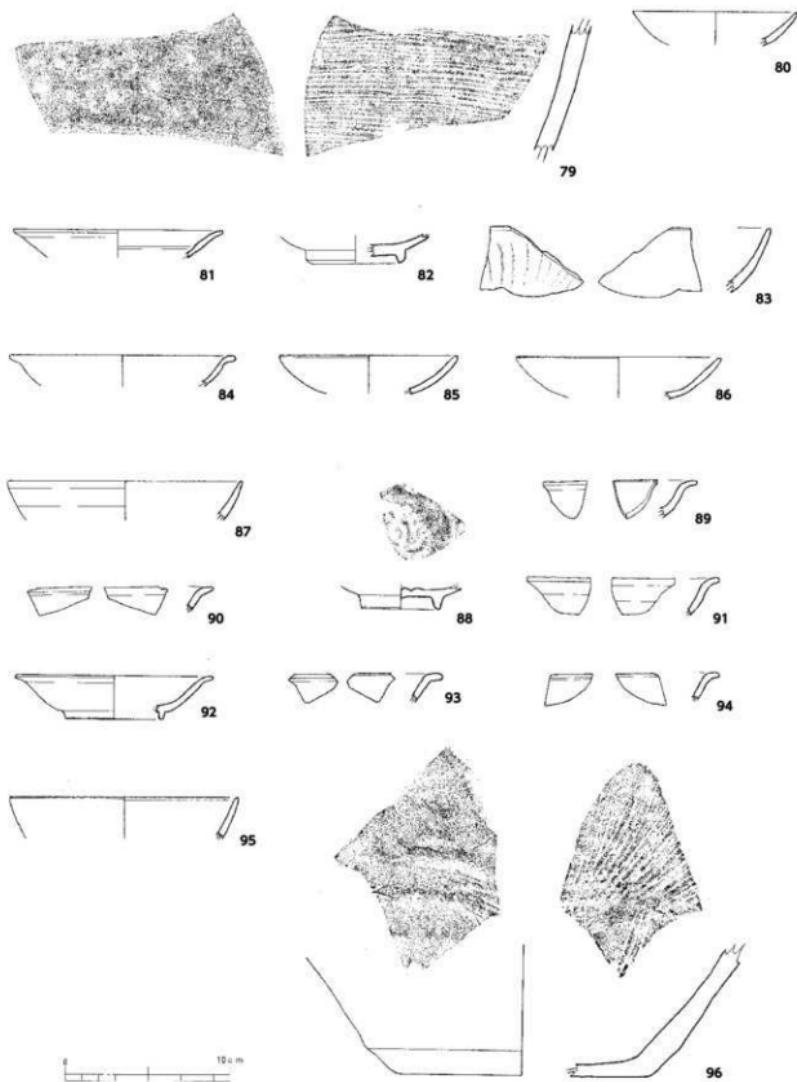
第23図 曲輪C（小松ヶ城）1・2・4・5トレンチ遺構検出状況及び遺物出土状況



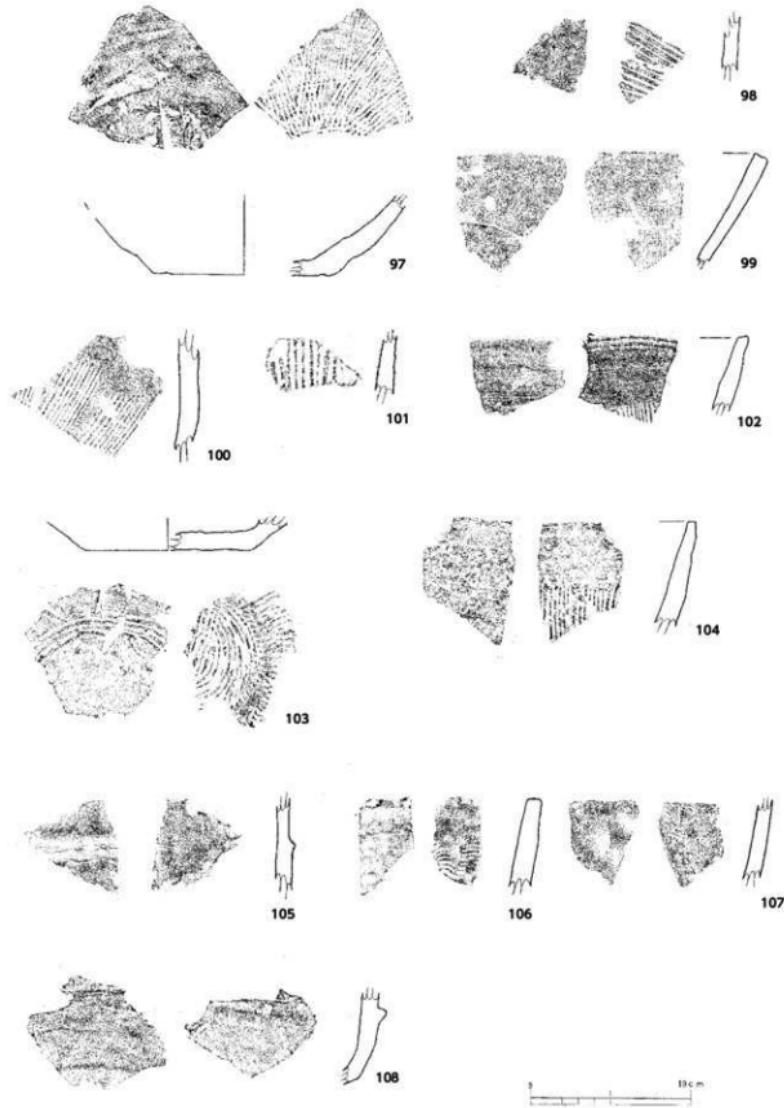
76



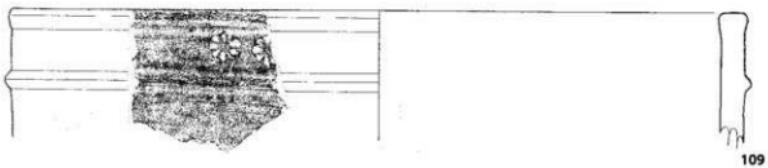
第24図 曲輪C（小松ヶ城）表～包含層出土遺物①（土師器、須恵質陶器）



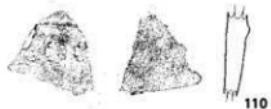
第25図 曲輪C（小松ヶ城）表～包含層出土遺物②（須恵質陶器、青・白・青白磁、瓦質器）



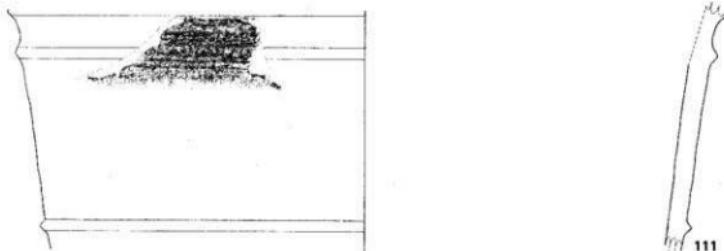
第26図 曲輪C（小松ヶ城）表～包含層出土遺物③（瓦質器）



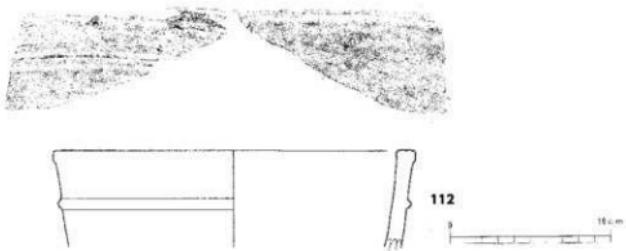
109



110

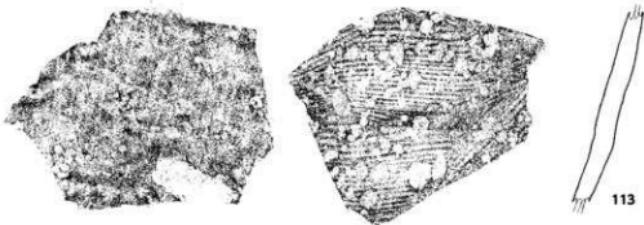


111

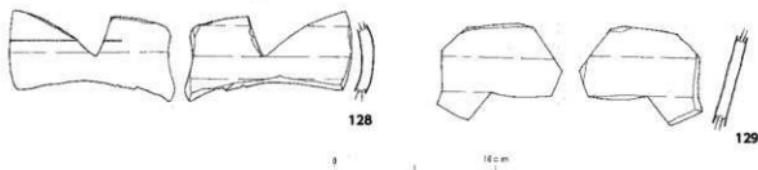
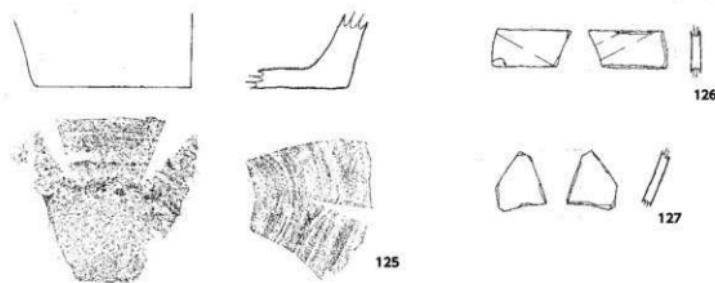
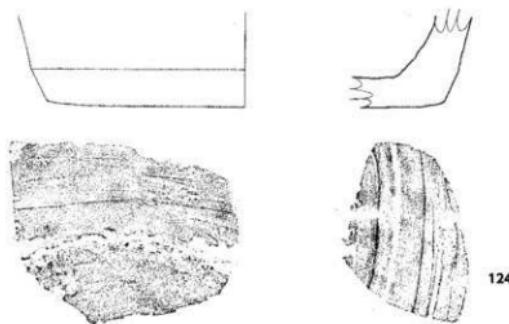
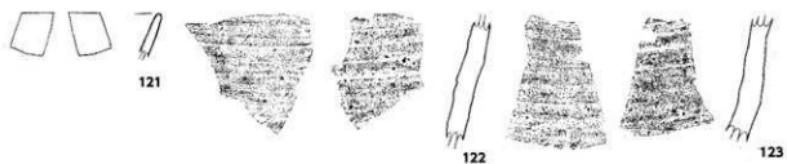


112

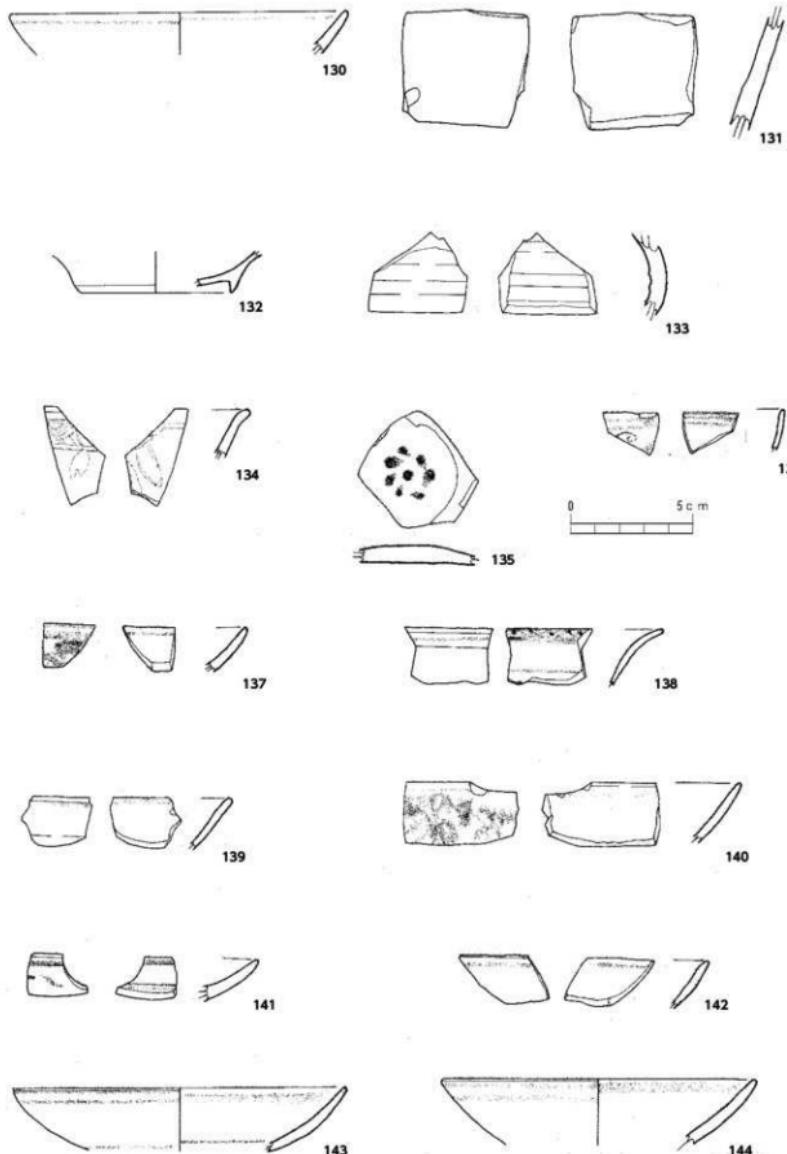
第27図 曲輪C（小松ヶ城）表～包含層出土遺物④（瓦質器）



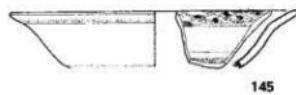
第28図 曲輪C（小松ヶ城）表～包含層出土遺物⑤（瓦質器）



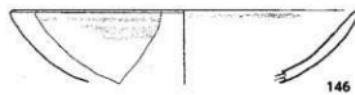
第29図 曲輪C（小松ヶ城）表～包含層出土遺物⑥（陶器）



第30図 曲輪C（小松ヶ城）表～包含層出土遺物⑦（磁器、染付）



145



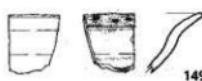
146



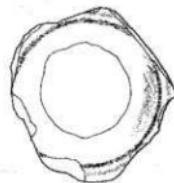
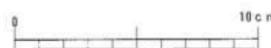
147



148



149



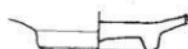
150



151



152



153



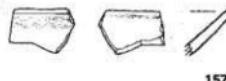
154



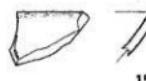
155



156



157

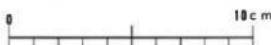
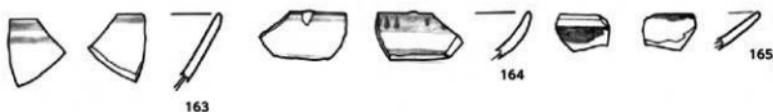
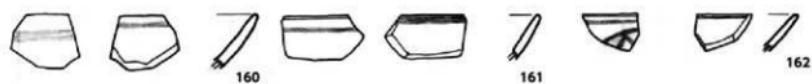


158

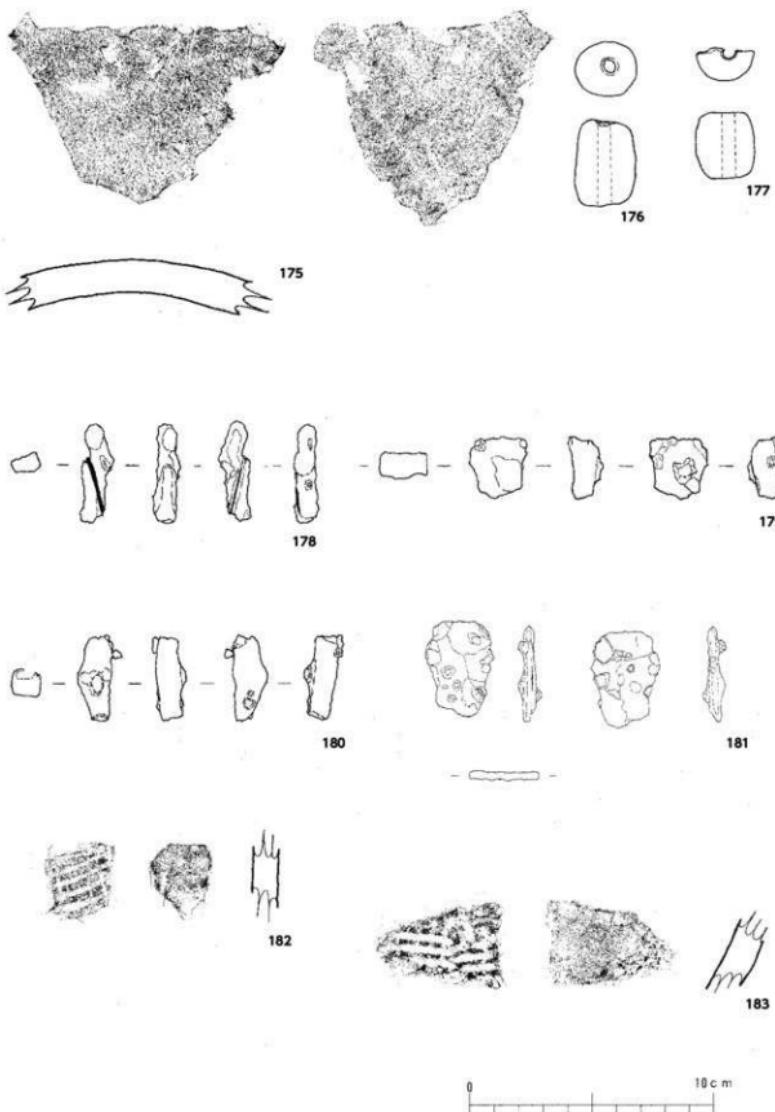


159

第31図 曲輪C（小松ヶ城）表～包含層出土遺物⑧（染付）



第32図 曲輪C（小松ヶ城）表～包含層出土遺物⑨（染付）



第33図 曲輪C（小松ヶ城）表～包含層出土遺物⑩（瓦、土錘、鉄器）

第7表 曲輪C（小松ヶ城）出土遺物観察表（1）

挿図	レイアウト番号	出土区	出土層	種別	器種	法量(cm)			特徴
						口径	高さ	底径	
24	71	5T	Ⅱ層	瓦質器	鉢類	-	(6.2)	-	黒色
	72	3T	廢土	土師器	壺	-	(1.8)	3.7	浅黄橙、系切底
	73	4T	I層上	土師器	壺	-	(2.8)	-	浅黄橙、口縁部
	74	4T	I層	土師器	皿	-	(2.0)	-	浅黄橙、澄明皿
	75	4T	表層	土師器	皿	-	(1.2)	2.9	浅黄橙、系切底
	76	虎口	表探	土師器	皿	3.8	(1.6)	3.2	浅黄橙、系切底
	77	4T	表土	須恵質陶器	壺類	-	(2.1)	-	九州産
	78	虎口	表探	須恵質陶器	寸引鉢	-	(5.2)	-	九州産
25	79	虎口	表探	須恵質陶器	甕	-	(7.6)	-	九州産
	80	5T	I	青磁	碗	5.0	(2.0)	-	中国産、14C
	81	5T	表層	青磁	皿	6.4	(1.7)	-	後花皿、中国産、14C後～15C中
	82	4T	I層	白磁	鉢類	-	(1.7)	2.6	景德鎮窯、16C
	83	5T	I層・I層下	青磁	碗・鉢類	-	(4.3)	-	劍先連弁、中国、15C中～16C前
	84	4T	表探	白磁	皿	6.6	(1.9)	-	端反りする口縁部、景德鎮窯、16C
	85	5T	I層	青磁	皿	5.4	(2.3)	-	大き目の貫入、14C後～15C前
	86	5T	I下層	青磁	皿	6.2	(2.4)	-	貫入、14C後～15C前
	87	4T	表層	白磁	鉢	7.1	(2.3)	-	景德鎮窯、16C
	88	4T	表土	白磁	碗・鉢類	-	(1.5)	2.4	福建、広東？
	89	4T	表土	白磁	皿	-	(2.2)	-	端反りする口縁部、景德鎮窯、16C
	90	5T	I層	白磁	鉢類	-	(1.6)	-	端反りする口縁部、景德鎮窯、16C
	91	5T	表探	白磁	皿	5.5	(2.2)	-	端反りする口縁部、景德鎮窯、16C
	92	5T	表土	白磁	皿	6.0	(2.6)	2.9	端反りする口縁部、景德鎮窯、16C
26	93	5T	表層	白磁	鉢類	-	(1.7)	-	端反りする口縁部、景德鎮窯、16C
	94	5T	Ⅱ層	白磁	鉢類	-	(1.9)	-	端反りする口縁部、景德鎮窯、16C
	95	5T	I層	青磁	碗	6.9	(2.5)	-	中国産
	96	表探	表探	瓦質器	寸引鉢	-	(8.0)	7.7	浅黄橙
	97	1T	表探	瓦質器	寸引鉢	-	-	(5.5)	浅黄橙
	98	1T	I	瓦質器	寸引鉢	-	(3.3)	-	浅黄橙
	99	1T	I	瓦質器	寸引鉢	-	(6.7)	-	浅黄橙
	100	3T	オチコミ	瓦質器	寸引鉢	-	(6.2)	-	浅黄橙
	101	3T	オチコミ	瓦質器	寸引鉢	-	(3.5)	-	浅黄橙
	102	3T	オチコミ	瓦質器	寸引鉢	-	(4.6)	-	淡赤橙、口縁部
	103	3T	オチコミ	瓦質器	寸引鉢	-	(2.0)	(5.4)	浅黄橙 底部
	104	虎口	表探	瓦質器	寸引鉢	-	(6.6)	-	浅黄橙
	105	4T	I上層	瓦質器	鉗付鉢	-	(5.7)	-	灰、胸部に一条の突帯(削れている)
	106	4T	表探	瓦質器	こね鉢?	-	(5.3)	-	浅黄橙、口縁部
27	107	上→中段 斜面部	表探	瓦質器	鉢類	-	(4.8)	-	浅黄橙
	108	虎口	表探	瓦質器	鉗付鉢	-	(5.8)	-	灰白 一条の突帯
	109	虎口	表探	瓦質器	鉢	228	(8.0)	-	奈良火鉢
	110	5T	I層	瓦質器	鉢	-	(5.2)	-	奈良火鉢
	111	虎口	表探	瓦質器	鉢	-	-	-	奈良火鉢
	112	虎口	表探	瓦質器	鉢	102	(5.0)	-	奈良火鉢
	113	虎口	表探	瓦質器	壺類	-	(11.8)	-	灰白
28	114	虎口	表探	瓦質器	壺類	150	(5.6)	-	浅黄橙、口縁部
	115	4T	表土	瓦質器	鉗付鉢	-	(2.9)	-	黒色 脊部一条の突帯、
	116	4T	I上層	瓦質器	壺類	-	-	-	黒色
	117	4T	表土	瓦質器	壺類	-	-	-	黒色、脇部に一条の突帯、
	118	5T	表層	瓦質器	壺類	-	(3.5)	-	浅黄橙 口縁部
	119	虎口	表探	瓦質器	壺類	-	(2.7)	-	浅黄橙
	120	虎口	表探	瓦質器	壺	-	(5.8)	-	灰白

第8表 曲輪C（小松ヶ城）出土遺物観察表（2）

挿図	レイアウト番号	出土区	出土層	種別	器種	法量(cm)			特徴
						口径	高さ	底径	
29	121	5T	I層	陶器	鉢類	-	(1.7)	-	茶色の釉、内外部肌色の胎土
	122	1T	I層	陶器	大型壺	-	(7.4)	-	黄灰
	123	1T	I層	陶器	大型壺	-	(7.7)	-	黄灰
	124	虎口	表採	陶器	大型壺	-	(5.8)	12.5	備前、室町時代
	125	虎口	表採	陶器	大型壺	-	(4.6)	9.8	備前、室町時代
	126	4T	I上層	陶器	壺	-	(2.1)	-	褐釉、明代
	127	4T	表層	陶器	壺	-	(3.4)	-	褐釉、明代
	128	4T	I層上	陶器	壺	-	-	-	褐釉、明代
	129	5T	II層	陶器	壺	-	(5.7)	-	褐釉、明代
30	130	5T	I層	染付	环-皿類	6.8	(1.7)	-	漳州窯、16C末~17C初
	131	5T	I層	陶器	壺	-	-	-	外面黒釉、内面朱色の鉄釉、胎土暗紫色
	132	5T	I層	翡翠釉	皿	-	(1.7)	3.1	翡翠釉、16C
	133	5T	I層	陶器	壺	-	(3.3)	-	中国産、両面鉄釉
	134	5T	I層	染付	鉢?蓋?	-	(4.0)	-	文様の色は剥落(消失)し (外・内面とも)痕跡が残るが看取される (花弁か?)
	135	5T	表土	染付	碗	2.2	(0.7)	-	饅頭心、16C後
	136	4T	表土	染付	皿類	-	(1.7)	-	漳州窯、16C末~17C初
	137	4T	I層	染付	皿類	-	(1.8)	-	漳州窯、16C末~17C初
	138	5T	表採	染付	皿類	-	(2.3)	-	博文、漳州窯、16C末~17C初
31	139	5T	I層	染付	皿類	-	(2.1)	-	漳州窯、16C末~17C初
	140	4T	表土	染付	皿類	-	(2.5)	-	漳州窯?
	141	5T	I層	染付	皿類	-	(1.8)	-	漳州窯、16C末~17C初
	142	5T	I層	染付	皿類	-	(2.0)	-	漳州窯、16C末~17C初
	143	5T	表土	染付	碗類	6.8	(2.6)	-	漳州窯、16C末~17C初
	144	5T	I	染付	碗類	6.5	(2.7)	-	漳州窯、16C末~17C初
	145	5T	I層	染付	碗類	5.9	(2.3)	-	博文、漳州窯、16C末~17C初
	146	5T	表層	染付	碗類	7.1	(2.9)	-	漳州窯、16C末~17C初
	147	4T	表土	染付	鉢類	-	(1.1)	-	漳州窯、16C末~17C初
31	148	5T	I層、表土	染付	鉢類	8.2	(4.7)	-	漳州窯、16C末~17C初
	149	5T	表土	染付	鉢類	-	(2.3)	-	博文、漳州窯、16C末~17C初
	150	5T	I層	染付	碗類	2.5 (外径)	(1.6)	2.0 (内径)	漳州窯、16C末~17C初
	151	4T	I層	染付	皿類	-	(1.2)	-	博文、漳州窯、16C末~17C初
	152	5T	I層	染付	皿類	-	(1.6)	-	漳州窯、16C末~17C初
	153	5T	II層	染付	皿類	-	(1.6)	-	漳州窯、16C末~17C初
	154	5T	I層	染付	碗類	-	(2.0)	-	漳州窯、16C末~17C初
	155	5T	表層	染付	碗類	-	(1.4)	-	漳州窯、16C末~17C初
	156	5T	I	染付	碗類	6.2	(1.2)	-	漳州窯、16C末~17C初
	157	5T	I層	染付	碗類	-	(1.8)	-	漳州窯、16C末~17C初
	158	5T	表採	染付	碗類	6.2	(1.8)	-	漳州窯、16C末~17C初
	159	5T	I層	染付	碗類	-	(2.4)	-	漳州窯、16C末~17C初

第9表 曲輪C（小松ヶ城）出土遺物観察表（3）

挿図	レイアウト番号	出土区	出土層	種別	器種	法量(cm)			特徴
						口径	高さ	底径	
32	160	5T	表層	染付	碗類	-	(2.2)	-	漳州窯、16C末~17C初
	161	5T	表層	染付	碗類	-	(1.8)	-	漳州窯、16C末~17C初
	162	5T	表層	染付	碗類	-	(1.5)	-	漳州窯、16C末~17C初
	163	5T	1層	染付	碗類	-	(2.8)	-	漳州窯、16C末~17C初
	164	5T	1層	染付	皿類	-	(1.9)	-	漳州窯、16C末~17C初
	165	5T	1層	染付	皿類	-	(1.5)	-	漳州窯、16C末~17C初
	166	5T	表土	染付	碗類	-	(1.9)	-	漳州窯、16C末~17C初
	167	5T	1	染付	碗類	5.7	(2.2)	-	漳州窯、16C末~17C初
	168	5T	1層	染付	碗類	-	(2.1)	-	漳州窯、16C末~17C初
	169	5T	1層	染付	碗類	5.8	(2.4)	-	漳州窯、16C末~17C初
	170	5T	1層	染付	碗類	5.8	(2.2)	-	漳州窯、16C末~17C初
	171	5T	1層	染付	碗類	5.0	(2.3)	-	漳州窯、16C末~17C初
	172	5T	表層	染付	碗類	-	(2.4)	-	漳州窯、16C末~17C初
	173	5T	1層	染付	碗類	-	(2.1)	-	漳州窯、16C末~17C初
	174	5T	1層	染付	碗類	-	(1.35)	-	漳州窯、16C末~17C初
33	175	表探	表探	瓦	平瓦	-	-	-	灰、平瓦 長(2.2)
	176	5T	1層	土錘	-	-	-	-	長32 径24
	177	5T	I下層	土錘	-	-	-	-	長28 径(1.1)
	178	5T	1層	鉄器	鉄釘?	-	-	-	長4.0 厚0.9
	179	5T	1層	鉄器	不明	-	-	-	長2.3 厚0.8
	180	5T	I下層	鉄器	鉄釘?	-	-	-	長3.2 厚1.2
	181	5T	I下層	鉄器	不明	-	-	-	長5.4 厚0.4
	182	4T	表層	繩文土器(早期)	深鉢胴部	-	-	-	貝殻文系か、格子状の調節痕だが摩耗が激しい
	183	4T	表層	繩文土器(早期)	深鉢胴部	-	-	-	貝殻文の調整か、複数回ナデられ、貝殻文が消えている部分もある

175は平瓦である。

176、177は土錘である

178~181は鉄製品で、178、180は和釘であると思われる。

182、183はともに貝殻文がみられ、繩文早期の土器である。

第6節 曲輪D（捨殿ヶ城）の調査 [第34図]

(1) 調査の概要

曲輪D（捨殿ヶ城）は標高約89メートルで曲輪D（小松ヶ城）の南西部に位置する。曲輪D（小松ヶ城）とは標高約85メートルの一段低い広場をもってその境界を隔てている。西部は治山事業にて曲輪の大部分が消滅しているが、曲輪B（水夫ヶ城）同様に上段・下段の曲輪の構成である。

この上下段を隔てる法面には巨礫や瓦器片、瓦片、自然礫が多く見られる。曲輪D（捨殿ヶ城）では、1トレンチを設定した。遺構の検出状況は第34図の通りである。

(2) 遺構 [第34図~第38図]

・硬化面

1トレンチ2層下位から検出された。トレンチ東側はカクラン部と思われたが、西側の硬化面とはほぼ同レベルであることから、硬化面作出時の造成土の可能性を考えられる。

・青磁・土師器集積遺構

硬化面から出土し、青磁集積遺構は、径約 50 センチ内の範囲で集中して出土しており、土坑等は伴わない。土師器集積遺構は、青磁集積遺構の南側、約 40 センチの場所に径 30 センチ内の範囲で集中して出土する。こちらも土坑等は伴わない。出土状況からみて当時のままの状況であると考える。

(3) 遺物 [第 39 図～第 42 図、第 10 表]

184～210 は曲輪 D (捨殿ヶ城) の出土遺物である。

184 は古墳時代の土器と思われる。内面ケズリ、外面ナデ調整。

185～187 は土師器である。185 は皿で内、外面ナデ、糸切底である。186 は小皿で内面ナデ、糸切底。187 は壺で内、外面ナデで調整している。

188～191 は須恵質陶器である。188 は内面ナデ、外面綾杉文が残る。189、190 は内面ナデ、外面格子目タタキで調整している。

192～205、207、209 は瓦質器である。192～199 はすり鉢で 192 は内面ハケメ、外面綾杉状のタタキで調整。193 は内面摩耗激しく不明、外面ナデ調整。194 は注口付すり鉢で外面はナデ調整。195 はすり鉢の小片。196～199、206 は内、外面ナデ調整である。200 は羽釜と思われる。201～205 は奈良火鉢である。207 は壺の底部で内、外面ナデ調整。209 は壺で内、外面ナデ調整である。

206 は備前焼のすり鉢である。208 は備前焼の壺である。

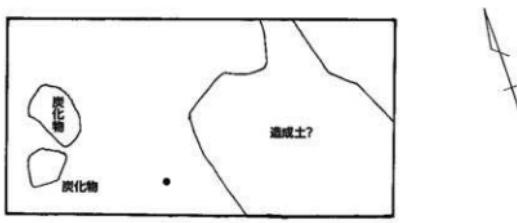
210 は鬼瓦の一部か道具瓦であると思われるが、詳細は不明である。

第 10 表 曲輪 D (捨殿ヶ城) 出土遺物観察表

挿図	レイアウト番号	出土層	種別	器種	法量(cm)			特徴
					口径	高さ	底径	
39	184	表採	古墳?	土器	-	(5.2)	-	橙
	185	II上	土師器	皿	-	(1.5)	3.4	橙 糸切底
	186	土師OP 30.32	土師器	小皿	-	(0.8)	2.8	浅黄橙 糸切底
	187	表採	土師器	壺	10.1	4.9	6.1	浅黄橙 糸切底
	188	表採	須恵質陶器	壺	-	(7.3)	-	灰
	189	表採	須恵質陶器	壺	-	(6.5)	-	灰
	190	表採	須恵質陶器	壺	-	(6.0)	-	灰
	191	表採	須恵質陶器	壺	-	(5.4)	-	灰
40	192	表採	瓦質器	すり鉢	-	(10.7)	-	灰
	193	表採	瓦質器	すり鉢	-	(7.0)	-	浅黄橙
	194	表採	瓦質器	注口付すり鉢	-	(8.2)	-	浅黄橙
	195	表採	瓦質器	すり鉢	-	(3.0)	-	浅黄橙
	196	表採	瓦質器	すり鉢	15.0	(8.5)	-	浅黄橙
	197	表採	瓦質器	すり鉢	16.0	(6.3)	-	浅黄橙
	198	表採	瓦質器	すり鉢	-	(5.4)	-	浅黄橙
41	199	表採	瓦質器	すり鉢	-	(6.0)	-	浅黄橙
	200	表採	瓦質器	羽釜?	-	(8.8)	-	浅黄橙
	201	表採	瓦質器	火鉢	-	(7.5)	12.3	奈良火鉢、脚付
	202	表採	瓦質器	火鉢	(24.0)	(7.5)	-	奈良火鉢、巴文スタンプ
42	203	表採	瓦質器	火鉢	23.8	(5.5)	-	奈良火鉢
	204	表採	瓦質器	火鉢	-	(7.2)	-	奈良火鉢
	205	表採	瓦質器	火鉢	-	(7.1)	-	奈良火鉢
	206	表採	陶器	すり鉢	12.6	-	-	備前、室町時代
	207	表採	瓦質器	壺	-	(4.5)	6.9	浅黄橙 底部
	208	表採	陶器	壺鉢	-	(6.4)	-	備前、室町時代
	209	表採	瓦質器	壺	6.3	(3.5)	-	浅黄橙
	210	表採	R?	-	-	-	-	(器種不明)、鬼瓦?、道具瓦?

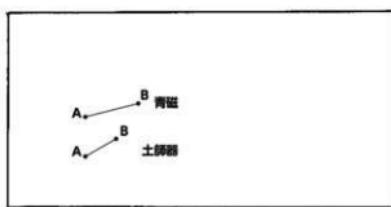


第34図 曲輪D (捨殿ヶ城) 遺構検出図

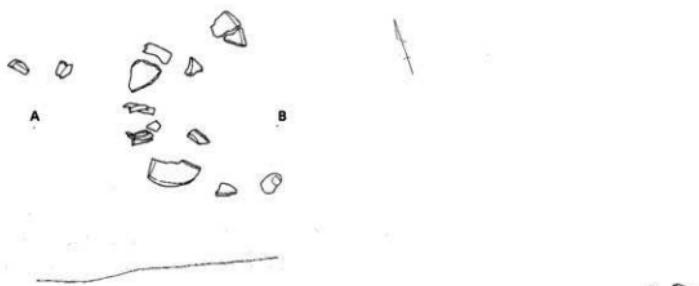


第35図 曲輪D (捨殿ヶ城) 1トレンチ遺構検出状況及び
遺物出土状況

0 2.5m



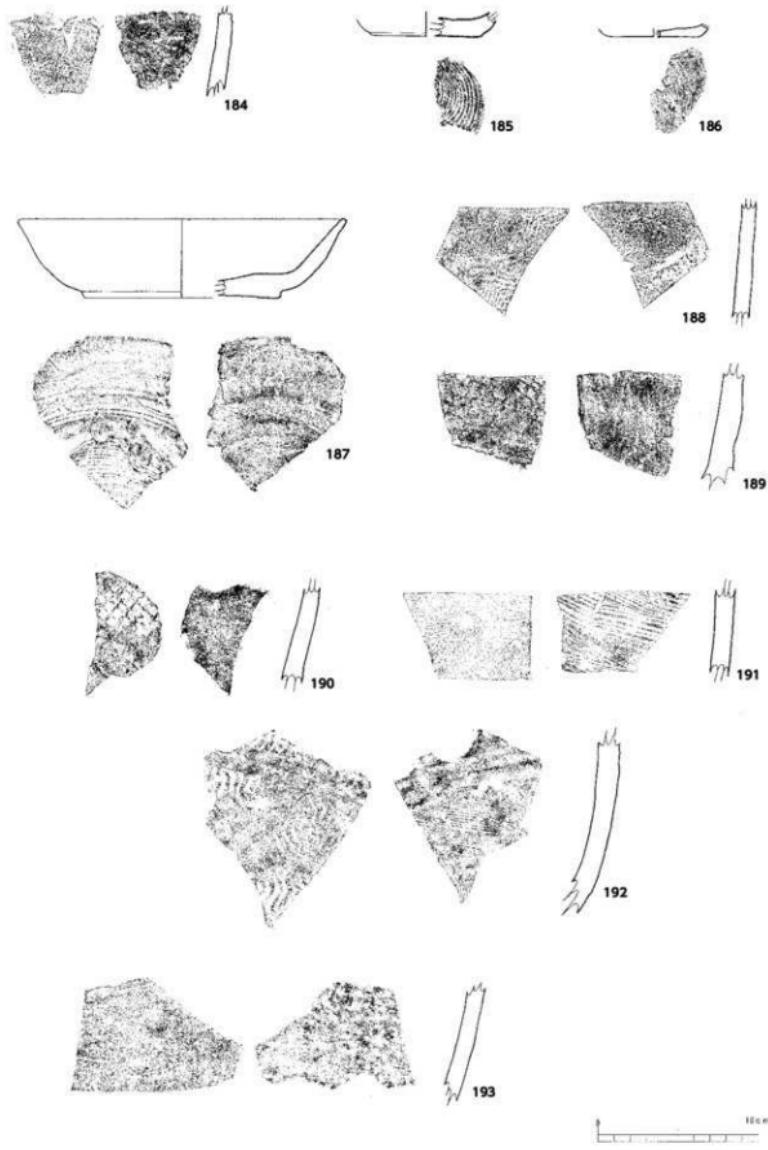
第36図 曲輪D（捨殿ヶ城）1トレンチ青磁・土師器出土状況概要図



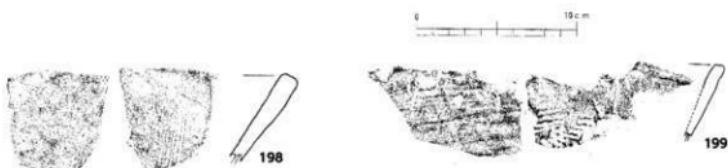
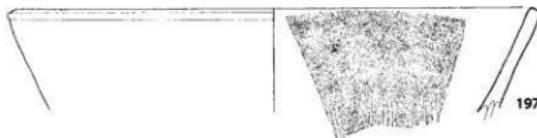
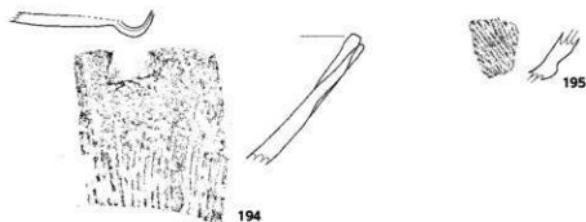
第37図 曲輪D（捨殿ヶ城）1トレンチ青磁集積遺構



第38図 曲輪D（捨殿ヶ城）1トレンチ土師器集積遺構

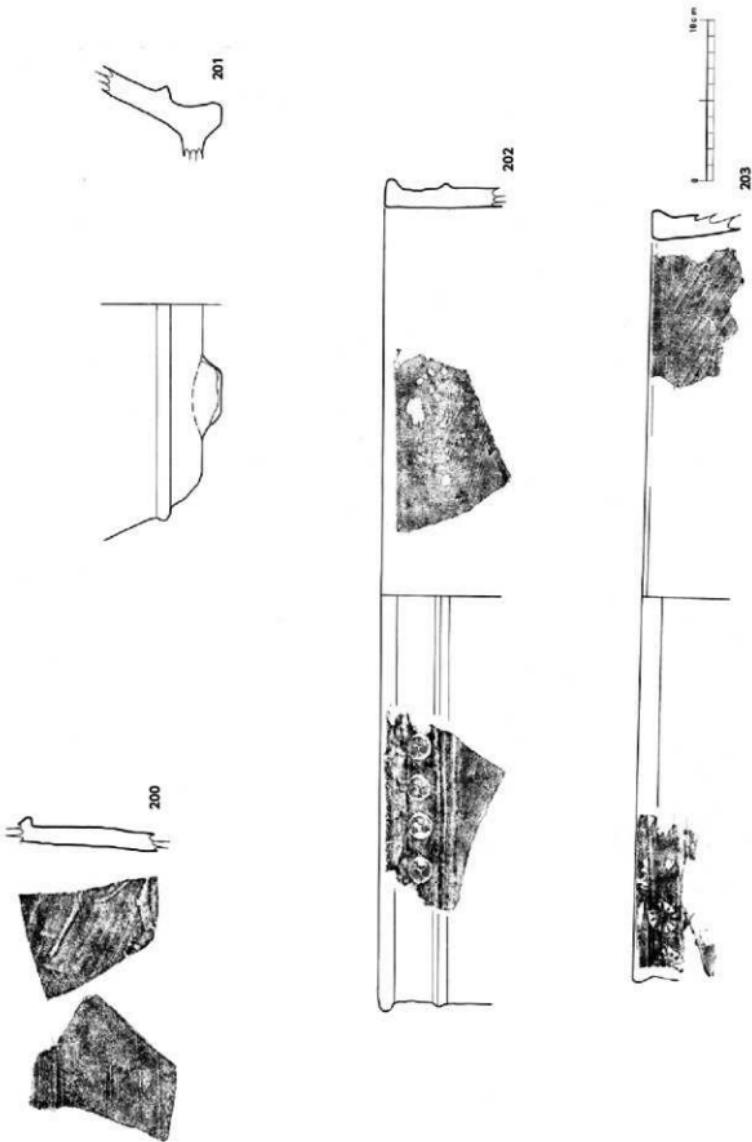


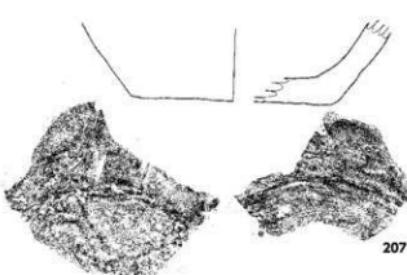
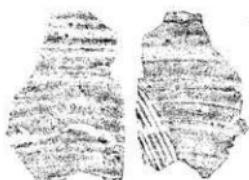
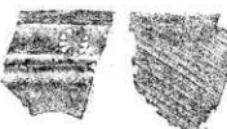
第39図 曲輪D（捨殿ヶ城）表～包含層出土遺物（古墳時代土器、土師器、須恵質陶器）



第40図 曲輪D（捨殿ヶ城）表探出土遺物①（瓦質器）

第41図 曲輪D（捨殿ヶ城）表採出土遺物②（瓦質器）

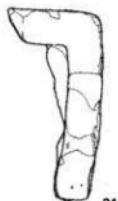




207



209



第42図 曲輪D（捨殿ヶ城）表採出土遺物③（瓦質器、陶器、瓦）

第7節 曲輪F（住吉ヶ城）の調査〔第5図〕

(1) 調査の概要

曲輪F（住吉ヶ城）は標高約83メートルで北側に空堀を隔てて曲輪Gが位置する。虎口が現存し曲輪の南側から東側にかけて土壘状の遺構も現存する。曲輪F（住吉ヶ城）では、礎石と思われる礫が表面で確認された付近に1トレンチを設定した。遺構は見られなかったが、土師器、陶器類、瓦等が出土した。

(2) 遺物〔第43図～第47図、第11表〕

211～242は曲輪F（住吉ヶ城）の出土遺物である。

211、212は縄文早期の土器である。

213～217は土師器である。213、214は皿・壺類で内、外面ナデ調整。215、216は皿で内、外ナデ調整。217は澄明皿で口縁部にタールが付着する。

218は土師質の土器で浅黄橙を呈し、内面ナデ、外面ハケメで調整している。

219は須恵質陶器のすり鉢で内、外面ハケメで調整している。

220～225は瓦質土器である。220、222はすり鉢で220は内、外面ハケメで調整。222は内、外面ナデ調整である。221、223～225は甕である。221は内面摩耗が激しく調整痕不明、外面は工具によるナデ調整。223、224は内、外面ナデ調整。225は内面ナデ調整、外面に櫛描痕が6本残る。

226は陶器で外面に鉄軸を施釉する。

227は蓋であると思われ、黒色を呈し全面ミガキが施される。

228は白磁の小鉢で内面にヘラガキの施文が見られる。

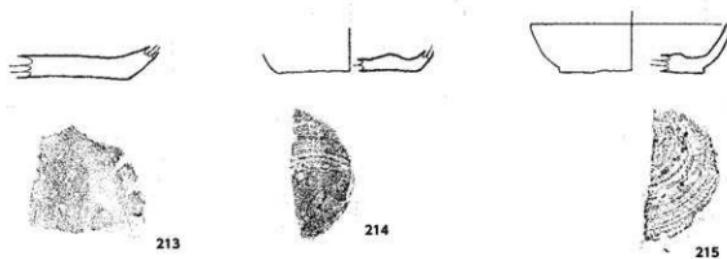
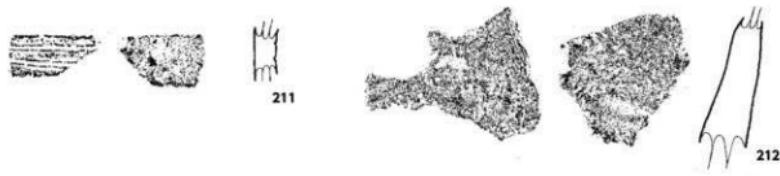
229は青磁の碗で口唇部の内側にわずかな段が見られる。

230は白磁の碗で高台内施釉、畳付は無釉である。

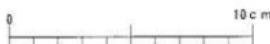
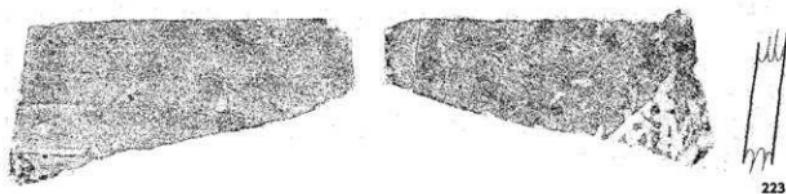
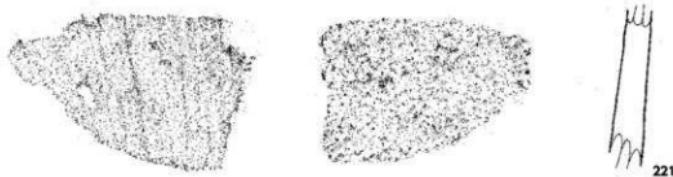
231～239は染付である。231は碗で見込に重ね焼きの痕、内、外面に一条の界線が見られ、高台、畠付とも施釉している。232は皿で内面に一条の界線。233は碗で見込に花果文、見込付近に二条の界線、外面腰に一条の界線、高台に二条の界線が見られ、高台内も施釉する。234は内、外に一条の界線。235は内面白唇部に櫻文、外面に呉須による文様が見られる。236は見込に一条の界線、外面に芭蕉葉文。237は内面白唇部付近に一条の界線、見込付近に三条の界線、外面に呉須による文様が見られる。238は内面に一条の界線、外面に呉須による太線の文様。239は、内面白唇部に一条の界線、外面上部に一条の界線、呉須による文様、細かい貫入が見られる。

240は、古唐津の碗である。

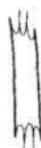
241、242は瓦で平瓦である。



第43図 曲輪F（住吉ヶ城）表～包含層出土遺物①（土師器、瓦器、須恵質陶器）



第44図 曲輪F（住吉ヶ城）表～包含層出土遺物②（須恵質陶器、瓦質器、陶器）



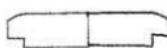
224



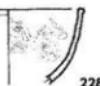
225



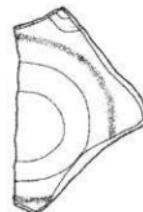
226



227



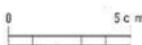
228



229



230



5 c m

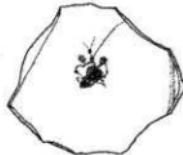


231

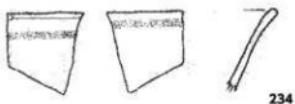
第45図 曲輪F（住吉ヶ城）表～包含層出土遺物③（陶器、磁器）



232



233



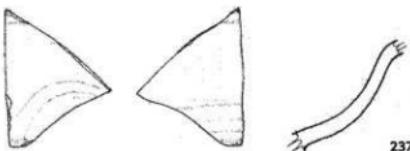
234



235



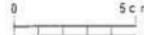
236



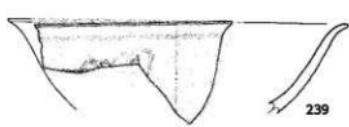
237



238



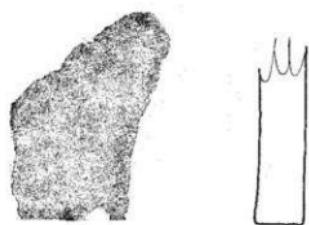
第46図 曲輪F（住吉ヶ城）表～包含層出土遺物④（染付）



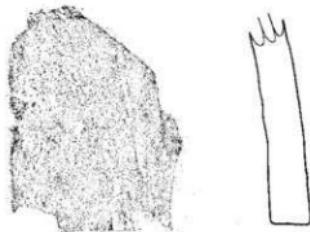
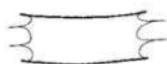
239



240



241



第47図 曲輪F（住吉ヶ城）表～包含層出土遺物⑤（染付、瓦）

第11表 曲輪F(住吉ヶ城)出土遺物観察表

挿図	レイアウト番号	出土区	出土層	種別	器種	法量(cm)			特徴
						口径	高さ	底径	
43	211	1T	I	縄文土器			(2.2)		縄文早期?
	212	1T	Ⅲ	縄文土器					縄文早期?
	213	1T	表層	土師器	皿・壺		(1.4)		浅黄橙、系切底
	214	1T	I	土師器	皿・壺		(0.8)	5.8	浅黄橙、系切底
	215	1T	I	土師器	皿		2.0	5.8	浅黄橙、系切底
	216	1T	Ⅱ	土師器	皿		(1.6)		浅黄橙、系切底
	217	1T	I	土師器	皿	8.8	(1.7)		浅黄橙、口縁部スス付着
	218	ハイド		土師質陶器	-		(4.5)		浅黄橙
	219	1T	I	須恵器	すり鉢		(2.2)		灰
44	220	1T	I	瓦質器	すり鉢		(3.6)		灰
	221	1T	Ⅱ	瓦質器	甕		(6.3)		浅黄橙
	222	1T	I	瓦質器	すり鉢		(4.3)		灰
	223	1T	Ⅱ	瓦質器	甕		(5.4)		浅黄橙
45	224	ハイド		瓦質器	甕		(4.5)		浅黄橙
	225	1T	I	瓦質器	甕		(4.7)		浅黄橙
	226	1T	Ⅱ	陶器	壺類		(2.9)		外部に鉄輪
	227	ハイド		陶器	蓋?	6.2	1.3	-	黒色、丁寧なミガキ
	228	1T	Ⅱ	白磁	小鉢	3.1	3.0	-	14C頃、内面にヘラガキ
	229	1T	表層	青磁	碗	14.0	(3.3)		中国産
	230	ハイド		白磁	碗		(2.9)		高台内施釉、足付無釉
	231	1T	I	磁器	碗		4.8		漳州窯、16C後
	232	1T	I	染付	皿	9.0			景德鎮窯、16C
46	233	1T	I	染付	碗		(2.1)	5.4	見込に花果文、景德鎮窯、16C
	234	1T	表層	染付	碗		(3.3)		漳州窯、16C末~17初
	235	1T	I	染付	碗・皿				摩文、景德鎮窯、16C
	236	1T	I	染付	碗		(2.2)		芭蕉葉文、漳州窯、15C~16C中
	237	1T	I	染付	碗				中国産
47	238	ハイド		染付	碗		(2.2)		漳州窯、16C末~17初
	239	1T	表層	染付	碗	14.0			漳州窯、15C~16C前
	240	1T	I	陶器	碗		(2.1)		古唐津(1590~1610)
	241	1T	I	瓦	平瓦				灰白、長(9.1)、短(7.1)
	242	1T	I	瓦	平瓦				灰白、長(8.9)、短(6.2)

第8節 曲輪Gの調査〔第48図〕

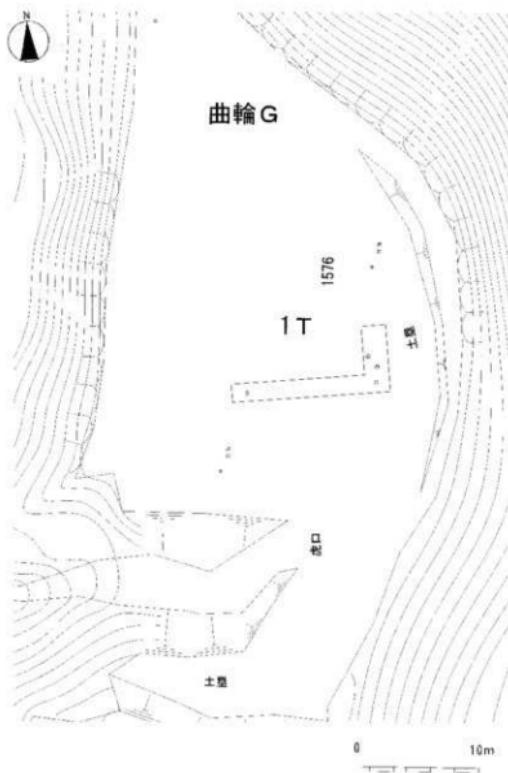
(1) 調査の概要

曲輪Gの標高は、約77メートルである。虎口が現存し、曲輪東側に長さ約29メートルの土壘状造構も現存している。白磁・染付が出土。曲輪Gでは、1トレンチを設定した。造構の検出状況は第48図の通りである。

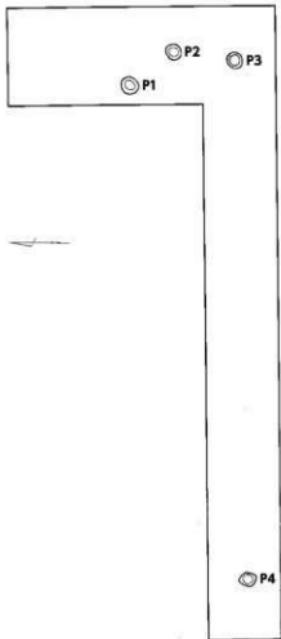
(2) 造構〔第48図~第49図、第12表〕

・ピット

トレンチ3層上面からピットが4基検出された。P1~3はトレンチ東側に集中しており、検出面の形狀はほぼ円形である。P4はトレンチ西側から検出された。トレンチ調査のため建物跡の存在を示すものは確認できなかった。



第48図 曲輪G遺構検出図



第49図 曲輪G 1トレンチ遺構検出図

第12表 曲輪G 遺構計測表

挿図	調査区	遺構	計測値(単位:cm)			形状			遺物・備考
			長径	短径	深さ	検出面	底面	断面	
49	1T	P1	40	38	-	円形	-	-	段掘り
	1T	P2	32	30	-	円形	-	-	段掘り
	1T	P3	36	32	-	円形	-	-	段掘り
	1T	P4	40	30	-	楕円形	-	-	段掘り

(3) 遺物【第50図、第13表】

243～245は曲輪Gの出土遺物である。

243は青磁の皿で外面に鎬連弁が見られる。

244は口禿の白磁皿である。口縁部は端反りする。245は白磁猪口である。

第13表 曲輪G 出土遺物観察表

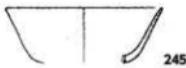
挿図	レイアウト番号	出土区	出土層	種別	器種	法量(cm)			特徴
						口径	高さ	底径	
50	243	1T	I	白磁	皿				鎬連弁、景德鎮窯
	244	1T	II	白磁	皿	15.0	(2.5)		口禿、景德鎮窯、13C～14C中
	245	1T	I	白磁	猪口	6.4	(2.2)		景德鎮窯



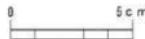
243



244



245



第50図 曲輪G 1トレンチI層・II層出土遺物（青磁・磁器）

第4章 自然科学分析

出水城跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

出水城跡は、中世山城跡であり、建久年間(1190年～1199年)に和泉兼保によって築かれたとされる。享徳2年(1453年)には、島津忠国の大弟久が薩摩島津家を興し、出水城を本拠とした。出水城の中心的機能を持っていた曲輪は、水夫ヶ城跡と呼ばれており、トレンチ調査では石列遺構、栗石ピット、柱穴跡、配石遺構等が検出されている。

本報告では、遺構・層位の年代確認のための放射性炭素年代測定とテフラ分析、古植生や木材利用を検討するための樹種同定、坩堝の使用状況を検討するための蛍光X線分析を実施する。

I.6 トレンチ出土炭化材の放射性炭素年代測定

1. 試料

試料は、6トレンチ(6T)から採取された炭化物(No.1)1点である。炭化物は炭化材の小片であり、樹皮は残存していない。6トレンチの炭化材は、7mm角以下の炭化材片が多数ある中から、最も大きな破片(3年分の年輪)を抽出して測定試料とした。

2. 分析方法

試料中の土壤や根などをメスやピンセットを用いて取り除いた後、HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C(30分)850°C(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma; 68%)に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0.(Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期 5.730 ± 40 年)を較正することである。暦年較正は、CALIB 7.1.0 のマニュアルにしたがい、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正結果は $\sigma \cdot 2 \sigma$ (σ は統計的に真の値が 68.2% の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が 95.4% の確率で存在する範囲) の値を示す。また、表中の相対比は、 $\sigma \cdot 2\sigma$ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。なお、較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値も併記する。

3. 結果

放射性炭素年代測定・暦年較正結果を表 1 に示す。同位体効果の補正を行った値(補正年代)は、6 トレンチの炭化材は 380 ± 20 BP である。また、測定誤差を σ で計算した暦年較正結果は、6 トレンチの炭化材が calAD1,453-1,614 である。

表 1. 放射性炭素年代測定結果

トレンチ 試料名	種類	処理 方法	測定年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) BP	暦年較正結果			Code No.
						誤差	cal BC/AD	cal BP	
2T 炭化物 灰	炭化材	AaA	24,500±80	-30.43 ± 0.27	$24,410 \pm 80$ ($24,412 \pm 84$)	σ	cal BC 26,661 - cal BC 26,399	cal BP 28,610 - 28,348 1000	IAAA- 143268
						2σ	cal BC 26,765 - cal BC 26,254	cal BP 28,714 - 28,203 1000	
6T 炭化物 No1	炭化材	AAA	460±20	-29.97 ± 0.32	380 ± 20 (381 ± 20)	σ	cal AD 1,453 - cal AD 1,493	cal BP 497 - 457 0802	IAAA- 143269
						2σ	cal AD 1,602 - cal AD 1,614	cal BP 348 - 336 0198	
						σ	cal AD 1,446 - cal AD 1,521	cal BP 504 - 429 0772	
						2σ	cal AD 1,577 - cal AD 1,588	cal BP 373 - 367 0008	
							cal AD 1,591 - cal AD 1,620	cal BP 359 - 330 0230	

- 1) 処理方法の AAA は、酸処理 - アルカリ処理 - 酸処理を示す。アルカリ濃度が 1M 未満の場合には AaA と表記している。
- 2) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。
- 3) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
- 4) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の 68% が入る範囲) を年代値に換算した値。
- 5) 暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を使用した。
- 6) 暦年の計算には、補正年代に () で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
- 7) 年代値は、1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は 1 桁目を丸めていない。
- 8) 統計的に真の値が入る確率は σ は 68.3%、 2σ は 95.4% である
- 9) 相対比は、 σ 、 2σ のそれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

4. 考察

6 トレンチの炭化材は、補正年代が 380 ± 20 BP であり、 σ で計算した暦年較正結果から 15 世紀中頃～17 世紀初頭頃の年代が推定される。この年代は、出水城が機能していた時期に該当し、当該期における木材利用の痕跡と考えられる。

II . 2 トレンチのテフラ分析と放射性炭素年代測定

1. 試料

テフラ分析の試料は、出水城跡の地区 2 トレンチ (2T) より採取された姶良 Tn 火山灰(AT; 町田・新井, 1976) とされる火山灰質土壌 1 点である。試料の外観は、にぶい黄褐色を呈するシルト質砂である。

放射性炭素年代測定の試料は2トレンチから採取された炭化物の1点であり、姶良Tn火山灰とされる火山灰質土壤の下位にある。炭化物は材の小片であり、樹皮は残存していない。2トレンチの炭化材は、5mm角以下で年輪界が認められない1年分の小片を数片集めて測定試料とした。

2. 分析方法

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のものとする。

屈折率の測定は、処理後に得られた砂分から摘出した火山ガラスを対象とする。屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いる。

放射性炭素年代測定の分析方法は、上記と同様である。

3. 結果

テフラ分析の結果を表2に記す。火山ガラスが多く、軽石が極めて微量検出された。スコリアは認められない。火山ガラスは、無色透明の軽石型火山ガラスが多く、次いでバブル型火山ガラスが多く含まれる。また、褐色を呈するバブル型火山ガラスが微量混在する。軽石は、最大径約2.0mm、白色を呈する発泡良好のものが含まれる。試料中に含まれる砂粒は、無色透明～白色を呈する石英、斜長石が多く含まれ、有色鉱物として、斜方輝石、不透明鉱物が微量含まれる。岩片は、最大径約1.6mmで、凝灰岩、流紋岩および頁岩などが微量含まれる。検出された火山ガラスの屈折率測定結果を図1に記す。火山ガラスは、n1.497からn1.500までの狭いレンジで、n1.498前後の集中度が極めて高い。

放射性炭素年代測定・暦年較正結果を表1に示す。同位体効果の補正を行った値(補正年代)は、2トレンチの炭化材が $24,410 \pm 80$ BPである。また、測定誤差を σ で計算した暦年較正結果は、2トレンチの炭化材が^tcalBP28,610-28,348である。

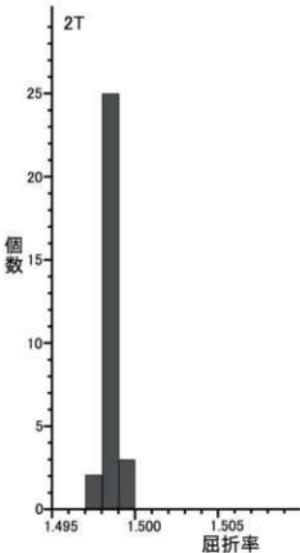


図1. 火山ガラス屈折率

表2. テフラ分析結果

トレンチ	層位	スコリア 量	火山ガラス		軽石			備考
			量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径	
2T	AT サンプリング	-	++++	cl·pm>cl·bw. hr·bw	(+)	W·g	20	砂粒の主体は、無色透明～白色の石英、斜長石が多く含まれ、有色鉱物として、斜方輝石、不透明鉱物が微量含まれる。岩片は、凝灰岩や流紋岩、頁岩などが微量含まれる。

凡例 - : 含まない、(+) : きわめて微量、++++ : 多量。

W : 白色

g : 良好、最大粒径は mm。

cl : 無色透明、br : 褐色、bw : パブル型、pm : 軽石型。

4. 考察

検出された火山ガラスおよび軽石は、遺跡の地理的位置および火山ガラスの形態、および、n1.497 から n1.499 までの低い屈折率を示すことから、AT に対比される。AT は、鹿児島県の鹿児島湾奥に位置する始良カルデラを給源とするテフラである。AT を噴出した活動は、大規模なブリニアン噴火にはじまり、多量の大隅降下軽石をもたらした。つづいて水蒸気マグマ噴火による火碎流、妻屋火碎流堆積物が噴出し、わずかな時間間隔をおいて破局的噴火により入戸火碎流堆積物と呼ばれる膨大なテフラが噴出した（町田・新井, 2003）。

2 トレンチの炭化材は、検出状況をみると火山灰分析を実施した火山灰層の下位より検出されている。炭化材の補正年代は $24,410 \pm 80$ BP、暦年較正結果は calBP28,610-28,348 であった。福井県水月湖の年縞堆積物等を用いた最新の研究成果によれば、AT の暦年代は $30,009 \pm 189$ 年前という値が示されており、約 30,000 年前であることが定まったとされる（工藤, 2013）。この結果に基づくと、今回の炭化材の暦年較正年代は AT 直下という出土層位と概ね調和した結果と言って良いが、若干の年代差については、今後の研究成果なども注目し、引き続き検討する必要がある。

III. 樹種同定

1. 試料

試料は、2 トレンチと 6 トレンチから出土した炭化材各 1 点と 4 トレンチ（4T）から出土した煙管（キセル）の羅字 1 点の合計 3 点である。なお、2 トレンチと 6 トレンチの炭化材は、年代測定試料と同じ試料中から同一種類の別個体を対象として実施する。

2. 分析方法

キセルの羅字は、吸口に差し込まれた状態である。羅字を吸口から抜いて、内側の隠れる部分で分析を実施する。乾燥した状態であるため、採取箇所に水を含ませた JK ウィバーを押してて、木質に水分を含ませた後、剃刀で横断面および縦断面の切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本と比較して種類（分類群）を同定する。

炭化材は、自然乾燥させた後、木口（横断面）・柵目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）や Wheeler 他（1998）を参考にする。また、

日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表3に示す。羅字はイネ科タケ亜科、炭化材は針葉樹のモミ属と広葉樹のスダジイに同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・モミ属 (Abies) マツ科

試料は年輪界が認められない。軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は保存が悪いか厚保壁であり、垂直壁にはじゅず状の肥厚と思われる痕跡がある。分野壁孔はスキ型で1分野に1-4個。放射組織は単列、1-20細胞高。

表3 樹種同定結果

トレンチ	層位	取上No.	試料名	形状	材質	種類
2T			炭化物	小破片	炭化材	モミ属
4T	II層		キセルの羅字	丸木(中空)	生木	イネ科タケ亜科
6T		No1	炭化物	小破片	炭化材	スダジイ

・スダジイ (*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1-2個幅で放射方向に配列する。孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高。

・イネ科タケ亜科 (Gramineae subfam. Bambusoideae)

試料は中空の円筒状を呈する。観察した範囲で放射組織が認められない。僅かに採取できた横断面の切片では、小径の道管を開むように師部細胞があり、さらに外側に厚壁の纖維細胞（維管束鞘）が配置する様子が見られる。この結果から、不齊中心柱の構造を持つと考えられ、観察できた組織の特徴と合わせてタケ亜科に同定した。

4. 考察

煙管(キセル)は、刻煙草用の喫煙具であり、16世紀前半にポルトガルやスペインの貿易船によって煙草と共に日本にもたらされたとされる(工藤,2008)。煙管は、木製、陶製、ガラス製など例外的な資料もあるが、雁首(煙草を詰める火皿を含む前部)と吸口を金属で作り、その間をラオ竹(羅字)で繋いだものが一般的である。今回の資料は、吸口に羅字の一部が刺さったまま残っている。樹種同定により、羅字はタケ亜科であることが確認された。タケ亜科は、中空の円筒状を呈する上に強靭で丈夫な材質を有することから、煙を通す管として最適の素材として利用されたことが推定される。ラオ竹の語源は、ラオスの斑竹を使ったことに由来するとのされる(工藤,2008)。今回の資料についても、ラオスの斑竹かは組織学的に判別できないが、細竹を用いている点は、一般的な煙管と同様の利用状況である。

出土した煙管の羅字について樹種同定を実施した例は少ない。伊東・山田(2012)のデータベースでは、北海道の美ヶ八遺跡から出土したアイヌ文化期の羅字2点のデータが掲載されているのみであるが、いずれもタケ亜科のササとされており、今回と同様の木材利用が認められている。

2トレンチから出土した炭化材は、年代測定で $24,410 \pm 80\text{BP}$ の補正年代が得られており、

最終氷期の炭化材であることが伺える。モミ属には、いわゆる中間温帯に生育するモミのほか、亜高山帯に分布するウラジロモミ、シラビソ、オオシラビソや北海道に分布するトドマツがあるが、現在の九州では、モミ以外の種類は分布していない。ただし、宮崎県の加久藤盆地の最終氷期後期前半とされる溝園層から産出した植物遺体にはエゾマツやシラビソが報告されており(Miki and Kokawa,1962)、最終氷期にはモミ以外のモミ属も南九州に分布していたことが推定される。しかし、本地域を含む九州地方南部西岸地域では、最終氷期の古植生に関する調査事例が少なく、詳細は不明である。今回の結果から、モミ属等のマツ科針葉樹の分布が伺える。今後、さらに資料を蓄積することで古植生を解明することが期待される。

6トレンチの炭化材は、年代測定で 380 ± 20 BPの補正年代が得られており、出水城が機能していた時期の炭化材と考えられる。炭化材は、広葉樹のスダジイに同定された。スダジイは、暖温帶性常緑広葉樹林の主要な構成種の一つであり、主に海岸に近い山地・丘陵地の尾根筋等を中心に生育し、木材は比較的重硬な部類に入る。スダジイは、現在も本地域の山野に普通に見られる樹木であり、当該期の遺跡周辺でも森林の主要な構成種として分布していたことが推定される。今回の試料は炭化しており、火を受けていることから、燃料材など火を受けるような用途に利用された可能性がある。

IV. 出土埴堀等の蛍光X線分析

1. 試料

試料は、出水城跡の3トレンチ(3T)および6トレンチから出土した埴堀の破片10点と、亀井山城跡から出土した土器片4点の合計14点である。

2. 分析方法

元素分析は定量分析で実施する。使用機材は日本電子社製 蛍光X線元素分析装置JSX-3201であり、管電圧30kV、管電流(自動)(2mm φの線束)の条件で測定する。

測定箇所は、各試料の滓様の残存物の特徴を示すと考えられる箇所を測定する。とくに、色調の差異に注目し、同一資料中でも、異なった色調にはそれぞれ測定を実施する。

非破壊を原則としているが、母資料の形状上、測定対象箇所にX線をうまく照射できない場合、1mm角程度採取して測定を実施する。

3. 付着状況の観察

鉱滓様残存物の付着状況の観察を以下に示す(図版4)。

・No.1: 出水城3トレンチ

内面の付着範囲は体部下位以下にはば限定され、口縁部には見られない。鈍い黒色を主体にする。1箇所、最大長8mm、最大厚5mmの塊が付着しており、鈍い黒色、赤褐色、緑青色が混じっている。

・No.2: 出水城6トレンチ

緑青色の金属。表面には赤褐色も混じっている。

・No.3: 出水城6トレンチ

内面は全面に付着。上位(口縁部周辺)には赤褐色が厚みに乏しいが付着。下位には、鈍い黒褐色が最大1mmほどの厚さで付着。外面には黒褐色が流れた形跡がある。胎土や滓様の

残存物の特徴から、No.8と同一個体の可能性が考えられる。

・No.4、No.10：出水城6トレンチ（接合資料）

内底面はガラス質の光沢を持つ黒褐色が、ところどころカサブタ状に厚く付着する。最大厚は1mmほど。黒褐色の上端は口縁と水平な線で明瞭に切れる。その上位（体部上半）に鈍い黒褐色～灰褐色、赤褐色が付着するが、No.4ではほぼ全面に付着するのに対し、No.10ではわずかと、分布に偏りがある。外面にも、磨りガラスのような半透明感のある光沢を持つ黒褐色、赤褐色が重ね、最大厚5mmの瘤状に付着する箇所もある。赤褐色は黒褐色の外皮状に分布しているようである。

・No.5：出水城6トレンチ

内面口縁～体部上半に、ほぼ全面に付着。光沢ある黒褐色と鈍い黒褐色が混じる。厚みは1mm以下。資料下位は、光沢のある黒褐色や暗褐色が、わずかに点々と付着する程度。

・No.6：出水城6トレンチ

内面体部上半には、鈍い黒色がほぼ全面に付着。厚みは最大で1mmあるかどうか。内底面周辺には付着なし。口縁端部付近にはガラス質の光沢を持つ黒色が付着する箇所があり、外面にも連続的に垂れる。最大厚は1mm程度。

・No.7：出水城6トレンチ

他の試料よりも小形品。内面体部下位を中心に鈍い黒褐色が分布するが、範囲は広くない。銀色の微粒子も確認できるが、測定するに足るほどの大きさを有しない。

・No.8：出水城6トレンチ

内面ほぼ全面に付着。底面～体部下半は鈍い黒褐色に緑青色が混じる。緑青色部分は厚みを持っており、最大1mmを超える程度。体部上位～口縁部は、鈍い赤褐色が主体となる。外面は、底面付近に瘤状に赤褐色が付着している。体部には鈍い黒～灰褐色が点々と付着している。

・No.9：出水城6トレンチ

内面体部上位～口縁部鈍い灰褐色～黒褐色が見られる。一部では最大厚2mmほどの瘤状になっており、その周辺には、緑青、赤褐色も見られる。体部下位以下は器面があばた状の凹凸になっていて、鈍い黒褐色を呈している。鈍い黒褐色、赤褐色の鉱滓様の残存物が、その凹凸上にわずかに見られるが、器面と色が見分けづらく、範囲をうまく把握できない。外面にも鈍い暗褐色～赤褐色が垂れていて、最大厚2mmほどの瘤状の付着も見られる。光沢には乏しいものの、磨りガラス状の透明感を持っている。

・No.11：亀井山城1～3トレンチ

I層 No.193 内面の底面立ち上がり付近を中心に、径6～8mm、最大厚2mmほどの、不整形の塊状で散在する。表面には大小のアバタ状の凹みが見られる。塊状の主体は鈍い黒褐色で、アバタ凹みの中には緑青色が見られる。

・No.12：亀井山城1～6トレンチ

II F層 No.133 内面底面立ち上がり周辺に付着しているが、資料の残存率が少なすぎて全体の状況推定はできない。鈍い黒褐色で、厚みに乏しい。

・No.13：亀井山城1～6トレンチ

I層 No.134 内面ほぼ全面に付着。ガラス様の光沢を持つ黒色を主体に、緑青色、赤褐色が斑状に混じる

・No.14：亀井山城1～6トレンチ

I 層 No.134 資料の残存率が少なすぎて全体の状況推定はできないが、内面全面に付着。内底面側は光沢のある黒褐色、立ち上がりあたりからは光沢のある赤褐色が混じる。

4. 結果

(1) 埋堀付着物等の蛍光 X 線分析

測定結果を表 4 に示す。以下、試料別に結果を記載する。

< No.1 >

No.1 - 1 :

測定部位／内底面の鈍い黒色

主要な検出元素／Cu (銅)、Sn (スズ)、Pb (鉛)、(As (ヒ素))

推定される鋳造・溶解金属／青銅

No.1 - 2 :

測定部位／内底面の赤褐色

主要な検出元素／Cu (銅)、Sn (スズ)、Pb (鉛)、(As (ヒ素))

推定される鋳造・溶解金属／青銅

< No.2 >

No.2 - 1 :

測定部位／緑青色

主要な検出元素／Cu (銅)、Sn (スズ)、(As (ヒ素))

推定される鋳造・溶解金属／青銅 (鉛を含まない)

< No.3 >

No.3 - 1 :

測定部位／体部の鈍い黒褐色

主要な検出元素／Cu (銅)、Zn (亜鉛)、Sn (スズ)、Pb (鉛)

推定される鋳造・溶解金属／青銅

No.3 - 2 :

測定部位／口縁部の赤褐色

主要な検出元素／Cu (銅)、Zn (亜鉛)、Pb (鉛)

推定される鋳造・溶解金属／銅

No.3 - 1 のスズ含有率が非常に高い一方で、No.3 - 2 からはスズが検出されなかった。溶融混合物の組成のムラが大きかった可能性がある。

< No.4 >

No.4 - 1 :

測定部位／内底面の光沢ある黒褐色

主要な検出元素／Fe (鉄)、Cu (銅)、Zn (亜鉛)、Pb (鉛)、(As (ヒ素))

推定される鋳造・溶解金属／鉄、銅

No.4 - 2 :

測定部位／体部上半の灰褐色

主要な検出元素／Cu (銅)、Zn (亜鉛)、Sn (スズ)、Pb (鉛)

推定される鋳造・溶解金属／青銅

表4 蛍光X線分析結果(1)

元素名	記号	No.1.1(re) 黒色	No.1.2(re) 赤褐色	No.2.1 緑青	No.3.1 黒褐色	No.3.2(re) 赤褐色	No.4.1(re) 黒色(光沢)	No.4.2 灰褐色	No.4.3(re) 赤褐色	No.4.4(re) 黒褐色(光沢)	No.5.1 黒色
ナトリウム	Na										
マグネシウム	Mg	118	162	10.5	0.3	0.6	1.8	1.2	2.2	1.9	
アルミニウム	Al	26.9	37.2	12.0	8.4	11.7	17.2	14.5	11.1	12.5	
ケイ素	Si			10.0	0.3	42.1	37.6	24.1	33.6	40.2	28.6
リン	P		0.2	0.1	0.6			0.2			0.2
硫黄	S		0.1	0.1	0.1	0.2		0.1	0.1		
カリウム	K	3.2	5.8				3.7	4.2	9.7	9.6	3.0
カルシウム	Ca	1.2	6.4	0.5	52	11.6	5.9	4.1	17.1	19.4	6.7
チタン	Ti	1.1	0.7	0.2	0.5	0.3	0.9	0.6	0.9	1.1	1.1
ハロジウム	V										0.0
マンガン	Mn		0.1		0.1	0.3		0.0	0.5	0.6	
鉄	Fe	9.3	5.3	2.6	6.5	4.8	20.6	8.6	8.2	14.5	9.0
コバルト	Co										
ニッケル	Ni	0.8	0.3		0.4		0.2	0.3	0.3		0.5
銅	Cu	29.3	17.6	46.2	6.5	10.5	4.7	14.1	11.1	1.1	33.0
亜鉛	Zn				2.0	0.3	1.9	0.5	0.5		0.2
カリウム	Ga										34
ヒ素	As	0.3	0.3	0.2				0.4			
ルビジウム	Rb										
ストロンチウム	Sr										
銀	Ag										
カドミウム	Cd										
イミニウム	In										
スズ	Sn	55	78	27.4	53.8				19.1		
オスミウム	Os										
イリジウム	Ir										
金	Au										
水銀	Hg										
鉛	Pb	10.5	2.1	100	100	5.5	20	5.0	12.6	2.5	
計		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

表4 蛍光X線分析結果(2)

元素名	記号	No.6.1 黒色 黒色(光沢)	No.6.2(e) 黒色 黒色(光沢)	No.7(MPE) 黒褐色 黒褐色	No.8.1 赤褐色 赤褐色	No.8.2 緑青 黒褐色	No.8.3 黒褐色 黒褐色	No.8.4(re) 黒褐色 黒褐色	No.8.5(MPE) 黒褐色 黒褐色	No.8.6(MPE) 赤褐色 黒褐色	No.9.1 黒褐色 黒褐色
ナトリウム	Na	2.6	3.7	0.3	10.2	2.1	11.9	4.4	5.2	24.4	
マグネシウム	Mg	3.0	5.1	12.7	3.5	11.6	20.1	11.5	14.4	34.9	
アルミニウム	Al	16.2	14.9	48.3	5.2	11.6	20.1				
ケイ素	Si	18.6	44.6		0.4	1.4	0.3				
リン	P	2.1									
硫黄	S			0.1	0.2						0.2
カリウム	K	1.2	1.6	18.8				4.5	7.3		
カルシウム	Ca	1.4	9.9	18.5	5.6	1.6	11.0	15.0	22.5	1.6	
チタン	Ti	0.9	1.7	0.6	0.6	0.4	0.5	0.6	0.8	1.7	
ハロジウム	V	0.1									1.7
マンガン	Mn		0.2	0.3		0.2	0.3	0.5	0.5	0.5	0.1
鉄	Fe	8.2	21.6	38.6	6.1	1.4	4.4	9.0	10.3	8.0	18.3
コバルト	Co							0.8			
ニッケル	Ni	0.7						0.5	0.4	0.4	0.4
銅	Cu	44.4		17.7	3.4	73.3	0.7	6.9	10.1	18.1	
亜鉛	Zn		0.5		0.3	2.2	7.1	6.3	6.3	6.3	
カリウム	Ga										
ヒ素	As			6.3		0.1	0.1				
ルビジウム	Rb										
ストロンチウム	Sr										
銀	Ag										
カドミウム	Cd										
セシウム	In										
スズ	Sn										
オスミウム	Os										
イリジウム	Ir										
金	Au										
水銀	Hg										
鉛	Pb										
計		100	100	4.3	100	100	3.7	6.9	17.6	15.2	20
							100	100	100	100	100

表4 堂光X線分析結果(3)

元素名	記号	No.9.2(re)	No.9.3(re)	No.9.4PE(re)	No.9.4PE(Er)	No.10.10PE	No.11.11PE	No.12.11(re)	No.12.11(Er)	No.13.11	No.13.20(E)	No.14.1	No.14.2
		灰褐色	灰褐色	赤褐色	赤褐色(光沢)	黒褐色	黒褐色	黒褐色	黒褐色(光沢)	赤褐色	黒褐色	黒褐色	赤褐色
ナトリウム	Na		4.4										3.6
マグネシウム	Mg	0.9	0.9									1.2	1.2
アルミニウム	Al	21.4	12.7	7.0	3.5	5.9	9.4	2.5	10.3	1.0	15.2	14.3	
ケイ素	Si	38.9	42.6	14.7	10.4	10.2	23.0		38.5	5.6	47.7	48.3	
リン	P	0.1				2.5	0.5	0.3					
硫黄	S	0.2	0.2										
カリウム	K	5.4	9.0	8.4	0.9	2.8	2.6	5.5		7.2	8.4		
カルシウム	Ca	9.5	17.5	20.6	1.0	3.9	0.9	7.5	0.2	1.6	2.6		
チタン	Ti	1.5	0.8	1.0	0.3	1.2	1.0	0.9		1.5	1.3		
バナジウム	V											0.0	
マンガン	Mn	0.8	1.0			0.2		0.2		0.2		0.1	
鉄	Fe	15.9	8.5	10.0	58.3	13.5	8.5	13.5	0.9	8.3	7.3		
コバルト	Co												
ニッケル	Ni	0.4		0.8	0.5			0.3					
銅	Cu	28	23	32.7	3.6	52.7	30.6		13.0	88.0	10.3	8.6	
亜鉛	Zn	0.1			2.1								
カリウム	Ga												
ヒ素	As												
ルビジウム	Rb												
ストロンチウム	Sr												
銀	Ag												
カドミウム	Cd												
インジウム	In												
スズ	Sn												
オスミウム	Os												
イリジウム	Ir												
金	Au												
水銀	Hg												
鉛	Pb	2.1	100	100	3.7	19.5	6.0	18.8	100	100	100	100	34
計		100		100	100	100	100	100		100	100	100	100

■ 4.8

表5. 蛍光X線分析(胎土)

元素名	記号	No.1-3	No.3-3	No.3-4	No.4-5	No.5-2	No.6-3	No.7-2	No.8-7	No.9-5	No.10-2	No.11-2	No.12-2	No.13-3	No.13-4	No.14-3
ナトリウム	Na	1.0	1.7	5.1	2.6	1.3	2.5	2.0	2.8	2.7	2.0	0.7	1.9	0.8	1.7	0.8
マグネシウム	Mg	1.6	0.1	0.3	0.4	0.4	0.0	0.2	0.0	0.3	1.0	1.1	0.2	1.6		
アルミニウム	Al	21.1	4.9	11.6	24.7	23.9	26.1	25.9	27.3	27.2	24.4	25.1	17.9	19.3	21.5	21.6
ケイ素	Si	51.8	8.1	17.3	46.7	48.2	43.9	44.9	41.2	39.9	45.5	55.6	52.3	50.3	46.4	49.7
リン	P	0.4	0.2	0.2	0.0			0.2	0.2				0.3		0.1	
硫酸	S	0.0		0.1					0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
カリウム	K	7.3	7.6	10.7	11.1	9.3	7.8	10.3	12.6	12.4	11.9	6.8	7.8	5.5	5.8	7.4
カルシウム	Ca	1.0	3.1	3.7	2.4	1.5	2.9	1.1	1.3	1.9	0.9	0.3	1.6	1.0	1.1	0.9
チタニウム	Ti	2.0	19.4	15.7	1.3	1.3	1.2	1.6	1.5	1.5	1.5	2.9	1.6	1.8	1.8	2.4
ハチantium	V	0.0	0.1			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
マンガン	Mn	0.2	0.7	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	0.0	0.2	0.1	0.1	
鉄	Fe	13.5	46.7	29.6	10.3	11.4	12.1	13.5	12.2	13.7	13.3	7.9	15.4	19.3	21.0	14.6
銅	Cu	4.9	3.5	0.1	1.7	1.8	0.4				0.1	0.2	0.2	0.2	0.4	
亜鉛	Zn				0.6	0.4							0.1			
ヒ素	As			0.1		0.1										
ルビリウム	Rb	0.1	0.8	0.7	0.0	0.0	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	
ジルコニア	Zr	0.1	1.7	1.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	
鉛	Pb			0.6		0.5										
	計†	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

No.4 - 3 :

測定部位／外面口縁部の赤褐色

主要な検出元素／Cu（銅）、Zn（亜鉛）、Pb（鉛）

推定される鋳造・溶解金属／銅

No.4 - 4 :

測定部位／外面口縁部の光沢ある黒褐色

主要な検出元素／Fe（鉄）、Cu（銅）

推定される鋳造・溶解金属／鉄？銅

No.4 - 1 は鉄が多く検出されたが、銅との合金が作成されたとは考えられない。ガラス質の光沢は、溶解の際に酸化を防ぐために薬灰をかぶせ、それが溶融したためにガラス質の被膜が生成したものと思われる。しかし、光沢のある黒褐色の上端ラインは直線的であるので、全体ではなく、一部分のみを覆ったものと考えられる。

< No.5 >

No.5 - 1 :

測定部位／体部上半の黒褐色

主要な検出元素／Cu（銅）、Zn（亜鉛）、As（ヒ素）

推定される鋳造・溶解金属／銅

< No.6 >

No.6 - 1 :

測定部位／体部上半の鈍い黒色

主要な検出元素／Cu（銅）、As（ヒ素）

推定される鋳造・溶解金属／銅（ヒ素銅か？）

No.6 - 2 :

測定部位／外面口縁部の光沢ある黒褐色

主要な検出元素／Fe（鉄）

推定される鋳造・溶解金属／鉄

No.6 - 1 と No.6 - 2 で全く異なる金属が、それぞれほぼ単独に近いかたちで検出されている。

No.6 - 2 は No.4 - 1 同様、ガラス質の光沢を持っているので、No.4 で推定されるような、酸化防止の被覆が行われていると考えた場合、被覆材（薬灰など）の鉄分含有率が高かった可能性についても、考慮されるのではないだろうか。

< No.7 >

No.7 - 1 :

測定部位／体部下位の鈍い黒褐色、採取し PE 膜で挟んで測定

主要な検出元素／Fe（鉄）、Cu（銅）、Zn（亜鉛）、As（ヒ素）、Pb（鉛）

推定される鋳造・溶解金属／銅

鉄分比が高いが、色調からみて、高師小僧が付着していた可能性がある。

< No.8 >

No.8 - 1 :

測定部位／外底面の赤褐色

主要な検出元素／Cu（銅）、(As（ヒ素）)

推定される铸造・溶解金属／銅

No.8 - 2 :

测定部位／内底面の緑青色

主要な検出元素／Cu（銅）、Ag（銀）、Sn（スズ）、Pb（鉛）、(As（ヒ素）)

推定される铸造・溶解金属／青銅

No.8 - 3 :

测定部位／体部下位の黒褐色

主要な検出元素／Cu（銅）、Zn（亜鉛）、Sn（スズ）、Pb（鉛）、(As（ヒ素）)

推定される铸造・溶解金属／青銅

No.8 - 4 :

測定部位／内底面の黒褐色

主要な検出元素／Cu（銅）、Zn（亜鉛）、Sn（スズ）、Pb（鉛）

推定される铸造・溶解金属／青銅

No.8 - 5 :

測定部位／体部下位の黒褐色、採取しPE膜で挟んで測定

主要な検出元素／Cu（銅）、Zn（亜鉛）、Sn（スズ）、Pb（鉛）

推定される铸造・溶解金属／青銅

No.8 - 6 :

測定部位／体部下位の黒褐色、採取しPE膜で挟んで測定

主要な検出元素／Cu（銅）、Zn（亜鉛）、Sn（スズ）、Pb（鉛）、(As（ヒ素）)

推定される铸造・溶解金属／青銅

No.8 - 2 の Ag の出自は不明。

< No.9 >

No.9 - 1 :

測定部位／体部上位の黒褐色

主要な検出元素／Fe（鉄）、Cu（銅）、Pb（鉛）

推定される铸造・溶解金属／鉄、銅

No.9 - 2 :

測定部位／体部上位の灰褐色

主要な検出元素／Fe（鉄）、Cu（銅）、Pb（鉛）

推定される铸造・溶解金属／鉄、銅

No.9 - 3 :

測定部位／外面口縁部の暗褐色

主要な検出元素／Cu（銅）

推定される铸造・溶解金属／銅

No.9 - 4 :

測定部位／体部上位の赤褐色、採取しPE膜で挟んで測定

主要な検出元素／Cu（銅）、Pb（鉛）、(As（ヒ素）)

推定される铸造・溶解金属／銅

< No.10 >

No.10 - 1 :

測定部位／内底面の光沢ある黒褐色、採取し PE 膜で挟んで測定

主要な検出元素／Fe (鉄)、Cu (銅)、Zn (亜鉛)、Pb (鉛)

推定される鋳造・溶解金属／鉄、銅

< No.11 >

No.11 - 1 :

測定部位／内底面の黒褐色、採取し PE 膜で挟んで測定

主要な検出元素／Cu (銅)、Zn (亜鉛)、As (ヒ素)、Pb (鉛)

推定される鋳造・溶解金属／銅

< No.12 >

No.12 - 1 :

測定部位／内底面の黒色

主要な検出元素／Cu (銅)、Sn (スズ)、Pb (鉛)

推定される鋳造・溶解金属／青銅

< No.13 >

No.13 - 1 :

測定部位／内底面の光沢ある黒褐色

主要な検出元素／Cu (銅)、As (ヒ素)、Pb (鉛)

推定される鋳造・溶解金属／銅

No.13 - 2 :

測定部位／内底面の赤褐色、採取し PE 膜で挟んで測定

主要な検出元素／Cu (銅)、As (ヒ素)、Pb (鉛)

推定される鋳造・溶解金属／銅

< No.14 >

No.14 - 1 :

測定部位／内底面の黒褐色

主要な検出元素／Cu (銅)、Pb (鉛)

推定される金属／銅

No.14 - 2 :

測定部位／体部下位の赤褐色

主要な検出元素／Cu (銅)、Pb (鉛)

推定される鋳造・溶解金属／銅

(2) 埋堀胎土の蛍光 X 線分析

No.1 (出水城跡)

Si ケイ素の含有量が高く、アルミニウムの含有量が低いことが特徴である。出水城跡の資料では、唯一である。

No.2 (出水城跡)

青銅片と考えられ、胎土部分は認められないため測定していない

No.3 (出水城跡)

20mm の小さな破片で、両面に金属が付着しており、胎土のみを分析することが出来ず、金

属成分を含んだ測定結果となっている。

No.4～10（出水城跡）

ケイ素Siが40～49%、アルミニウムAlが24～27%程度である。

No.11（亀井山城跡）

ケイ素Siが56%と高く、鉄Feが8.0%と低く、チタンTiが3%近い特異な組成を示している。

No.12～14（亀井山城跡）

ケイ素が47～52%と高く、アルミニウムが18～22%と低い。また、鉄が15～21%、チタンが1.6～2.4%と高い値である。

5. 考察

出水城の分析資料においては、坩堝による铸造・溶解金属は、①銅、②青銅、③鉄、銅の混合の3種類があったことが推定される。鉄、銅の混合物の場合、表面に光沢を持つ滓が生成されており、铸造・溶解の技法と結びついているものと思われる。おそらく、酸化防止のために、薬灰などを被覆材として用い、その被覆材が溶解することでガラス質の光沢が生まれているものと考えられる。

亀井山城分析資料においては、坩堝による铸造・溶解金属は、①銅、②青銅の2種類があつたことが推定される。

なお、胎土、土壤や地下水からの浸透などの影響を踏まえて、Feの組成比は、10%程度は通常含んでいるものと考えられる。また、Znは胎土に含まれうるものであり、また、Asは銅鉱石中に含まれうるのであるので、それぞれ1%に満たない場合は、構成比として特徴的なものとして捉えていない。

このことについて胎土のFe(鉄)の状況を確認したところ(表5)、出水城跡の資料については、胎土のみを分析できなかったNo.3を除いて、胎土に含まれる鉄の含有量は、10～14%を示している。したがって、指摘のように、No.4-1、4-4、6-2、9-1、9-2、10-1以外で検出されている鉄は、胎土由来(1点のみ高師小僧?)と考えてよい。一方、亀井山城跡の資料は、18～25%の鉄を含んでいるのが特徴的である。亀井城跡では、铸造・溶解金属として鉄を扱った資料は存在していない。

亜鉛が検出された胎土は、No.5、6、13のみで、しかも含有量は、0.1～0.6%と少量である。したがって、No.3-1、4-1、8などは、铸造・溶解金属として亜鉛を含んでいた可能性が高い。

結果として亀井山城跡の資料は、No.11が特異的であり、ケイ素、鉄、チタンの含有量が大きく、アルミニウムが少ない。出水城跡の資料では、No.1のみ、ケイ素、チタンの含有量が大きく、アルミニウムが少ない。このNo.1の土器だけ、手捏ねではなく、ロクロ成形で回転糸切りによる底部切り離しの手法を用いている。亀井山城跡のものは、No.1と同じくすべて回転糸切りのもので、製作技法と関係している可能性が考えられる。

引用文献

- 古澤 明,1995,火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別,地質学雑誌,101,123-133.
- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載 I,木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究

所 81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース,海青社,449p.

工藤貞功(編),2008,絵引 民具の事典,河出書房新社,487p.

工藤雄一郎,2013,最寒冷期っていつごろ? -その年代と環境、そしてヒトの動き-,日本植生史学会第28回大会講演要旨集,日本植生史学会,38.

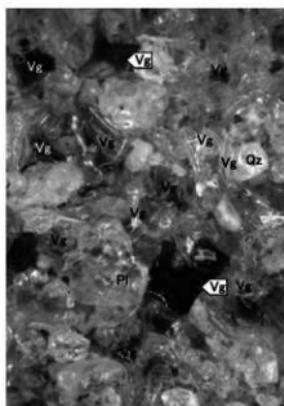
町田 洋・新井房夫,1976,広域に分布する火山灰-始良 Tn 火山灰の発見とその意義-,科学,46,339-347.

町田 洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス,東京大学出版会,336p.

Miki S. and Kokawa S.,1962,Late Cenozoic floras of Kyushu, Japan.Journal of Biology Osaka City University,13,65-86.

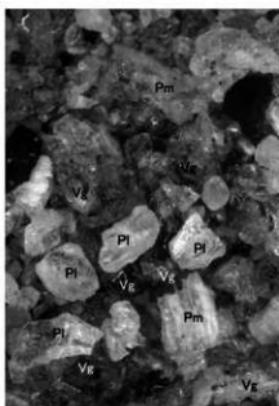
島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
図版1 テフラ

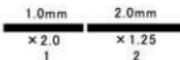


1.2T 火山ガラス

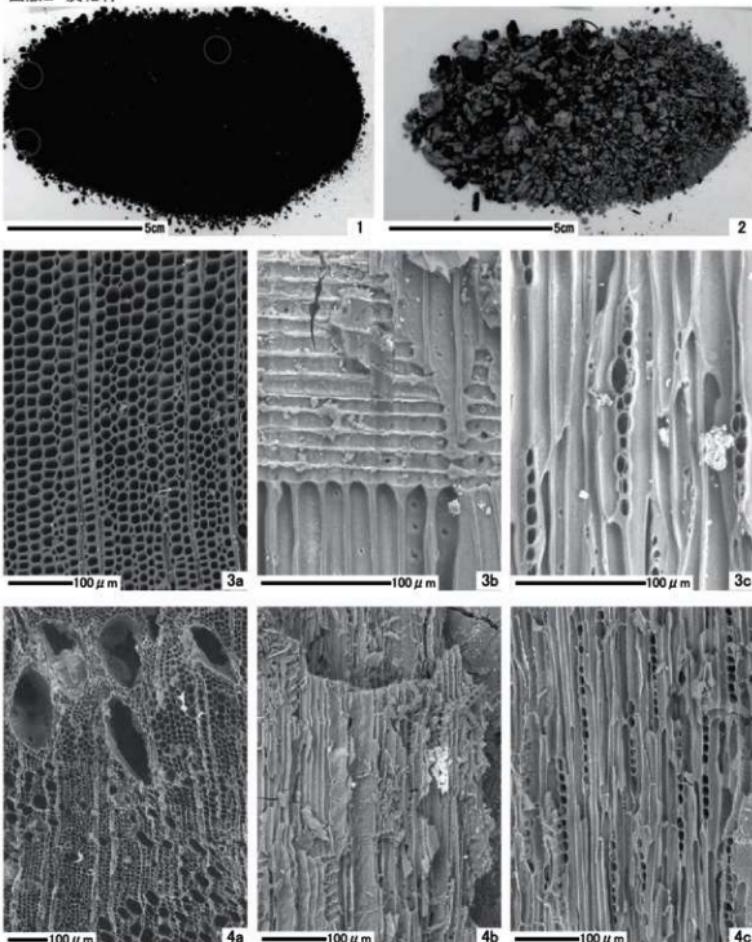
Qz:石英, Pl:斜長石, Vg:火山ガラス, Pm:軽石.



2.2T 軽石

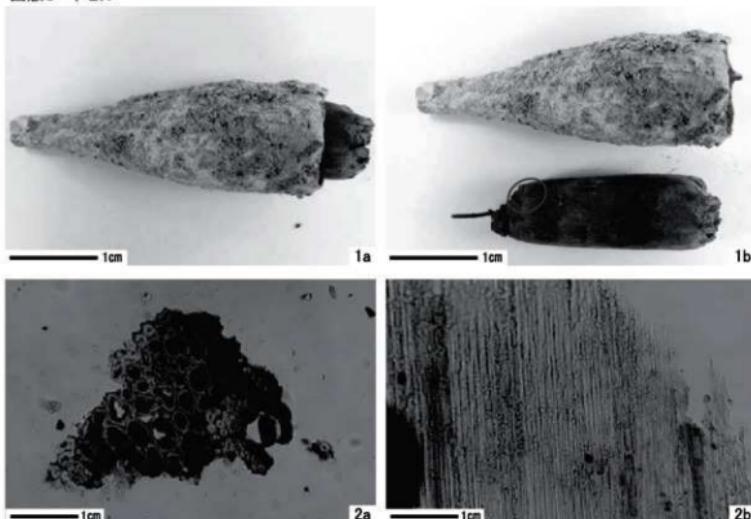


図版2 炭化材



- 1.試料の状況(2T:炭化物)
- 2.試料の状況(6T:炭化物No.1)
- 3.モミ属(2T:炭化物)
- 4.スダジイ(6T:炭化物No.1)
a:木口, b:柾目, c:板目
※赤い円で囲った炭化材が年代測定試料

図版3 キセル

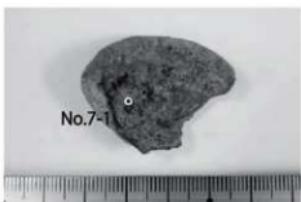
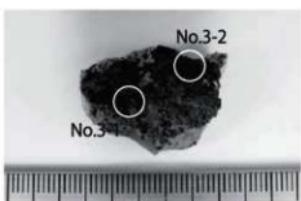
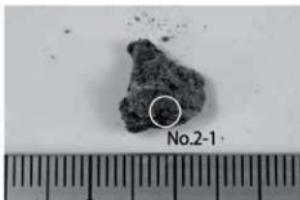


1.キセルの外観(4T) a:羅字が入った状態、b:羅字を抜いた状態

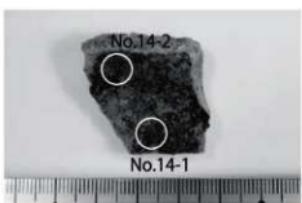
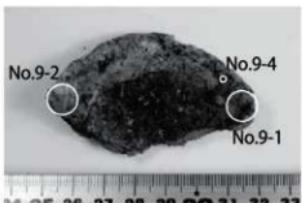
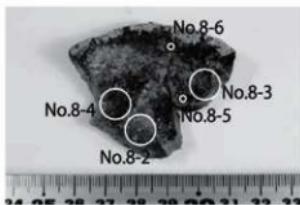
2.イネ科タケ亜科(4T:羅字) a:横断面,b:縦断面

※赤い丸で囲った範囲が切片採取箇所

図版4 坩堝・金属物(1)



図版4 塙堜・金属物(2)



第5章 総括

第1節 調査の成果

(1) 縄文時代・古墳時代・古代

少量ではあるが、縄文土器及び古墳時代の遺物が出土している。遺物包含層は山城の構築時に削平または攪乱されていると考えられ、遺構も確認できなかった。

(2) 中世・近世

検出された遺構の詳細な帰属時期・性格は基本的に検出のみに留めたために不明な点が多い。年代測定を行った遺構（曲輪B（水夫ヶ城）の6T鍛冶跡の炭化物）は概ね15世紀初頭から17世紀初頭の分析値を得ていることから、検出された遺構も同時期のものと推察される。

今回の調査で曲輪B（水夫ヶ城）からは織豊期の唐草文の軒平瓦、天正～慶長期のものと思われる軒丸瓦が出土している。その他多くの瓦が出土しており、瓦を利用した建物があったと推察される。遺物は、すり鉢、甕類、碗、皿などの染付類も多数出土しており、中世山城で出土する一般的な遺物は概ね確認できた。

(3) 遺構等の残存状況

出水城跡の城域は、約220,000m²で、この全域を平成25年度から平成29年度に測量を行い、平面図を作成した。出水城跡の西側にある曲輪H（花見ヶ城）付近約33,000m²は治山事業等で消滅しているが、8割ほどの面積は現存していると思われる。測量調査を行った全域について踏査を行ったが城域の一部には、シラスの崩落や植林のために林道整備が行われているものの曲輪の形状、空堀、土壘、虎口等が良好に残存していることが明らかになった。

第2節 曲輪の構成・施設の配置

(1) 曲輪の構成

出水城は、曲輪の集合体で一つの山城をなす群廓式城郭の典型的な山城である。曲輪の配置は東側の曲輪A（梅ヶ段）、曲輪B（水夫ヶ城）、曲輪C（小松ヶ城）、曲輪D（捨殿ヶ城）と西側の曲輪E、曲輪F（住吉ヶ城）、曲輪G、曲輪H（花見城）、曲輪Iが、大手口とされていて谷地形と大土壘により分断された構成である。大土壘については、曾於市の恒吉城に類似のものが現存する。（木島氏現地指導）

東側にある曲輪構造の特徴として曲輪内に上中下段の平坦面を持ち曲輪B（水夫ヶ城）と曲輪C（小松ヶ城）との間には連絡道的な地形も見られる。西側の曲輪の特徴としては、各々の曲輪に土壘、虎口を設け曲輪一つ一つが並列的である。

出水城の主郭は、上中下段を持つ曲輪で規模も大きく、大土井を持つ曲輪B（水夫ヶ城）と考えられる。前述のとおり曲輪B（水夫ヶ城）と曲輪C（小松ヶ城）は連絡道的な地形があり東側の曲輪群は、主郭の縄張りが明瞭で求心性が強く、重要視されていたと考えられる。

(2) 曲輪の成立時期及び変遷

南九州における群廓式城郭の成立時期は、14世紀後半～15世紀中頃とされている。（上田

2014) 今回出土した遺物の時期は、16世紀から17世紀初頭のものが多い。薩州島津家が15世紀中頃から16世紀末まで出水城を中心に統治していることから、出水城の曲輪群の基礎は薩州島津家により築かれたと考えられる。また出水城は肥後との境に位置し、戦国末期から江戸初期にかけて加藤・小西・相良氏からの防御として最重要視されていた場所で改修が行われた記録があり、出水の守りについて島津義弘は様々な施策を行っている。このことから、16世紀末から17世紀初頭に城の改修も行われたと考えられが、今までの発掘調査では、それらを示すような遺構や痕跡等は確認されていない。

第3節 今後の保存及び活用に係る調査

今回の埋蔵文化財発掘調査及び地形測量平面図作成により、出水城が利用された時期や施設の残存について確認することができた。しかしながら、城全体の構造及び変遷、施設の規模や構造、配置について詳細に確認することはできなかった。

そこで、今後の課題として、地形測量平面図を利用した縄張図作成が必要であると考える。それと同時に17世紀初頭に成立した出水麓との位置関係から出水麓御仮屋を中心とした縄張の再考も近世の出水城の変遷を考える上で必要となる。その為に必要な調査として、古文書等の歴史資料から出水城についての記述等を収集することも重要になる。

今後は、各専門分野の研究者を中心とした専門委員会を立ち上げ、その意見を踏まえながら城の構造や変遷及び出水城の持つ歴史的意義について総合的な調査を行うこととする。

【引用・参考文献】

- 鹿児島県教育委員会 1987『鹿児島県内の中世山城跡調査報告書』
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2011『虎居城跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 162
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2018『虎居城跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 197
知覧町教育委員会 2006『知覧城跡（三）』知覧町教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書第12集
志布志市教育委員会 2018『志布志城跡志布志城（内城）跡1～9次調査』志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書（12）
熊本県水俣市教育委員会 2015『水俣城跡』水俣市文化財調査報告書第5集
曾於市教育委員会 2010『恒吉城跡IV』曾於市埋蔵文化財発掘調査報告書（11）
上田耕 2014『南九州の城郭一群廓式の曲輪配置と近世麓集落の連続性』『中世城館の考古学』高志書院
上田秀夫 1982『14～16世紀の青磁器分類』『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会 pp.55-70
小野正敏 1982『15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代』『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会 pp.71-87
中世土器研究会編『概説 中世の時・陶磁器』1995 真陽社
「出水郷土誌」2004 出水郷土誌編纂委員会 鹿児島県出水市
出水市教育委員会 2013『市内遺跡（亀井山城跡他）発掘調査報告書』出水市埋蔵文化財発掘調査報告書（23）

第Ⅱ部 市内遺跡試掘・確認調査

1 調査の方法

出水市教育委員会では、開発事業の照会で事業が遺跡範囲内にあることが判明した場合に、その事業内容から試掘・確認調査の必要の有無について、現地確認を行った上で判断している。

試掘・確認調査方法は、遺跡の現況とそれまでの調査結果や周辺部での調査経歴等を踏まえて判断する。掘削方法については原則重機を使用するが、明らかに遺跡が出土されることが予想される場合には、人力により掘削を行う。出水市では原則重機を使用する場合を試掘調査、人力を使用する場合を確認調査と位置付けている。

試掘・確認調査は平成 24 年度から同 29 年度にかけて国及び県の補助を受け、市内遺跡（出水城跡他）発掘調査等のうちの一事業として実施した。なお、調査組織、体制等は第Ⅰ部第 1 章第 2 節に準じる。

2 平成 24 年度の調査〔第 51 図～第 55 図、第 14 表〕

15 箇所の試掘調査を行った。大久保遺跡では、トレントを合計 11 箇所設定し作業員により発掘調査を行った。結果、4 箇所のトレントから遺物が出土したため、これらのトレント付近については後日工事立会いを実施したが、新たな遺跡は確認されなかった。

3 平成 25 年度の調査〔第 56 図～第 60 図、第 15 表〕

14 箇所の試掘調査を行ったが、どの調査でも遺跡は確認されなかった。

4 平成 26 年度の調査〔第 60 図～第 64 図、第 16 表〕

12 箇所の試掘調査と妙賀段 D 遺跡で確認調査を行ったが、どの調査でも遺跡は確認できなかった。

5 平成 27 年度の調査〔第 64 図～第 68 図、第 17 表〕

13 箇所の試掘調査を行った。朝熊城跡で柱穴構造が 8 基検出されたほか、中世陶器片が 1 点出土した。野角遺跡においてもピット構造が 4 基検出されたほか、近世磁器片が 2 点出土した。両遺跡とも構造はそのまま埋戻し、現地保存を行った。

6 平成 28 年度調査〔第 69 図～第 73 図、第 18 表〕

13 箇所の試掘調査を行った。六反ヶ丸遺跡において表土下位の 1 層から古墳時代の遺物が 20 点出土したが、自然礫（川原石、砂岩が主）を伴い、遺物は移動の作用に伴うと思われる摩耗が全てに見られること、自然礫を共伴することなどから、河川の氾濫等に伴う流れ込みによるものと判断した。

7 平成 29 年度調査〔第 73 図～第 75 図、第 19 表〕

6 箇所の試掘調査を行った。市道上場南線改良工事に先立ち、妙賀段 C 遺跡で試掘調査を行った。結果 2 トレントの 3 層（黒褐色有機質土層）から、黒曜石の 2 次調整剥片 1 点が出

土したため、市道路河川課と協議を行い、30年度に確認調査を行うことにした。

第14表 平成24年度市内試掘・確認調査一覧

番号	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	調査面積 (m ²)	調査日	調査結果	調査後の措置	備考
24-1	大久保遺跡群	高尾町大久保3451番30ほか	出水市	市公共下水道事業	22	5月21日～同25日	縄文時代土器	工事施工	工事立会実施
24-2	上名遺跡群	野田町上名347番1,348番1	出水市	市立幼稚園建設	6	4月13日	出土なし	工事施工	
24-3	庵木園遺跡	下知識町231番2	個人	個人専用住宅建設	3.6	5月1日	出土なし	工事施工	
24-4	下名遺跡群	野田町下名5409番1	出水市	市営住宅整備	6	5月11日	出土なし	工事施工	
24-5	供養塚遺跡	大野原1854番1及び1855番1	個人	個人専用住宅建設	6.39	7月4日	出土なし	工事施工	
24-6	切通遺跡	坂町1670番	民間業者	携帯電話無線基地	7.36	7月4日	出土なし	工事施工	
24-7	柴引遺跡群a (大祖地點)	高尾町下高尾野字下高尾86番3	個人	個人専用住宅建設	6.4	8月1日	出土なし	工事施工	
24-8	洗切遺跡	高尾町下水流2025番6	個人	個人専用住宅建設	5.76	9月18日	出土なし	工事施工	
24-9	蜻淵遺跡	上蜻淵2240番1,2240番3	個人	個人専用住宅建設	4	10月15日	出土なし	工事施工	
24-10	柴引遺跡群a (石坂地點)	高尾町下高尾野字本追1711番1	個人	個人専用住宅建設	8	12月3日	出土なし	工事施工	
24-11	休甚町高橋遺跡	武本13722番1の一部	個人	個人専用住宅建設	6	1月25日	出土なし	工事施工	
24-12	桃山遺跡	野田町上名字桃山4016番9	民間業者	携帯電話基地設置	4	2月4日	出土なし	工事施工	
24-13	流合A遺跡	上大川内563番1	出水市	市道改良工事	8.16	3月19日	出土なし	工事施工	
24-14	周知の道路外 (下知識町)	下知識町967番1,967番2	民間業者	宅地造成	14	10月9日	出土なし	工事施工	
24-15	周知の遺跡外 (龍町)	龍町210番5	出水市	仮設校舎建設	8	3月8日	出土なし	工事施工	

第15表 平成25年度市内試掘・確認調査一覧

番号	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	調査面積 (m ²)	調査日	調査結果	調査後の措置	備考
25-1	柴引遺跡群a (本追地點)	高尾町下高尾野1711番1	個人	個人専用住宅建設	8	5月27日	出土なし	工事施工	
25-2	穴水遺跡	福ノ江町457番	個人	個人専用住宅建設	8	7月2日	出土なし	工事施工	
25-3	柴引遺跡群a (大祖地點)	高尾町柴引11592番2	民間業者	太陽光発電施設	6	7月2日	出土なし	工事施工	
25-4	柴引遺跡群a (大祖地點)	高尾町柴引1607番2	個人	個人専用住宅建設	11.2	7月2日	出土なし	工事施工	
25-5	休次郎町遺跡	大野原町1985番地1987番	民間業者	建売住宅地建設	16	7月3日	出土なし	工事施工	
25-6	牛田尻遺跡	武本13442の地先	鹿児島県	農業用パイプライン設置	13.5	10月30日	出土なし	工事施工	
25-7	柳ヶ水遺跡	高尾町江内46996番1の一部	個人	個人専用住宅建設	11.7	10月31日	出土なし	工事施工	
25-8	下名遺跡群 (本町地點)	野田町下名5689番207	個人	個人専用住宅建設	5.5	10月31日	出土なし	工事施工	
25-9	前原遺跡	福ノ江町491番1の一部	個人	個人専用住宅建設	13.8	11月1日	出土なし	工事施工	
25-10	伊豆前遺跡	高尾町上水流671番12	民間業者	太陽光発電施設	13.6	11月5日	出土なし	工事施工	
25-11	下名遺跡群 (岡郷地點)	野田町下名6145番1	民間業者	携帯電話無線基地	6	11月6日	出土なし	工事施工	
25-12	御堂遺跡	下知識町274番1	民間業者	太陽光発電施設	12	12月25日	出土なし	工事施工	
25-13	蜻淵遺跡	上蜻淵2215番ほか3筆	民間業者	デイサービス施設等建設	13.2	1月9日	出土なし	工事施工	
25-14	カラソ遺跡	高尾町大久保6659番59の一部	個人	個人専用住宅建設	6	2月3日	出土なし	工事施工	

第16表 平成26年度市内試掘・確認調査一覧

番号	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	調査面積 (m ²)	調査日	調査結果	調査後の措置	備考
26-1	江川野口遺跡	武本15181番1	個人	個人専用住宅建設	12.9	4月3日	出土なし	工事施工	
26-2	御堂遺跡 (津山地点)	下知識町956番	個人	個人専用住宅建設	12	5月7日	出土なし	工事施工	
26-3	朝熊城跡	美原町844番、845番	個人	個人専用住宅建設	12.2	5月29日	出土なし	工事施工	
26-4	下名遺跡群 (本町地点)	野田町下名5587番2	民間業者	太陽光発電施設	11	7月4日	出土なし	工事施工	
26-5	御堂遺跡 (上村西地点)	下知識町300番	個人	個人専用住宅建設	12	7月11日	出土なし	工事施工	
26-6	柴引遺跡群a (大和地点)	高尾町柴引11592番1	民間業者	太陽光発電施設	12	8月6日	出土なし	工事施工	
26-7	上名遺跡群 (町原地点)	野田町上名496番	民間業者	店舗建設	19.2	9月22日	出土なし	工事施工	
26-8	妙賀段D遺跡	上大川内2827番261ほか	出水市	市道改良工事	20.5 ~同10.5	10月6日 ~同10日	出土なし	工事施工	
26-9	柴引遺跡群a (木迫地点)	高尾町下高尾野1717番	個人	宅地造成	17.3	11月5日	出土なし	工事施工	
26-10	柴引遺跡群a (上原地点)	高尾町下高尾野1789番 1,1789番2,1789番3	個人	駐車場造成	8.4	12月19日	出土なし	工事施工	
26-11	下名遺跡群 (岡塙地点)	野田町下名6081番ほか4箇	民間業者	農地整備 (地下1げ)	44	1月19日	出土なし	工事施工	
26-12	論山遺跡	大野原町473番2	個人	個人専用住宅建設	6	2月3日	出土なし	工事施工	

第17表 平成27年度市内試掘・確認調査一覧

番号	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	調査面積 (m ²)	調査日	調査結果	調査後の措置	備考
27-1	柴引C遺跡	高尾町柴引2429番7	個人	個人専用住宅建設	6	4月23日	出土なし	工事施工	
27-2	上名遺跡群 (板屋地点)	野田町上名292番1	個人	個人専用住宅建設	8.8	6月29日	出土なし	工事施工	
27-3	御堂遺跡 (上村西地点)	下知識町295番	個人	個人専用住宅建設	6	7月3日	出土なし	工事施工	
27-4	上松遺跡	知識町485番2,486番1	個人	個人専用住宅建設	8.4	7月9日	出土なし	工事施工	
27-5	御堂遺跡(津 山地点)	福ノ江町86番の一部	個人	個人専用住宅建設	8.4	7月9日	出土なし	工事施工	
27-6	石倉A遺跡	野田町上名7015番71ほか	出水市	市道改良工事	8.4	8月28日	出土なし	工事施工	
27-7	溝西遺跡	高尾町太久保2374番	個人	個人専用住宅建設	7.9	10月9日	出土なし	工事施工	
27-8	野畠C遺跡	下舎町1424番	個人	貸家用住宅建設	14	10月9日	出土なし	工事施工	
27-9	庵木園遺跡	知識町775番	民間業者	店舗建設	14	12月14日	出土なし	工事施工	
27-10	茶屋ノ元B遺跡	境町251番	個人	個人専用住宅建設	9.4	2月15日	出土なし	工事施工	
27-11	西脇遺跡	西出水町1095番	民間業者	太陽光発電施設及び資 材置場建設	10.4	2月18日	出土なし	工事施工	
27-12	朝熊城跡	美原町814番1の一部、815番	民間業者	太陽光発電施設	11.2	2月19日	柱穴遺構8基、 中世陶器片1点	工事施工	遺物のみ 取上げ、 遺構埋め戻し
27-13	野角遺跡	野田町上名2726番1,2728番1	個人	農業用倉庫建設	16.8	3月22日	ピット4基、近世 磁器片2点	工事施工	遺物のみ 取上げ、 遺構埋め戻し

第18表 平成28年度市内試掘・確認調査一覧

番号	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	調査面積 (m ²)	調査日	調査結果	調査後の措置	備考
28-1	志里塚A遺跡	上大川内字大久保2794番52	民間業者	太陽光発電施設	41.1	4月8日	表土及びカタラン層から黒曜石、練瓦土器出土	工事施工	
28-2	柴引遺跡群a (大和地地点)	高尾町柴引字佐敷1590番2	民間業者	太陽光発電施設	12	4月14日	出土なし	工事施工	
28-3	前原遺跡	福ノ江町507番2	個人	個人専用住宅建設	6	4月15日	出土なし	工事施工	
28-4	志里塚A遺跡	上大川内字大久保2791番147	個人	個人専用住宅建設	26.1	7月11日	出土なし	工事施工	
28-5	高尾野城跡	高尾町柴引3742番4ほか6筆	民間業者	太陽光発電施設	182.8	7月15日	出土なし	工事施工	
28-6	庵木園遺跡	知識町774	民間業者	共同住宅建設	11.6	7月19日	出土なし	工事施工	
28-7	上大谷遺跡	野田町上名7918番5	北芦城行政事務組合	施設敷地造成	11.4	7月20日	出土なし	工事施工	
28-8	加紫久利山遺跡	下幡町1777番の一部、1778番の一部	個人	個人専用住宅建設	12	9月16日	出土なし	工事施工	
28-9	平松遺跡	下幡町816.817.824.825	民間業者	建売住宅建設	16	10月6日	出土なし	工事施工	
28-10	上名遺跡群 (打上地地点)	野田町上名字打上323番1	個人	個人専用住宅建設	14.4	10月26日	出土なし	工事施工	
28-11	山王西遺跡	五万石町165番	民間業者	長屋建設	12	1月30日	出土なし	工事施工	
28-12	莊下	庄尾崎796番、797番、798番1	個人	個人専用住宅建設	13.2	2月9日	出土なし	工事施工	
28-13	六反ヶ丸	六月田町622番1	個人	個人専用住宅建設	6.7	3月16日	表土下位の1層からのみ流れ込みと思われる古墳時代土器	工事施工	

第19表 平成29年度市内試掘・確認調査一覧

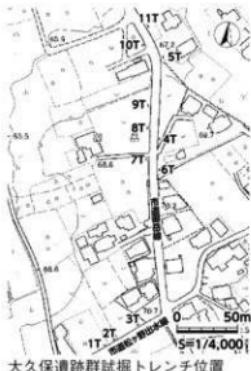
番号	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	調査面積 (m ²)	調査日	調査結果	調査後の措置	備考
29-1	上松遺跡	出水市文化町534番地5	個人	個人専用住宅建設	12	7月26日	出土なし	工事施工	
29-2	松ヶ野遺跡	出水市高尾野町下高尾野地内	鹿児島県農道整備		10	9月5日	出土なし	工事施工	
29-3	穴水遺跡	福ノ江町435番地(一部)	個人	個人専用住宅建設	3.25	1月11日	出土なし	工事施工	
29-4	船追遺跡	出水市高尾野町下高尾野地内	鹿児島県防火水槽設置		6	2月15日	出土なし	工事施工	
29-5	志里塚A遺跡	出水市上大川内地内	出水市	市道整備	27	3月9日	出土なし	工事施工	
29-6	妙賀段C遺跡	出水市上大川内地内	出水市	市道整備	14	3月15日	黒曜石の2次調整剥片1点	確認調査実施 遺物取上げ	

第20表 平成24年～平成29年度市内遭跡発掘調査等事業 調査遭跡一覧(1)

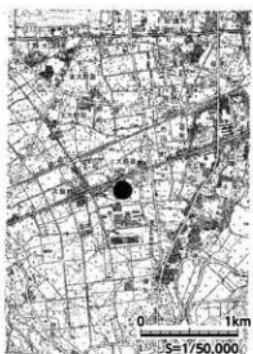
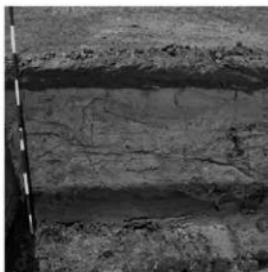
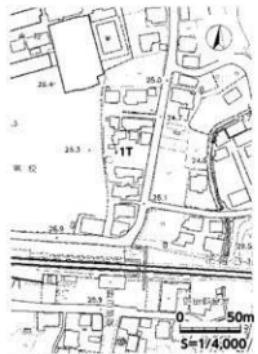
年度	地図番号	道路名	所在地	道路番号	北緯	東經	調査期間	調査面積m ²	調査原因
H24	1	大久保遺跡群	高尾町大久保3451番3 ほか	290	32°03'35"	130°19'16"	平成24年5月21日～同25日	22	市公共下水道事業に伴う確認調査
	2	上名道路群	野田町上名347番1,348番1	314	32°03'28"	130°16'01"	2012年4月13日	6	市立幼稚園建設工事に伴う試掘調査
	3	庵木本道跡	下知識町231番2	93	32°05'46"	130°19'53"	2012年5月1日	3.6	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	4	下名道路群	野田町下名5409番1	313	32°03'50"	130°16'03"	2012年5月11日	6	市販住宅整備事業に伴う試掘調査
	5	供養塚道路	大野原1854番1及び1855番1	237	32°04'03"	130°19'47"	2012年7月4日	6.39	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	6	切通道路	境町1670番	12	32°09'45"	130°21'37"	2012年7月4日	7.36	携帯電話基地設置に伴う試掘調査
	7	柴引道跡群a(大船地点)	高尾町下高尾野字道下986番3	282	32°03'41"	130°17'29"	2012年8月1日	6.4	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	8	洗切道跡	高尾町下水流2025番6	398	32°02'31"	130°17'47"	2012年9月18日	5.76	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	9	耕渕道跡	上耕渕2240番1,2240番3	87	32°04'39"	130°22'03"	2012年10月15日	4	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	10	柴引道跡群a(石坂地点)	高尾町下高尾野字本道1711番1	282	32°03'35"	130°17'14"	2012年12月3日	8	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	11	休佐町高橋道跡	武本13722番1の一部	70	32°03'36"	130°20'10"	2013年1月25日	6	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	12	桃山道跡	野田町上名桃山4016番9	343	32°01'45"	130°16'53"	2013年2月4日	4	携帯電話基地設置に伴う試掘調査
	13	流合A道跡	上大川内963番1	169	32°04'09"	130°36'16"	2013年3月19日	8.16	市造改良工事に伴う試掘調査
	14	周知の道路外(下知識町)	下知識町967番1,967番2	—	32°06'05"	130°19'38"	2012年10月9日	14	宅地造成
	15	周知の道路外(篠町)	篠町210番5	—	32°04'28"	130°21'29"	2013年3月8日	8	仮設校舎建設
H25	16	柴引道跡群a(本道地点)	高尾町下高尾野1711番1	282	32°03'35"	130°17'09"	2013年5月27日	8	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	17	穴水道跡	福ノ江町457番	258	32°06'01"	130°19'22"	2013年7月2日	8	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	18	柴引道跡群(大船地点)	高尾町柴引1592番2	282	32°03'43"	130°17'41"	2013年7月2日	6	太陽光発電施設建設に伴う試掘調査
	19	柴引道跡群(大和地点)	高尾町柴引1607番2	282	32°03'44"	130°17'42"	2013年7月2日	11.2	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	20	休次郎町道跡	大野原町1985番地1987番	236	32°03'59"	130°20'05"	2013年7月3日	16	建売住宅地建設に伴う試掘調査
	21	半田尻道跡	武本13442の地先	21	32°03'32"	130°19'41"	2013年10月30日	13.5	農業地バイオイン設置に伴う試掘調査
	22	柳ヶ水道跡	高尾町江内6996番1の一部	435	32°06'11"	130°15'31"	2013年10月31日	11.7	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	23	下名道路群(本町地点)	野田町下名5689番207	313	32°03'58"	130°16'03"	2013年10月31日	5.5	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	24	前原道跡	福ノ江町491番1の一部	361	32°06'07"	130°19'14"	2013年11月1日	13.8	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	25	伊豆前道跡	高尾町下水流671番12	407	32°04'41"	130°18'23"	2013年11月5日	13.6	太陽光発電施設建設に伴う試掘調査
	26	下名道路群(岡畠地点)	野田町下名6145番1	313	32°04'23"	130°15'52"	2013年11月6日	6	携帯電話無線基地局設置に伴う試掘調査
	27	御堂道跡	下知識町274番1	92	32°05'57"	130°19'40"	2013年12月25日	12	太陽光発電施設建設に伴う試掘調査
	28	耕渕道跡	上耕渕2215番ほか3箇	87	32°04'36"	130°22'11"	2014年1月9日	13.2	マイナビバーベラ施設等建設に伴う試掘調査
	29	カツリ道跡	高尾町大久保6659番59号の一部	291	32°02'55"	130°19'55"	2014年2月3日	6	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
H26	30	江川野口道跡	武本15181番1	111	32°03'13"	130°20'07"	2014年4月3日	12.9	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	31	御堂道跡(津山地点)	下知識町356番	92	32°06'03"	130°19'39"	2014年5月7日	12	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	32	朝照城跡	美原町844番、845番	23	32°06'18"	130°21'19"	2014年5月29日	12.2	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	33	下名道路群(本町地点)	野田町下名5587番2	313	32°03'58"	130°15'49"	2014年7月4日	11	太陽光発電施設建設に伴う試掘調査
	34	御堂道跡(上村西地点)	下知識町330番	92	32°05'56"	130°19'49"	2014年7月11日	12	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	35	柴引道跡群a(大船地点)	高尾町柴引1592番1	282	32°03'42"	130°17'42"	2014年8月6日	12	太陽光発電施設建設に伴う試掘調査
	36	上名道路群(町原地点)	野田町上名496番	314	32°03'35"	130°16'21"	2014年9月22日	19.2	店舗建設に伴う試掘調査
	37	妙貴段D道跡	上大川内2827番26ほか	143	32°05'55"	130°28'12"	2014年10月6日～同10日	20.5	市造改良工事に伴う試掘調査
	38	柴引道跡群(本道地点)	高尾町下高尾野1717番	282	32°03'33"	130°17'10"	2014年11月5日	17.3	宅地造成に伴う試掘調査

第21表 平成24年～平成29年度市内遺跡発掘調査等事業 調査遺跡一覧(2)

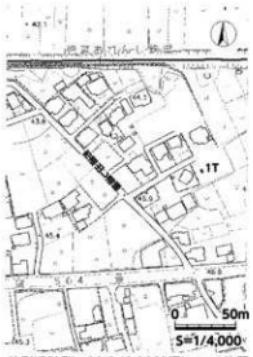
年度	地図番号	遺跡名	所在地	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
H26	39	柴引道跡群a(上原地点)	高尾町下高尾野1789番1、1789番2、1789番3	282	32°03'33"	130°17'29"	2014年12月19日	84	駐車場造成に伴う試掘調査
	40	下名道跡群(高畠地点)	野田町下名0081番14番4筆	313	32°04'30"	130°15'54"	2015年1月19日	44	農地整備(地下げ)に伴う試掘調査
	41	山道跡	大原町473番2	243	32°04'34"	130°19'24"	2015年2月3日	6	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
H27	42	柴引道跡	高尾町下高尾野1742番7	298	32°03'04"	130°18'03"	2015年4月23日	6	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	43	上名道跡群(辰巳地点)	野田町上名292番1	314	32°03'23"	130°16'05"	2015年6月29日	88	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	44	御堂道跡(上村西端点)	下知識町295番	92	32°05'51"	130°19'44"	2015年7月3日	6	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	45	上松道跡	知識町485番2,486番1	94	32°05'32"	130°20'04"	2015年7月9日	84	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	46	御堂道跡(津山地点)	福ノ江町86番の一部	92	32°05'58"	130°19'31"	2015年7月9日	84	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	47	石倉A道跡	野田町上名7015番7ほか	351	32°02'41"	130°15'35"	2015年8月28日	84	市道改良工事に伴う試掘調査
	48	溝西道跡	高尾町大久保2374番	412	32°04'12"	130°19'33"	2015年10月9日	79	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	49	野塙C道跡	下鶴町1424番	218	32°07'17"	130°20'38"	2015年10月9日	14	貸家用住宅建設工事に伴う試掘調査
	50	庵木園道跡	知識町775番	93	32°05'45"	130°19'31"	2015年12月14日	14	店舗建設に伴う試掘調査
H28	51	茶屋B道跡	境町2511番	194	32°09'33"	130°22'08"	2016年2月15日	94	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	52	西垂道跡	西出水町1095番	241	32°04'23"	130°20'23"	2016年2月18日	104	太陽光発電施設及び荷物置場建設に伴う試掘調査
	53	朝熊城跡	美原町814番1の一部、815番	23	32°06'20"	130°21'15"	2016年2月19日	112	太陽光発電施設建設に伴う試掘調査
	54	野鳥道跡	野田町上名2726番1,2728番1	333	32°02'35"	130°16'34"	2016年3月23日	168	農業用倉庫建設に伴う試掘調査
	55	志里塚A道跡	土大川内宇大久保2794番52	4	32°05'50"	130°29'02"	2016年4月8日	411	太陽光発電施設建設に伴う試掘調査
	56	柴引道跡群a(大相地点)	高尾町柴引字佐敷1590番2	282	32°03'40"	130°17'41"	2016年4月14日	12	太陽光発電施設建設に伴う試掘調査
	57	前原道跡	福ノ江町507番2	361	32°06'03"	130°19'17"	2016年4月15日	6	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	58	志里塚A道跡	土大川内宇大久保2791番147	4	32°05'48"	130°29'03"	2016年7月11日	261	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	59	高尾野城跡	高尾町柴引3742番45ほか6筆	285	32°02'33"	130°18'12"	2016年7月15日	1828	太陽光発電施設建設に伴う試掘調査
H29	60	庵木園道跡	知識町774	93	32°05'12"	130°20'35"	2016年7月19日	116	共用住宅建設に伴う試掘調査
	61	上大谷道跡	野田町上名7918番5	391	32°02'06"	130°15'10"	2016年7月20日	114	施設敷地造成に伴う試掘調査
	62	加紫久利A道跡	下婧町1777番の一部、1778番の一部	219	32°07'17"	130°21'09"	2016年9月16日	12	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	63	平松道跡	下婧町816,817,824&25	83	32°07'00"	130°20'47"	2016年10月6日	16	建先住宅建設に伴う試掘調査
	64	上名道跡群(打上点)	野田町上名字打上323番1	314	32°03'23"	130°16'05"	2016年10月26日	144	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	65	山王西道跡	五万石町165番	107	32°04'32"	130°20'41"	2017年1月30日	12	長屋建設に伴う試掘調査
	66	莊字下道跡	莊字尾崎796番、797番、798番1	71	32°05'11"	130°16'43"	2017年2月9日	132	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	67	六反ノ丸道跡	六月田町622番1	73	32°06'26"	130°20'30"	2017年3月16日	67	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	68	上松道跡	出水市文化町534番地5	94	32°05'36"	130°20'10"	2017年7月26日	12	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
H30	69	松ヶ井道跡	出水市高尾野町下高尾野地内	267	32°04'24"	130°16'43"	2017年9月5日	10	農道整備に伴う試掘調査
	70	穴水道跡	福ノ江町435番地(一部)	258	32°05'57"	130°19'33"	2018年1月11日	325	個人専用住宅建設に伴う試掘調査
	71	船道跡	出水市高尾野町下高尾野地内	281	32°04'39"	130°17'05"	2018年2月15日	6	防火水槽設置に伴う試掘調査
	72	志里塚A道跡	出水市上大川内地内	4	32°05'50"	130°28'59"	2018年3月9日	27	市道整備に伴う試掘調査
	73	妙賀段C道跡	出水市上大川内地内	142	32°05'51"	130°28'32"	2018年3月15日	14	市道整備に伴う試掘調査



第 51 図 平成 24 年度 市内試掘調査遺跡①



第 52 図 平成 24 年度 市内試掘調査遺跡②



第53図 平成24年度 市内試掘調査遺跡③



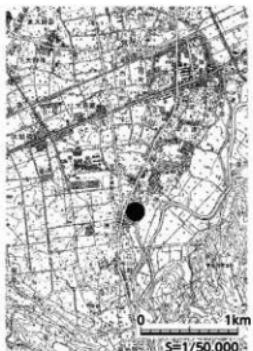
24-10 柴引遺跡群a (石板地点)



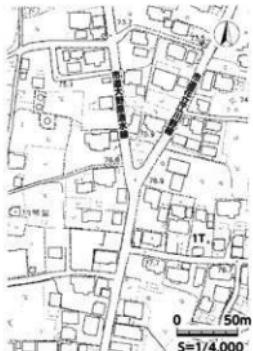
柴引遺跡群a(石板地点)試掘トレンチ位置



1 トレンチ完掘状況



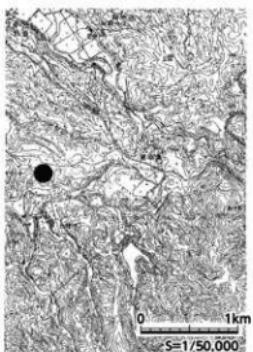
24-11 休甚高橋遺跡



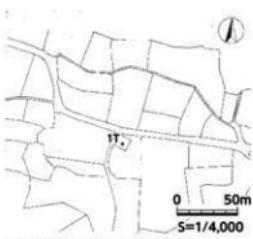
休甚高橋遺跡試掘トレンチ位置



1 トレンチ完掘状況



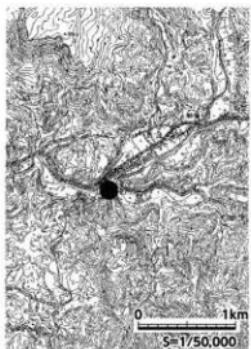
24-12 桃山遺跡



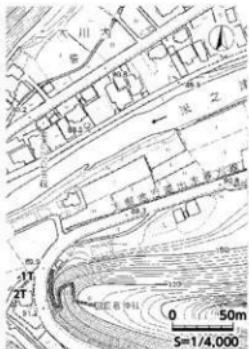
桃山遺跡試掘トレンチ位置



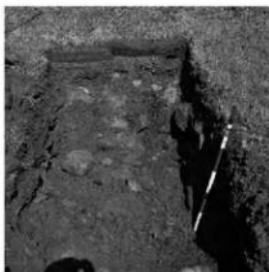
1 トレンチ完掘状況



24-13 流合A遺跡



流合 A 遺跡試掘 トレンチ位置



2 トレンチ完掘状況



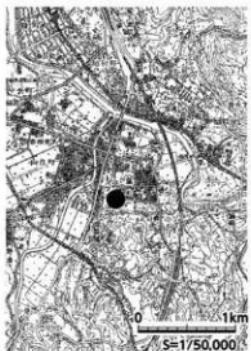
24-14 周知の遺跡外（下知識）



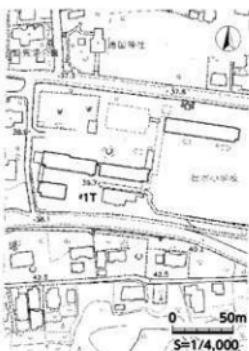
周知の遺跡外（下知識）トレンチ位置



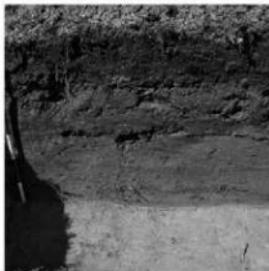
1 トレンチ完掘状況



24-15 周知の遺跡外（北町）



周知の遺跡外（北町）トレンチ位置



1 トレンチ完掘状況

第 55 図 平成 24 年度 市内試掘調査遺跡⑤



25-1 柴引遺跡群a (本迫地点)



柴引遺跡群a(本迫地点)試掘トレンチ位置



1トレンチ完掘状況



25-2 穴水遺跡



穴水遺跡試掘トレンチ位置



1トレンチ完掘状況



25-3 柴引遺跡群a (大和地点)



柴引遺跡群a(大和地点)試掘トレンチ位置



1トレンチ完掘状況

第 56 図 平成 25 年度 市内試掘調査遺跡①



25-4 柴引遺跡群a (大和地点)



柴引遺跡群a (大和地点) 試掘トレンチ位置



2トレンチ完掘状況



25-5 休次郎町遺跡



休次郎町遺跡試掘トレンチ位置



1トレンチ完掘状況



25-6 牟田尻遺跡

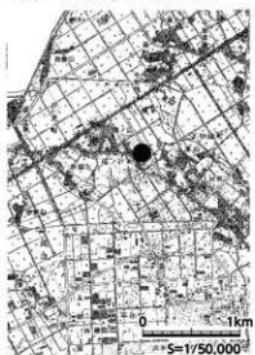
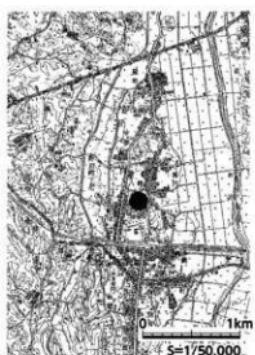


牟田尻遺跡試掘トレンチ位置



2トレンチ完掘状況

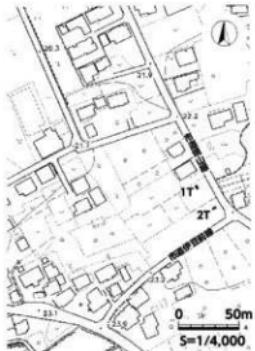
第 57 図 平成 25 年度 市内試掘調査遺跡②



第 58 図 平成 25 年度 市内試掘調査遺跡③



25-10 伊豆前遺跡



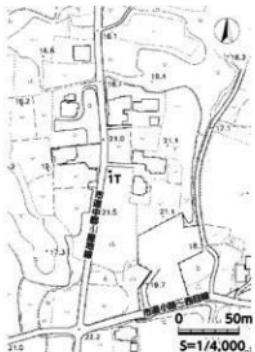
伊豆前遺跡試掘 トレンチ位置



1 トレンチ完掘状況



25-11 下名遺跡群（岡畑地点）



下名遺跡群（岡畑地点）試掘トレンチ位置



1 トレンチ完掘状況



25-12 御堂遺跡

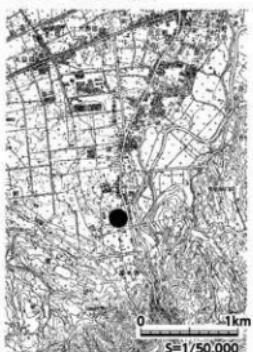
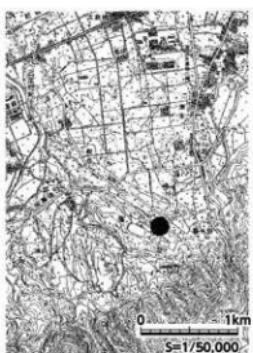
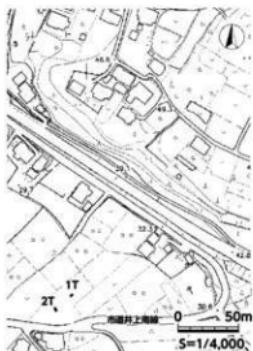
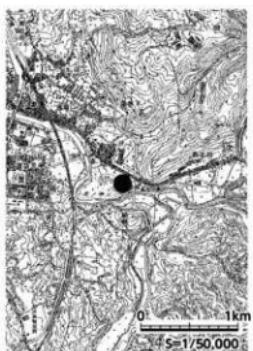


御堂遺跡試掘 トレンチ位置

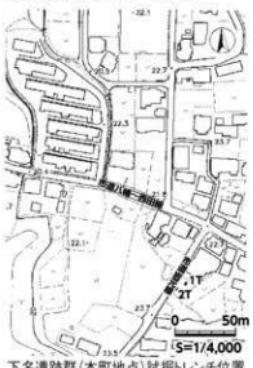
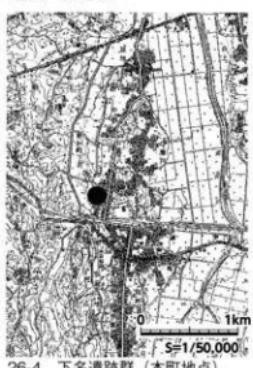


2 トレンチ完掘状況

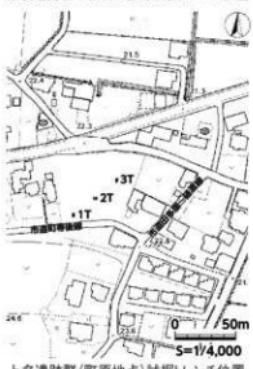
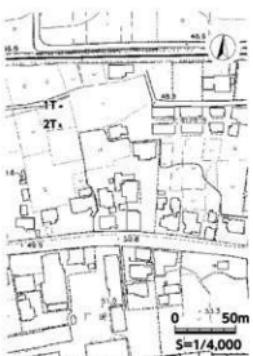
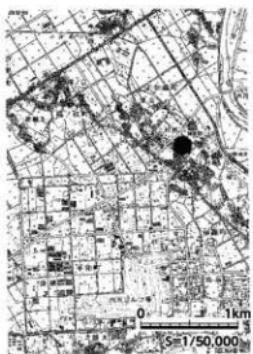
第 59 図 平成 25 年度 市内試掘調査遺跡④



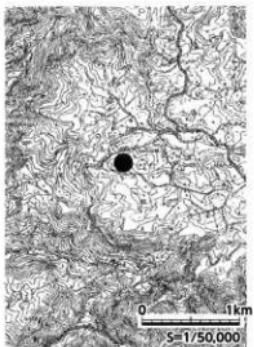
第60図 平成25年・26年度 市内試掘調査遺跡



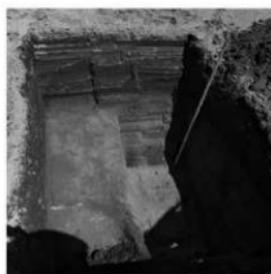
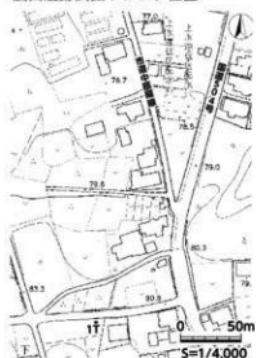
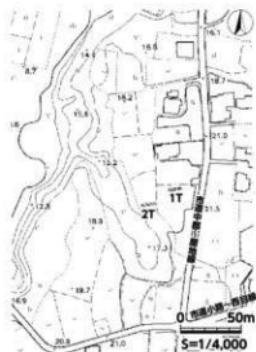
第61図 平成26年度 市内試掘調査遺跡①



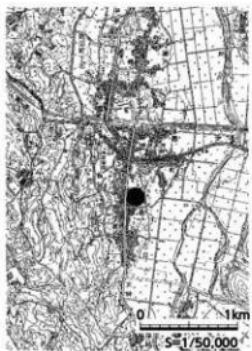
第62図 平成26年度 市内試掘調査遺跡②



第63図 平成26年度 市内試掘調査遺跡③



第64図 平成26年・27年度 市内試掘調査遺跡



第65図 平成27年度 市内試掘調査遺跡①



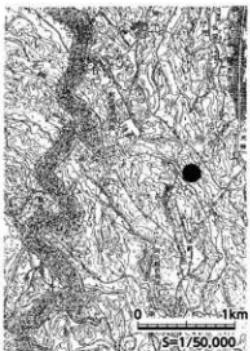
27-5 御堂遺跡（津山地点）



御堂遺跡（津山地点）試掘トレンチ位置



1トレンチ完掘状況



27-6 石倉A遺跡



石倉A試掘トレンチ位置



1トレンチ完掘状況



27-7 溝西遺跡



溝西遺跡試掘トレンチ位置



1トレンチ完掘状況



第67図 平成27年度 市内試掘調査遺跡③



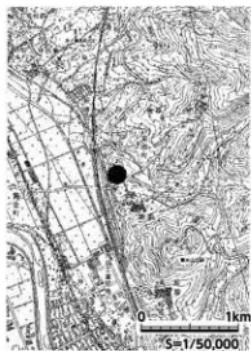
27-11 西堀遺跡



西堀遺跡試掘 トレンチ位置



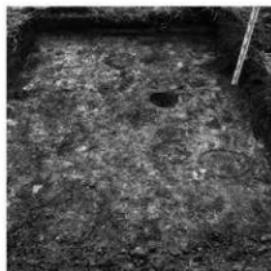
1 トレンチ完掘状況



27-12 朝熊城跡



朝熊城跡試掘 トレンチ位置



2 トレンチ遺構検出状況



27-13 野角遺跡

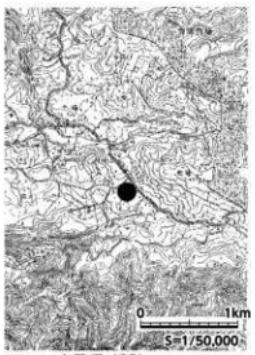


野角遺跡試掘 トレンチ位置

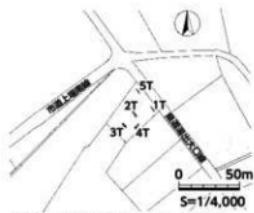


1 トレンチ遺構検出状況

第 68 図 平成 27 年度 市内試掘調査遺跡④



28-1 塙里塚A遺跡



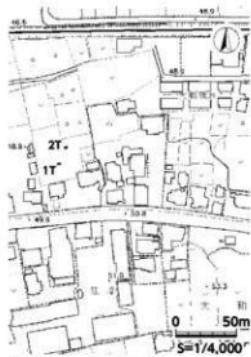
塙里塚A遺跡試掘トレンチ位置



5トレンチ完掘状況



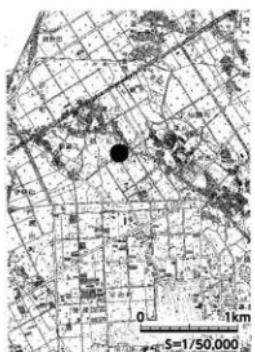
28-2 柴引遺跡群a（大和地点）



柴引遺跡群a(大和地点)試掘トレンチ位置



2トレンチ完掘状況



28-3 前原遺跡

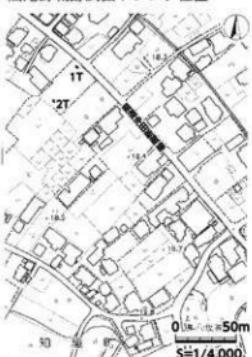
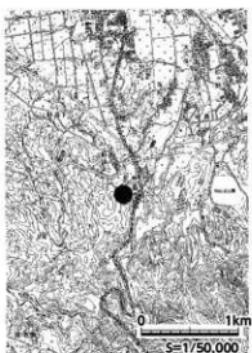
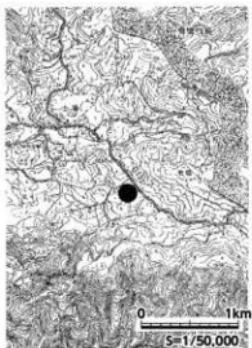


前原遺跡試掘トレンチ位置

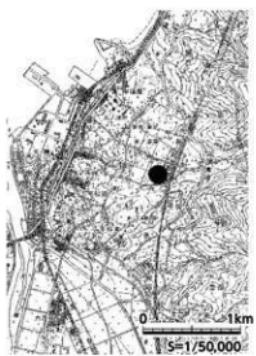
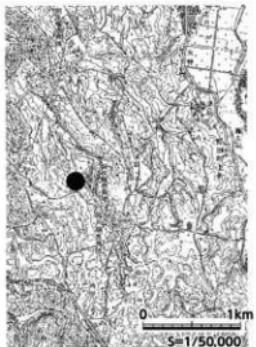


1トレンチ完掘状況

第69図 平成28年度 市内試掘調査遺跡①



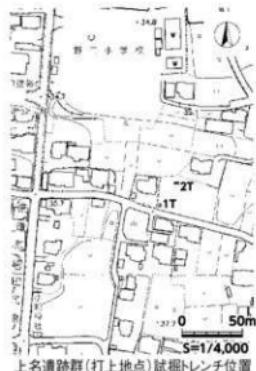
第 70 図 平成 28 年度 市内試掘調査遺跡②



第 71 図 平成 28 年度 市内試掘調査遺跡③



28-10 上名遺跡群(打上地点)



上名遺跡群(打上地点) 試掘トレンチ位置



1トレンチ完掘状況



28-11 山王西遺跡



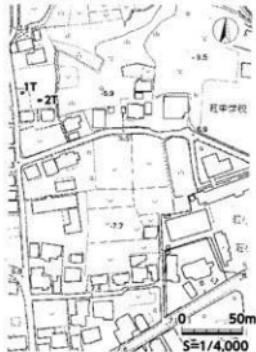
山王西遺跡試掘トレンチ位置



2トレンチ完掘状況



28-12 荘下遺跡

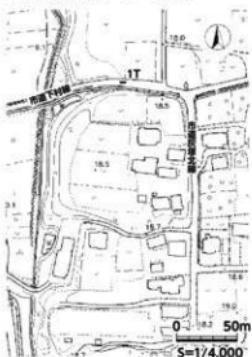
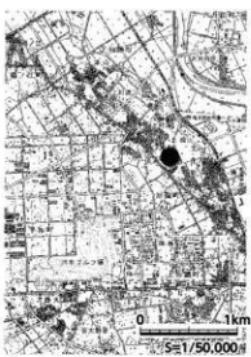
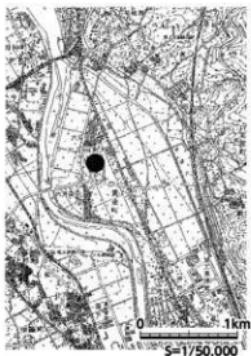


莊下遺跡試掘トレンチ位置

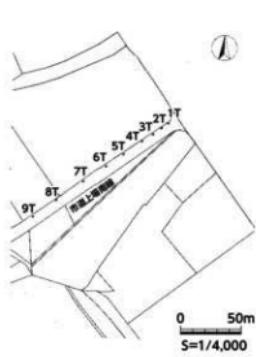
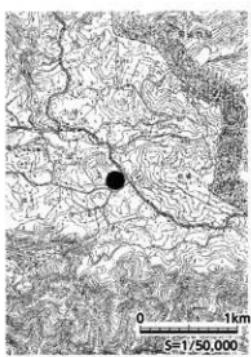
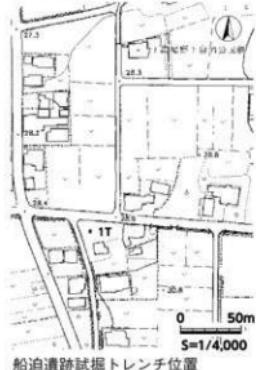


1トレンチ完掘状況

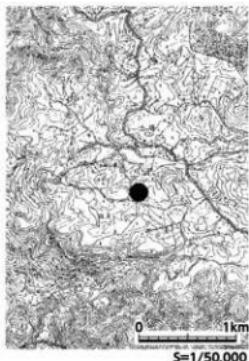
第72図 平成28年度 市内試掘調査遺跡④



第73図 平成28年・29年度 市内試掘調査遺跡



第 74 図 平成 29 年度 市内試掘調査遺跡①



29-6 妙賀段C遺跡



2 トレンチ完掘状況

第 75 図 平成 29 年度 市内試掘調査遺跡②

図版 1



曲輪A(梅ヶ段)1トレンチP1



曲輪A(梅ヶ段)2トレンチ遺構



曲輪B(水夫ヶ城)1トレンチ石列遺構

図版 2



曲輪B（水夫ヶ城）水2トレンチ遺構
確認半掘状況



曲輪B（水夫ヶ城）3トレンチ遺構



曲輪B（水夫ヶ城）4トレンチⅡ層キセル

図版 3



曲輪B(水夫ヶ城)4トレンチ遺構



曲輪B(水夫ヶ城)5トレンチ遺構



曲輪B(水夫ヶ城)6トレンチI層塙堀

図版 4



曲輪B(水夫ヶ城)6トレンチ遺構



曲輪B(水夫ヶ城)8T遺構



曲輪B(水夫ヶ城)8トレンチII層
古銭と軒丸瓦

図版 5



曲輪C (小松ヶ城) 1トレーニチ遺構



曲輪C (小松ヶ城) 2トレーニチI層染付



曲輪C (小松ヶ城) 2トレーニチ遺構

図版 6



曲輪C (小松ヶ城跡) 4トレンチ
サブトレンチ遺構



曲輪C (小松ヶ城跡) 5トレンチ遺構



曲輪D (捨殿ヶ城) 1トレンチII層
青磁集積遺構

図版 7



曲輪D（捨殿ヶ城）1トレンチII層
土師器集積遺構



曲輪D（捨殿ヶ城）1トレンチ遺構



曲輪F（住吉ヶ城）1トレンチI層瓦

図版 8



曲輪F (住吉ヶ城) 1トレンチ完掘



曲輪G1トレンチ遺構



曲輪G1トレンチII層白磁

図版 9



三木靖氏現地指導



木島孝之氏遺物指導



上田耕氏現地指導

図版 10



曲輪A(梅ヶ段)出土すり鉢・瓦



曲輪B(水夫ヶ城)出土皿

図版 11



曲輪B（水夫ヶ城）出土染付、陶器、瓦



曲輪B（水夫ヶ城）出土軒平瓦、軒丸瓦

図版 12

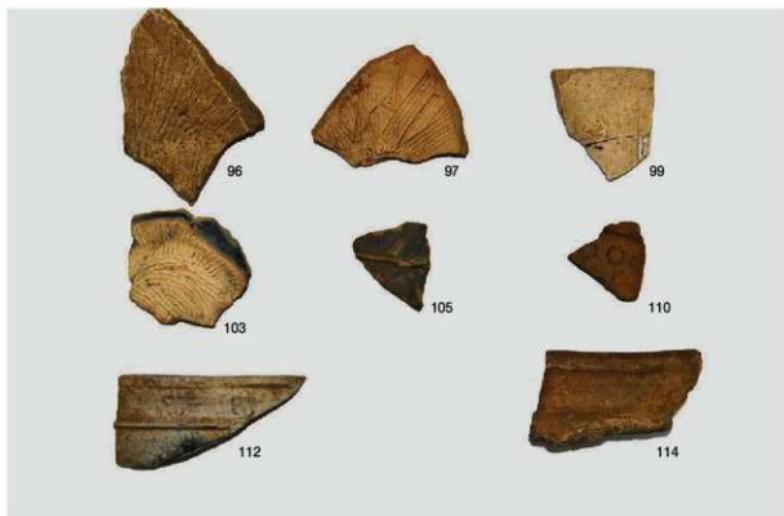


曲輪C(小松ヶ城)出土土師器、陶器類



曲輪C(小松ヶ城)出土青磁、白磁

図版 13



曲輪C(小松ヶ城)出土すり鉢、火鉢、甕壺類

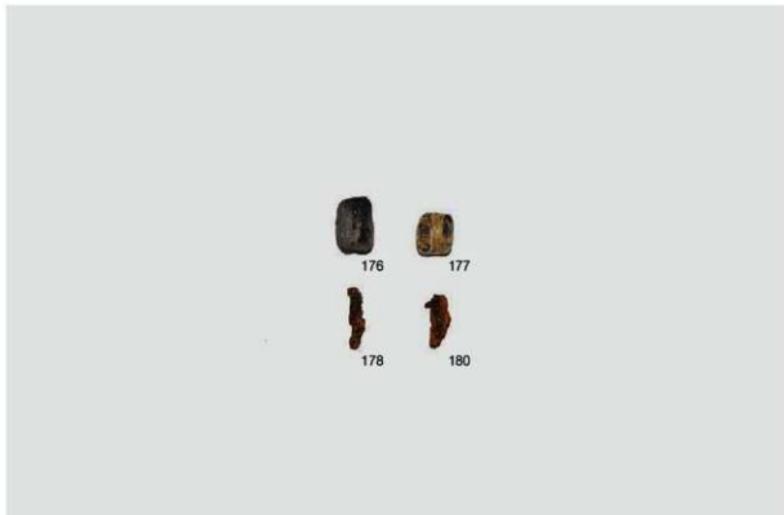


曲輪C(小松ヶ城)出土陶器類

図版 14



曲輪C(小松ヶ城)出土染付類



曲輪C(小松ヶ城)出土土錘、鉄製品

図版 15



曲輪D（捨殿ヶ城）出土土師器、陶器類



曲輪D（捨殿ヶ城）出土瓦質器

図版 16

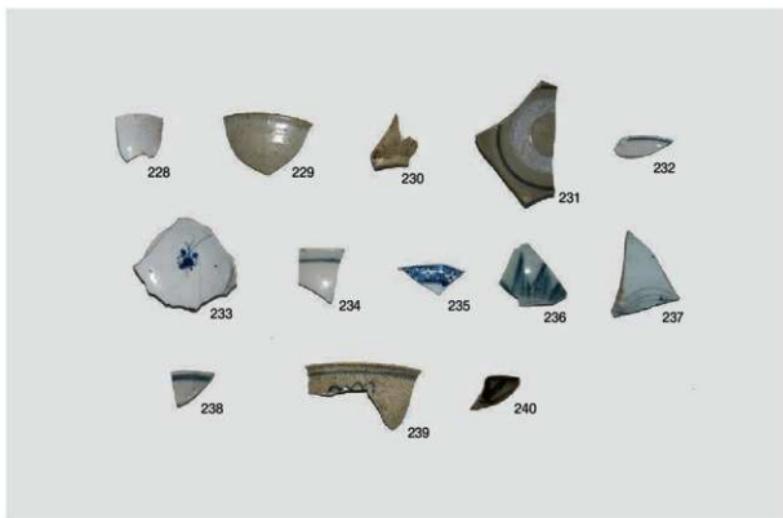


曲輪D (捨殿ヶ城) 出土陶器、瓦



曲輪F (住吉ヶ城) 出土土師器、瓦質器、陶器類

図版 17



曲輪F(住吉ヶ城)出土青磁、白磁、染付



曲輪G出土青磁、白磁

出水市埋蔵文化財発掘調査報告書（27）

市内遺跡（出水城跡他）発掘調査等報告書

2019年3月

発行 出水市教育委員会

〒 899-0292 鹿児島県出水市緑町1番3号

TEL 0996-63-2111

印刷 (有)文化印刷

〒 899-0217 鹿児島県出水市平和町127

TEL 0996-62-0568